

医師の働き方改革における 県内医療機関の状況等について

栃木県保健福祉部医療政策課

1 県内病院及び有床診療所の状況（1）

県内医療機関における医師の働き方改革に関する調査（実施期間：令和4（2022）年7月13日～8月10日）

項目	病院	有床診療所	合計
対象数	106	98	204
回答数	62	41	103
回答率	58%	42%	50%
宿日直許可の取得・申請状況			
必要な宿日直許可を取得済み	15	0	15
必要な宿日直許可を申請し、結果待ち	1	1	2
必要な宿日直許可の取得のために、申請の準備中	18	3	21
必要な宿日直許可の申請を予定しているが、具体的な準備には着手していない	15	7	22
宿日直許可を取得したいが、業務の性質に照らすと許可取得は困難と考えている	5	0	5
宿日直許可取得の必要がないため、取得意向はない	5	25	30
宿日直許可が必要かわからない	3	4	7
労働時間数の把握			
副業・兼業先を含めて把握している	34	27	61
把握していない	28	14	42
時間外労働年960時間超の医師の有無			
いる	6	0	6
いない	52	38	90
わからない	4	3	7
時間外労働年1,860時間超の医師の有無			
いる	0	0	0
いない	61	38	99
わからない	1	3	4

1 県内病院及び有床診療所の状況（2）

項目	病院	有床診療所	合計
特定労務管理対象機関指定への意向			
指定の意向あり	5	0	5
検討中	4	2	6
指定の意向なし → A水準	48	35	83
わからない	5	4	9
特定労務管理対象機関指定の種別（複数回答）			
B水準	5	0	5
連携B水準	3	0	3
C-1水準	2	0	2
他院からの医師の受入れの有無			
受け入れている	57	23	80
受け入っていない	5	18	23
医師派遣の見直し意向（受入側）			
打診された、又は、打診された診療科がある	4	1	5
打診されていない	52	20	72

「他院からの医師を受け入れている」が、「宿日直許可の申請に取り組んでいない」医療機関は、医師の働き方改革により、診療体制を縮小するなど、医療提供体制を変更する可能性がある



→ 地域医療構想の実現に影響が出てくる

2 宇都宮地域の病院及び有床診療所の状況（1）

県内医療機関における医師の働き方改革に関する調査（実施期間：令和4（2022）年7月13日～8月10日）

項目	病院	有床診療所	合計
対象数	33	33	66
回答数	16	10	26
回答率	48%	30%	39%
宿日直許可の取得・申請状況			
必要な宿日直許可を取得済み	2	0	2
必要な宿日直許可を申請し、結果待ち	0	0	0
必要な宿日直許可の取得のために、申請の準備中	4	1	5
必要な宿日直許可の申請を予定しているが、具体的な準備には着手していない	4	3	7
宿日直許可を取得したいが、業務の性質に照らすと許可取得は困難と考えている	2	0	2
宿日直許可取得の必要がないため、取得意向はない	3	4	7
宿日直許可が必要かわからない	1	1	2
労働時間数の把握			
副業・兼業先を含めて把握している	8	7	15
把握していない	8	3	11
時間外労働年960時間超の医師の有無			
いる	2	0	2
いない	14	9	23
わからない	0	1	1
時間外労働年1,860時間超の医師の有無			
いる	0	0	0
いない	16	9	25
わからない	0	1	1 ³

2 宇都宮地域の病院及び有床診療所の状況（2）

項目	病院	有床診療所	合計
特定労務管理対象機関指定への意向			
指定の意向あり	1	0	1
検討中	0	1	1
指定の意向なし → A水準	11	7	18
わからない	4	2	6
特定労務理対象機関指定の種別（複数回答）			
B水準	1	0	1
連携B水準	0	0	0
C-1水準	0	0	0
他院からの医師の受入れの有無			
受け入れている	12	8	20
受け入っていない	4	2	6
医師派遣の見直し意向（受入側）			
打診された、又は、打診された診療科がある	0	0	0
打診されていない	12	7	19

病院・有床診療所ともに、時間外労働が年960時間を超える医師は少ない状況ではあるが、他院からの医師を受け入れている病院・有床診療所が多く見受けられる。

→ 宇都宮地域の地域医療構想の実現に向けて、各医療機関は医師の労働時間の把握や宿日直許可の申請を進める必要がある。

2 宇都宮地域の病院及び有床診療所の状況（2）

今後の対応

R4. 12月以降 地域医療構想調整会議

- ・ 各地域の病院及び有床診療所の状況を提示

R5. 3月以降 地域医療構想調整会議、病院及び有床診療所会議

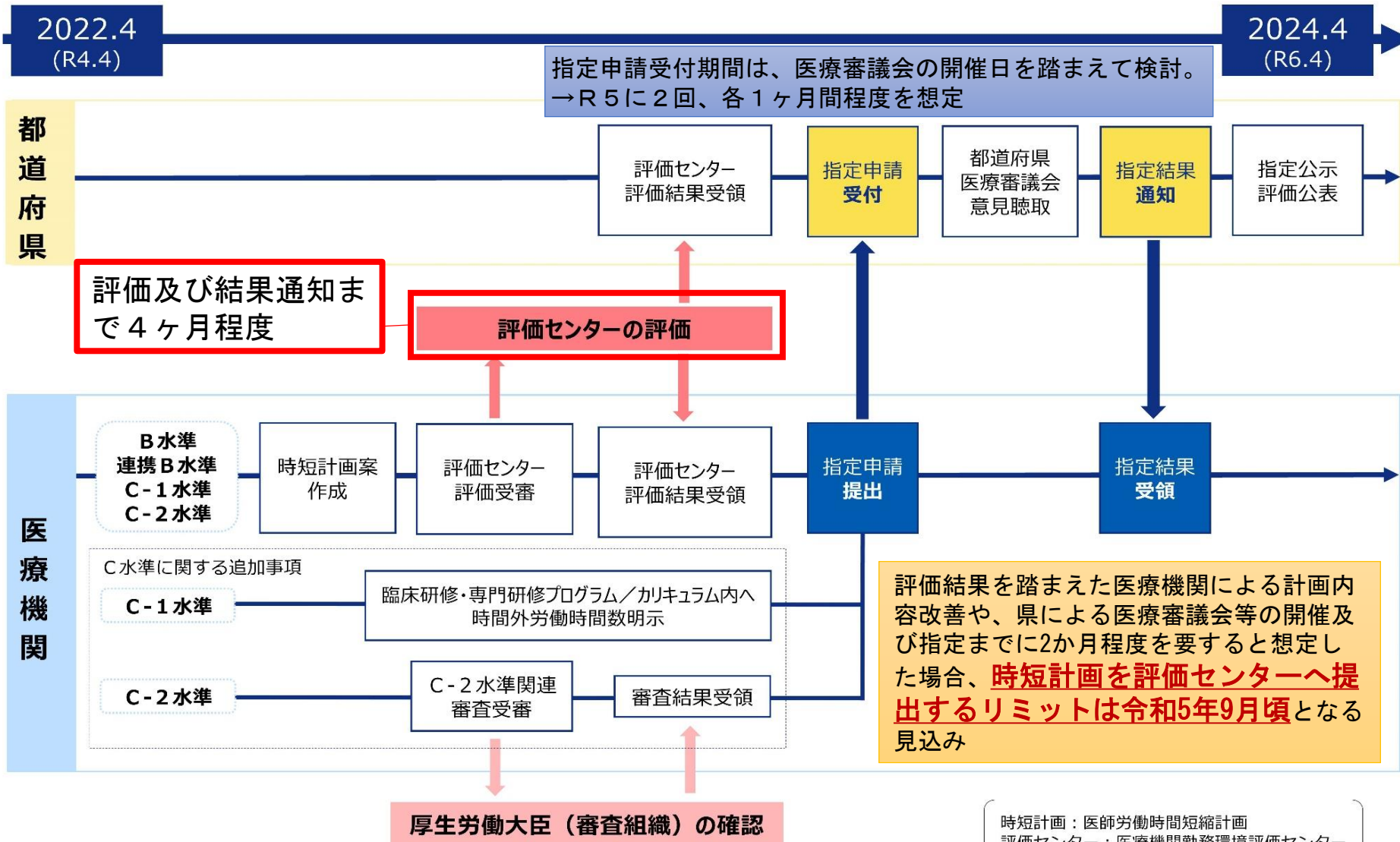
- ・ 主な医療機関から「具体的対応方針」とあわせて
医師の働き方改革の影響等（院内の体制や派遣元
との調整状況、宿日直許可の取得状況など）につ
いて説明

3 特定労務管理対象期間の指定に係る都道府県・医療機関の手続の流れ

厚生労働省「「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律」の一部施行等について」（一部加筆）

(別紙)

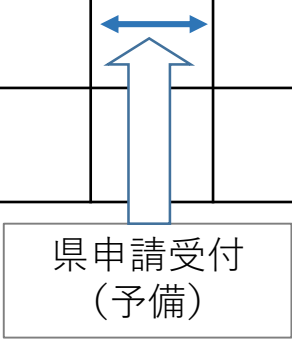
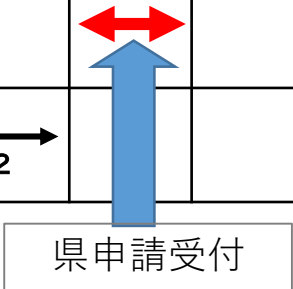
特定労務管理対象機関の指定に係る都道府県・医療機関の手続の流れ



3 特定労務管理対象期間の指定に係る都道府県・医療機関の手続の流れ

令和5年度における県医療審議会開催予定及び県申請受付予定

	R4年度		R5年度												
	12月	1~3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
指定・公示													●		●
会議															
医療審議会	●											●			●
地対協※ ※C-1水準について議論。												●			●
調整会議 病診会議						←→			←→						
県申請受付															
評価センター	←→ ※1				←→ ※2										



※1 : 「県申請受付」の期間に指定申請を提出するための評価センターへの時短計画提出時期の目安
 ※2 : 「(予備)」の期間に指定申請を提出するための評価センターへの時短計画提出時期の目安

患者調査を用いた推計患者数の推移

医療政策課

分析方法

- 『平成29年患者調査（厚生労働省）』の都道府県受療率及び『日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）』の各年（2015年～2045年の5年おき）10月1日時点の推計人口（2015年は国勢調査実績値）を用いて、各年の患者数を推計した。
- 構想区域ごとの人口については、各構想区域を構成する市町の人口を合計している。
- なお、本分析においては、『平成29年患者調査（厚生労働省）』の受療率を用いており、受療率の変化を考慮していないことに留意する必要がある。
- 受療率 = 推計患者数 / 推計人口 × 100,000

疾病分類

傷病大分類	傷病小分類
I 感染症及び寄生虫症	<ul style="list-style-type: none"> 腸管感染症 結核 皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患 真菌症 その他の感染症及び寄生虫症
II 新生物<腫瘍>	<ul style="list-style-type: none"> (悪性新生物<腫瘍>) (再掲) 胃の悪性新生物<腫瘍> 結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍> 気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍> その他の悪性新生物<腫瘍> 良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物<腫瘍>
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	<ul style="list-style-type: none"> 貧血 その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害
IV 内分泌, 栄養及び代謝疾患	<ul style="list-style-type: none"> 甲状腺障害 糖尿病 脂質異常症 その他の内分泌, 栄養及び代謝疾患
V 精神及び行動の障害	<ul style="list-style-type: none"> 統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害 気分 [感情] 障害 (躁うつ病を含む) 神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害 その他の精神及び行動の障害

傷病大分類	傷病小分類
VI 神経系の疾患	
VII 眼及び付属器の疾患	<ul style="list-style-type: none"> 白内障 その他の眼及び付属器の疾患
VIII 耳及び乳様突起の疾患	<ul style="list-style-type: none"> 外耳疾患 中耳炎 その他の中耳及び乳様突起の疾患 内耳疾患 その他の耳疾患
IX 循環器系の疾患	<ul style="list-style-type: none"> 高血圧性疾患 (心疾患 (高血圧性のものを除く) (再掲)) 虚血性心疾患 その他の心疾患 (脳血管疾患) (再掲) 脳梗塞 その他の脳血管疾患 その他の循環器系の疾患
X 呼吸器系の疾患	<ul style="list-style-type: none"> 急性上気道感染症 肺炎 急性気管支炎及び急性細気管支炎 気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患 喘息 その他の呼吸器系の疾患

疾病分類

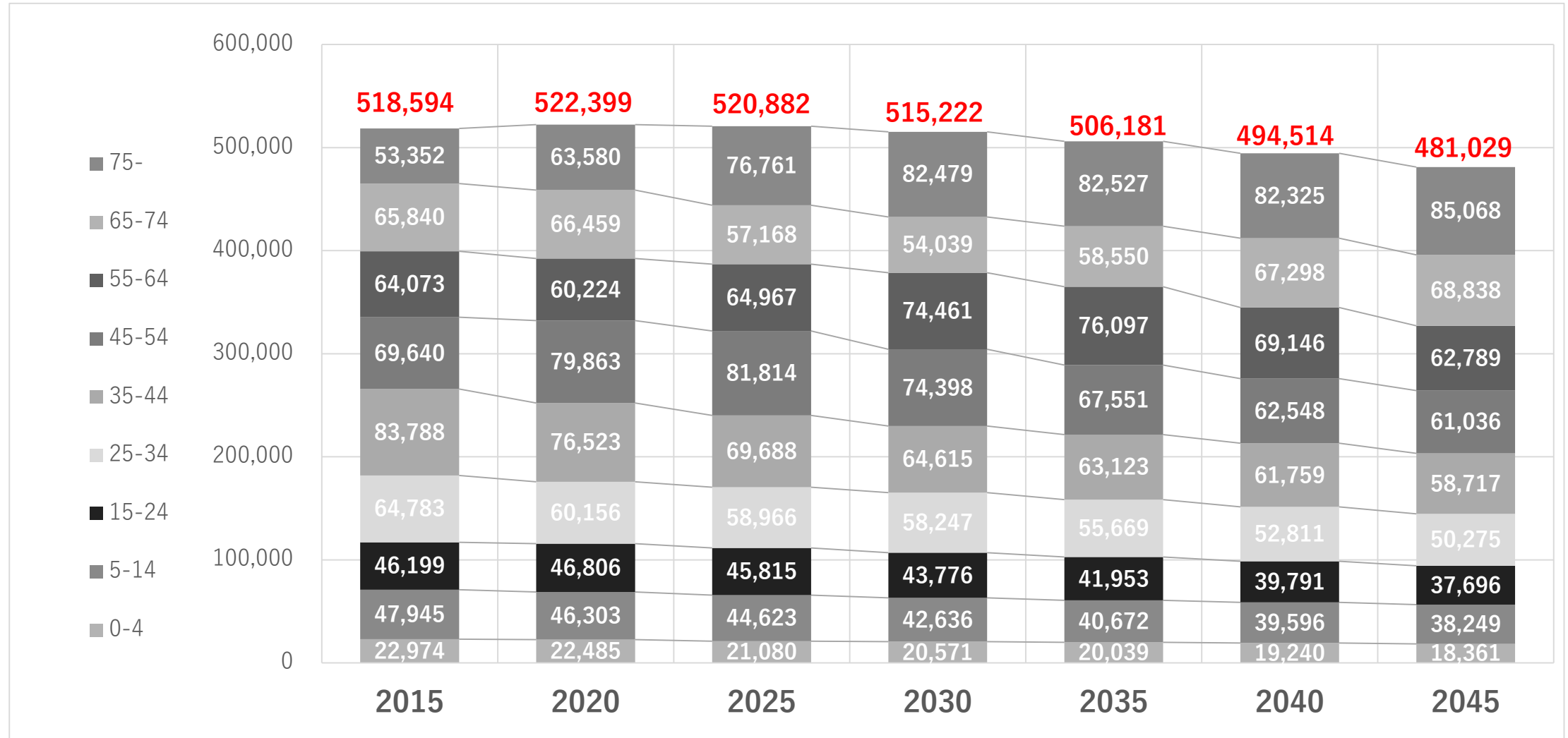
傷病大分類	傷病小分類
X I 消化器系の疾患	<ul style="list-style-type: none"> う蝕 歯肉炎及び歯周疾患 その他の歯及び歯の支持組織の障害 胃潰瘍及び十二指腸潰瘍 胃炎及び十二指腸炎 肝疾患 その他の消化器系の疾患
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	<ul style="list-style-type: none"> 炎症性多発性関節障害 脊柱障害 骨の密度及び構造の障害 その他の筋骨格系及び結合組織の疾患
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	<ul style="list-style-type: none"> 糸球体疾患，腎尿細管間質性疾患及び腎不全 乳房及び女性生殖器の疾患 その他の腎尿路生殖器系の疾患
X V 妊娠，分娩及び産じょく	<ul style="list-style-type: none"> 流産 妊娠高血圧症候群 単胎自然分娩 その他の妊娠，分娩及び産じょく
X VI 周産期に発生した病態	

傷病大分類	傷病小分類
X VII 先天奇形，変形及び染色体異常	
X VIII 症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	
X IX 損傷，中毒及びその他の外因の影響	<ul style="list-style-type: none"> 骨折 その他の損傷，中毒及びその他の外因の影響
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	<ul style="list-style-type: none"> 正常妊娠・産じょくの管理 歯の補てつ その他の保健サービス

宇都宮

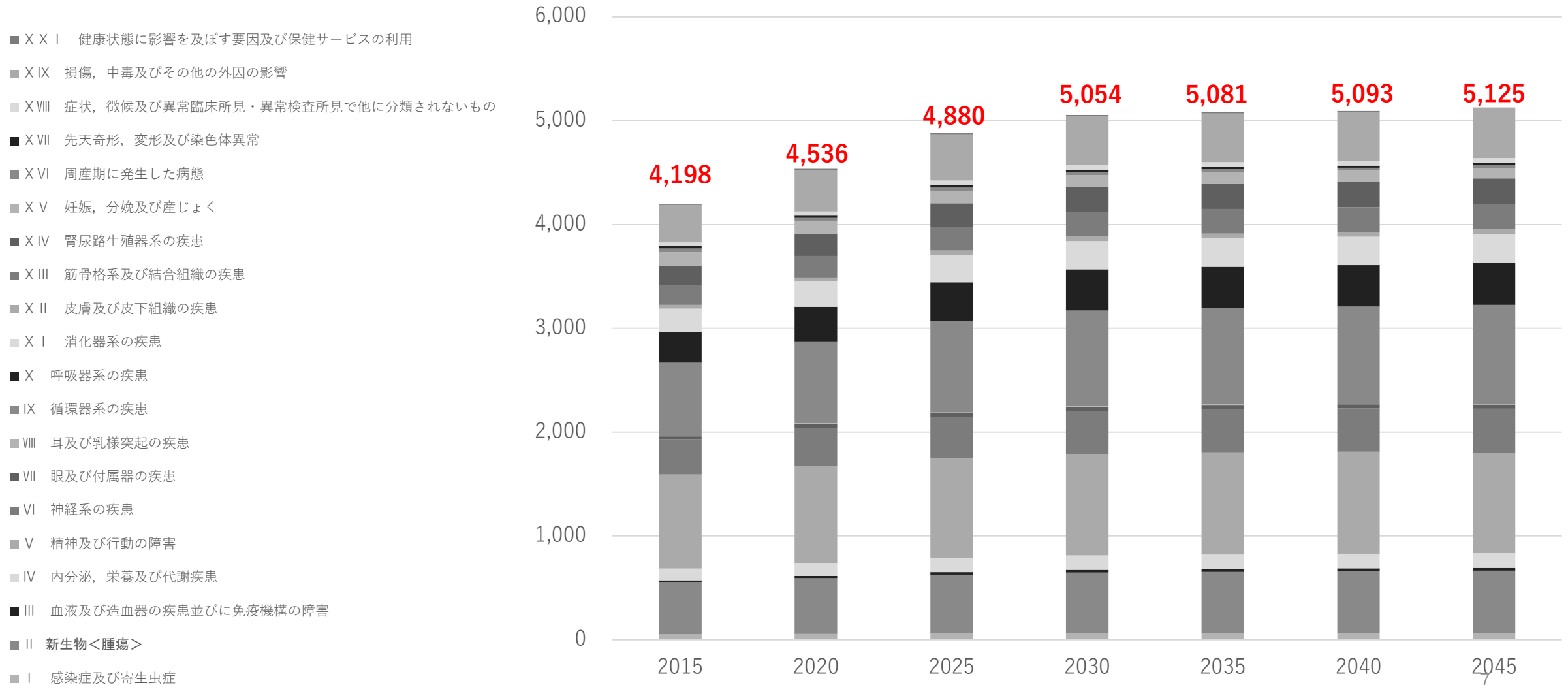
人口推計（宇都宮）

宇都宮医療圏の人口は2020年に522,399人でピークを迎えた後、減少傾向となり、2045年には481,029人となる（2020年比-41,370人）。

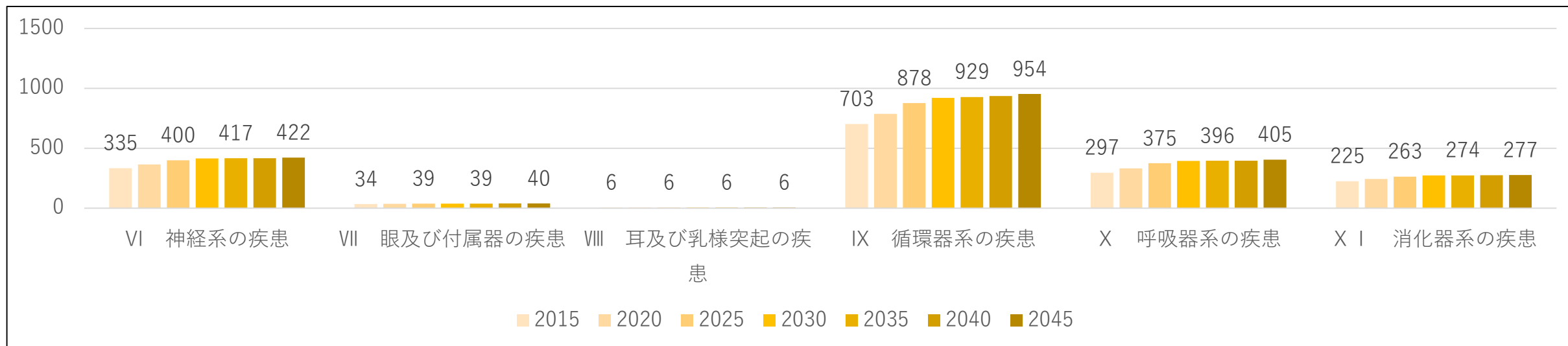
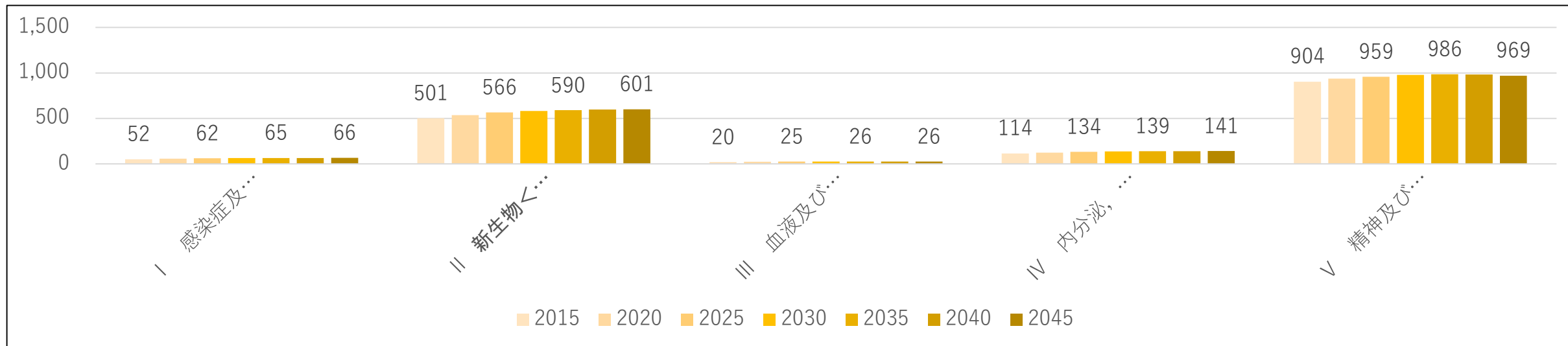


推計患者数推移（宇都宮・入院）

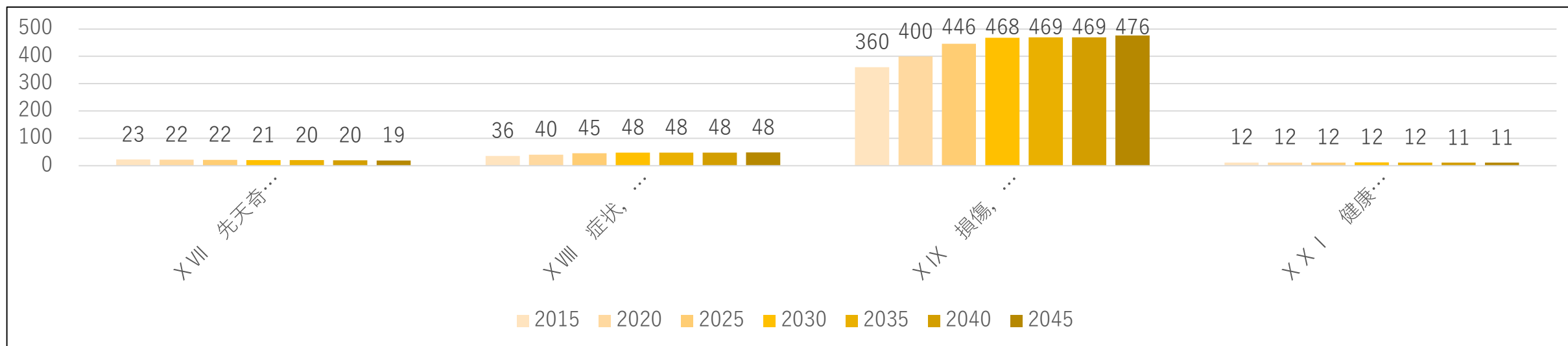
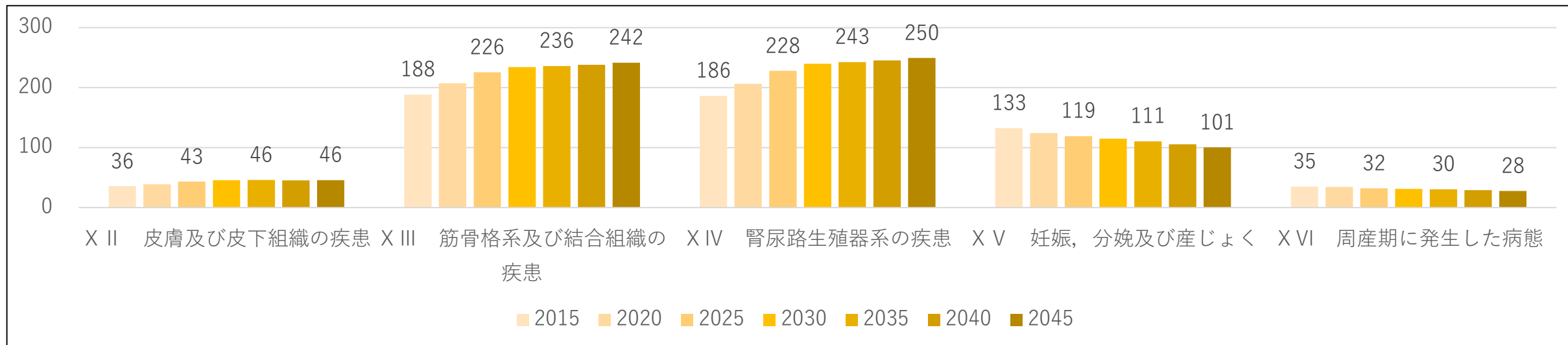
宇都宮医療圏の入院の推計患者数は2045年以降にピークを迎え、2015年と2045年を比較すると、927人増加する。



疾病別推計患者数推移（宇都宮・入院）

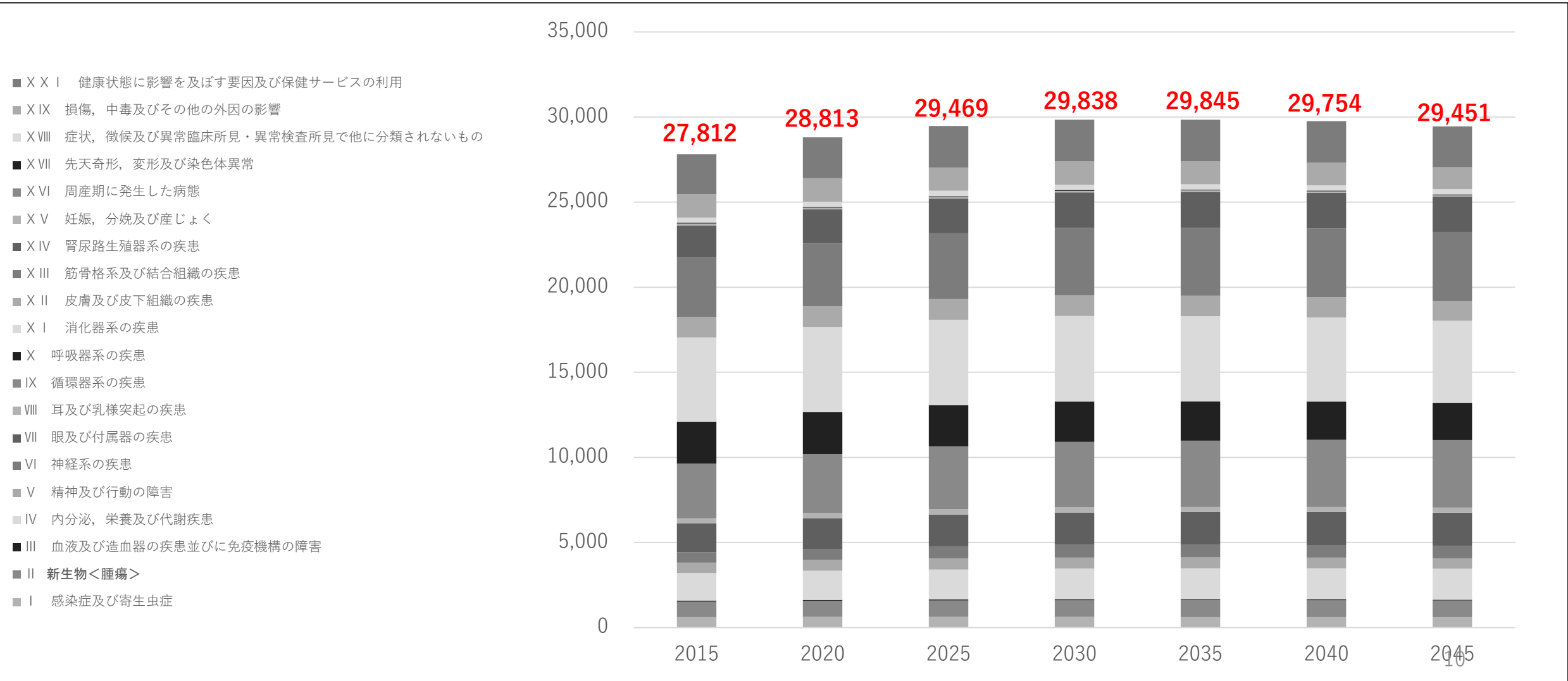


疾病別推計患者数推移（宇都宮・入院）

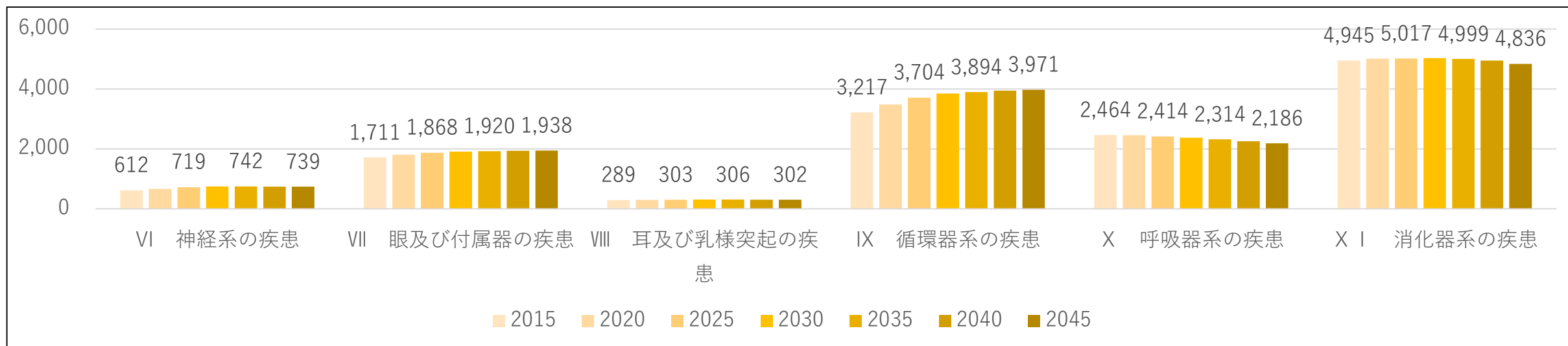
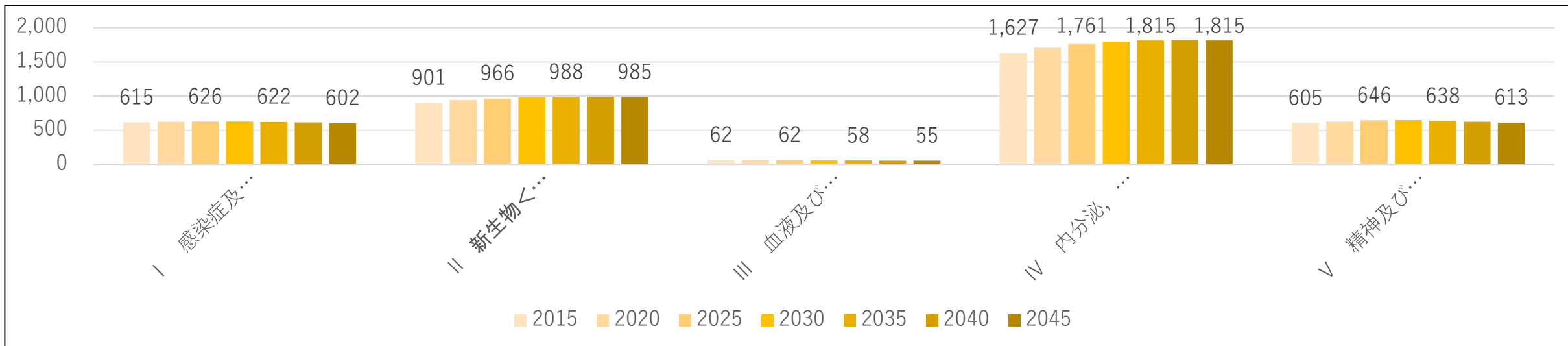


推計患者数推移（宇都宮・外来）

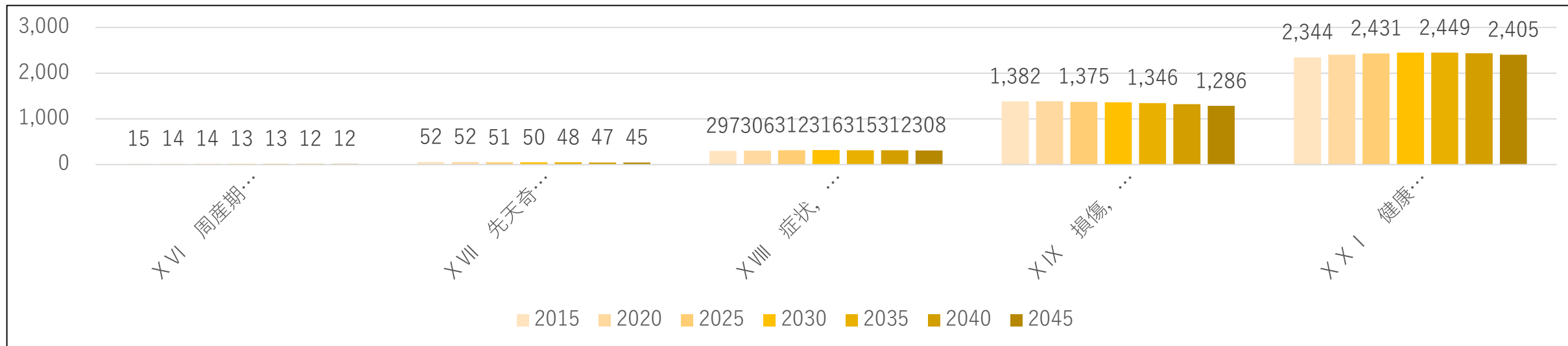
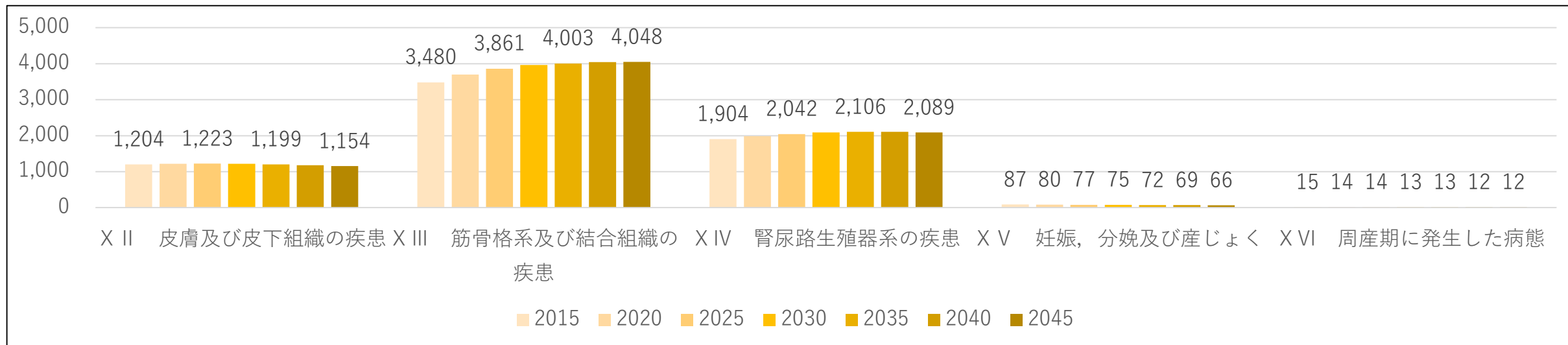
宇都宮医療圏の外来の推計患者数は2035年に29,845人でピークを迎えた後、減少傾向となり、2045年には29,451人となる。



疾病別推計患者数推移（宇都宮・外来）



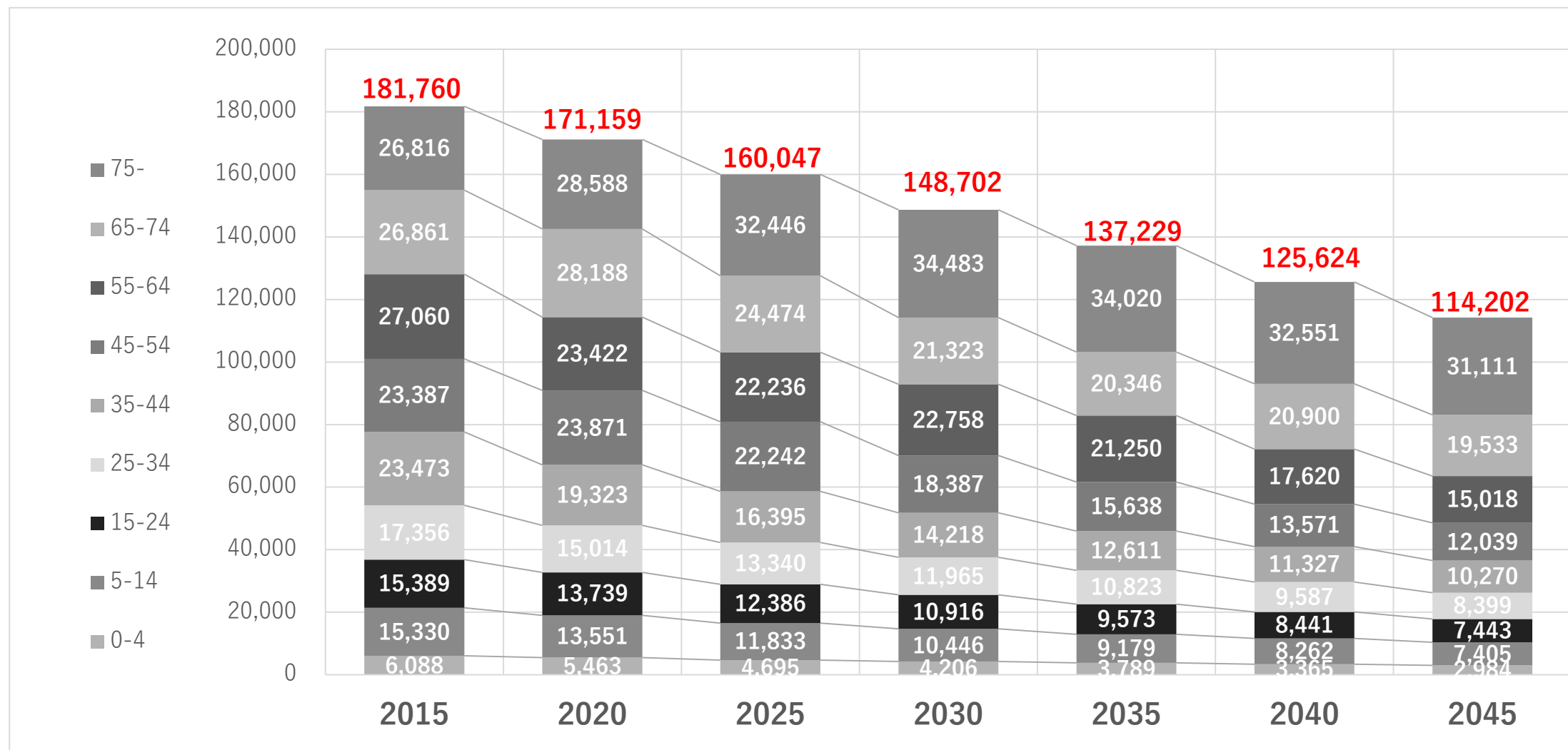
疾病別推計患者数推移（宇都宮・外来）



西
県

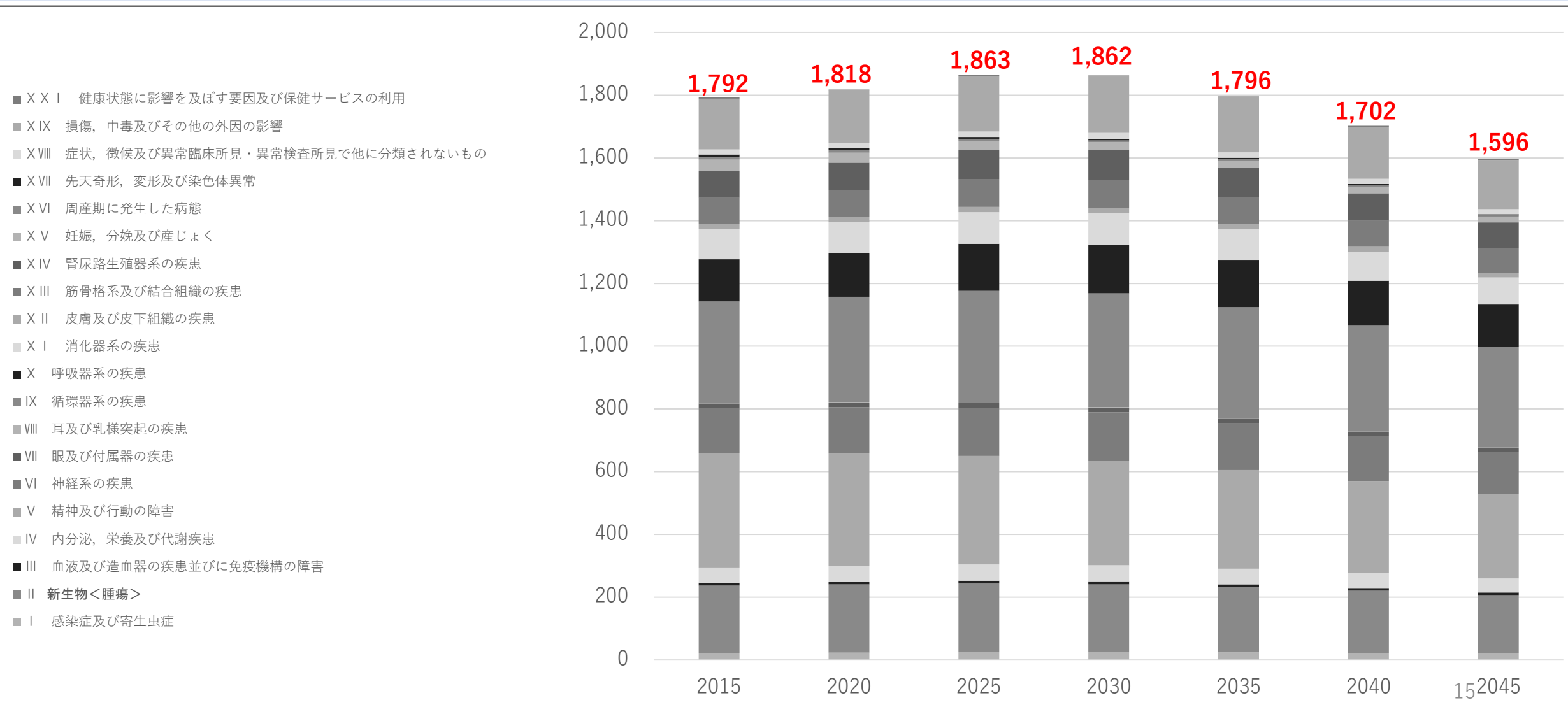
人口推計（県西）

県西医療圏の人口はすでに減少傾向となっており、2045年には114,202人となる（2020年比-67,558人）。

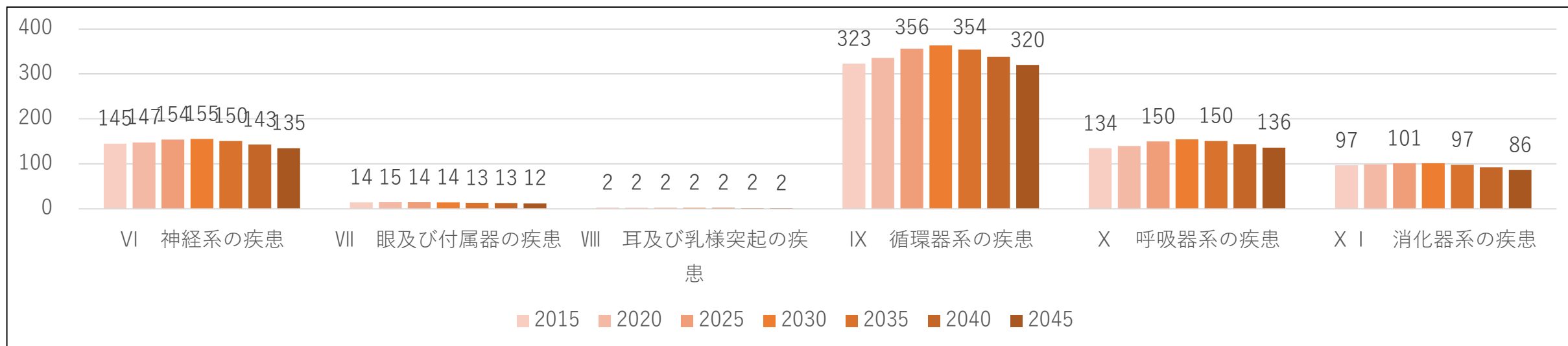
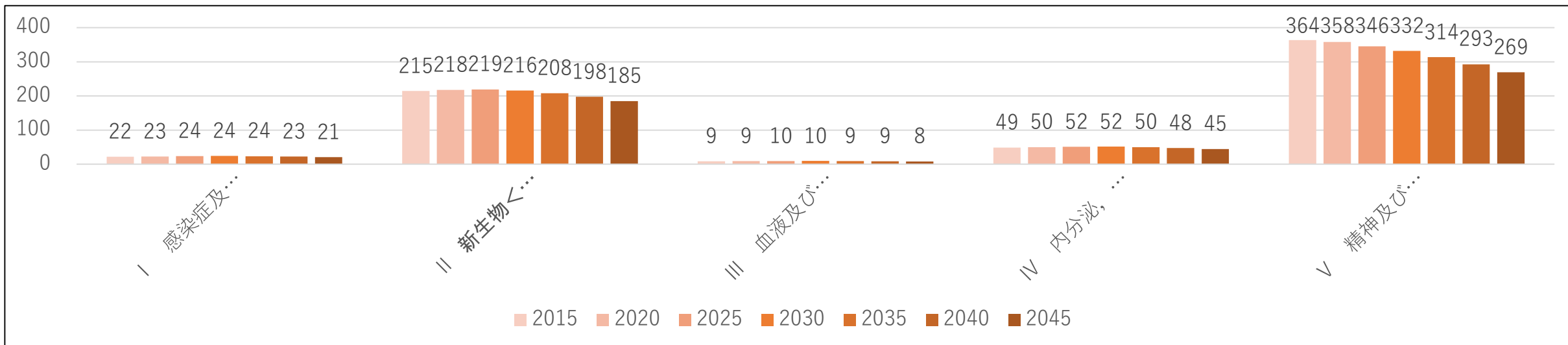


疾病別推計患者数推移（県西・入院）

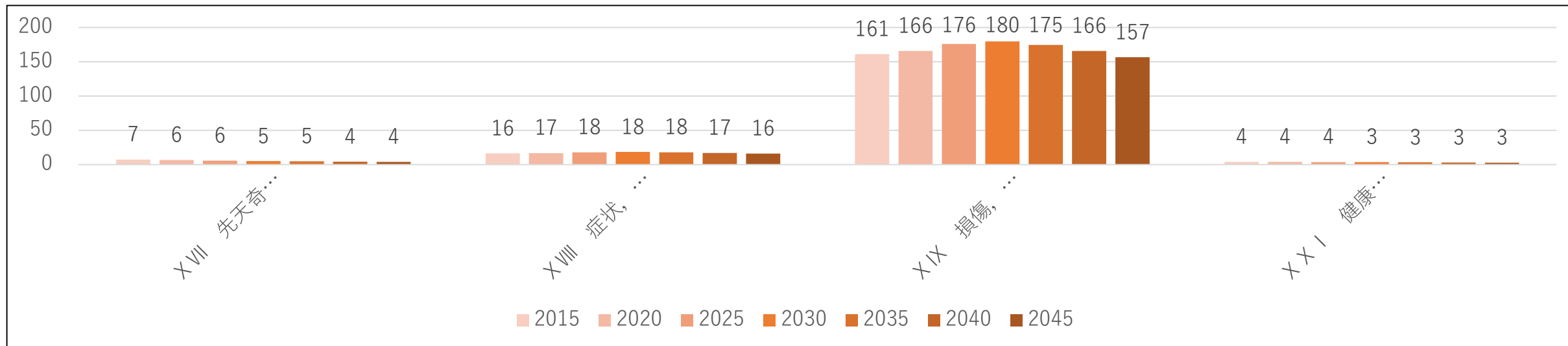
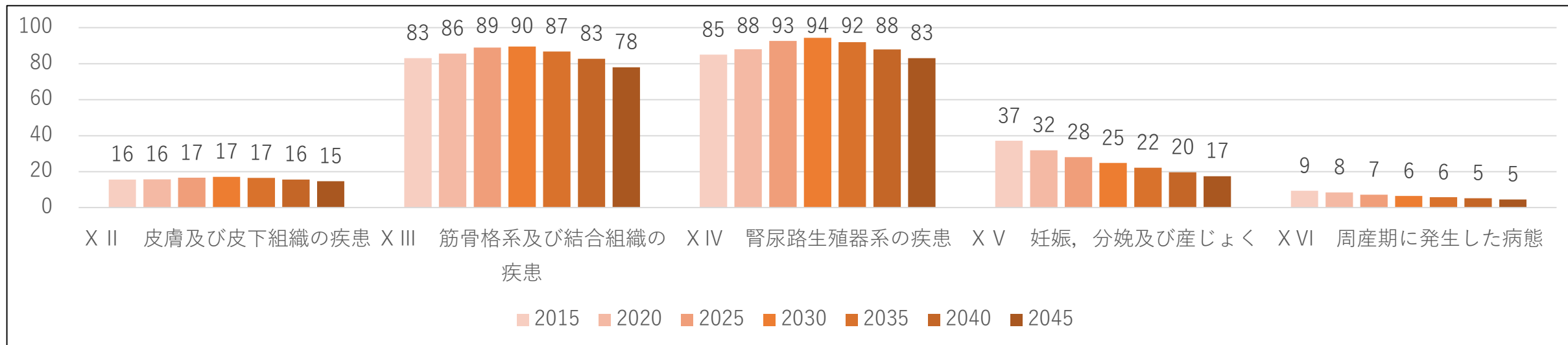
県西医療圏の入院の推計患者数は2025年に1,863人でピークを迎えた後、減少傾向となり、2045年には1,596人となる。



疾病別推計患者数推移（県西・入院）

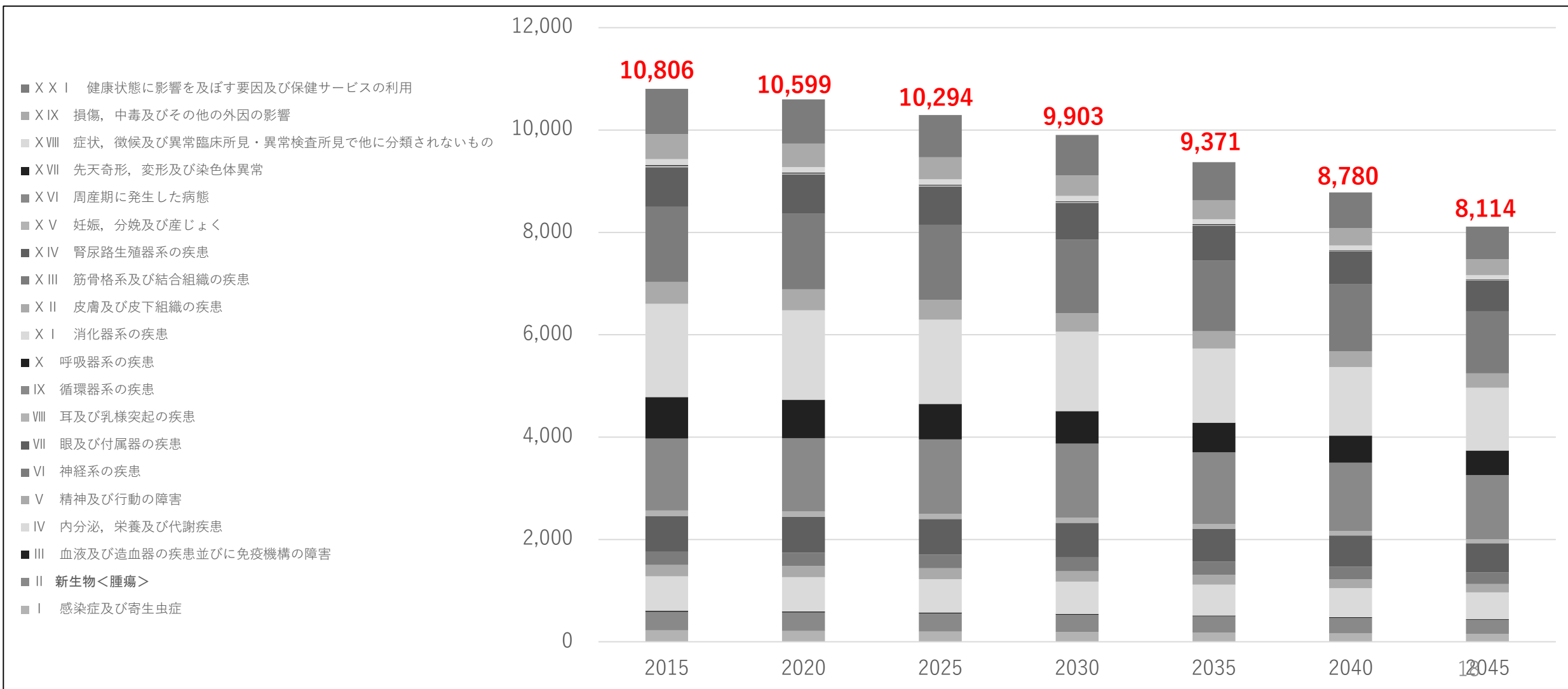


疾病別推計患者数推移（県西・入院）

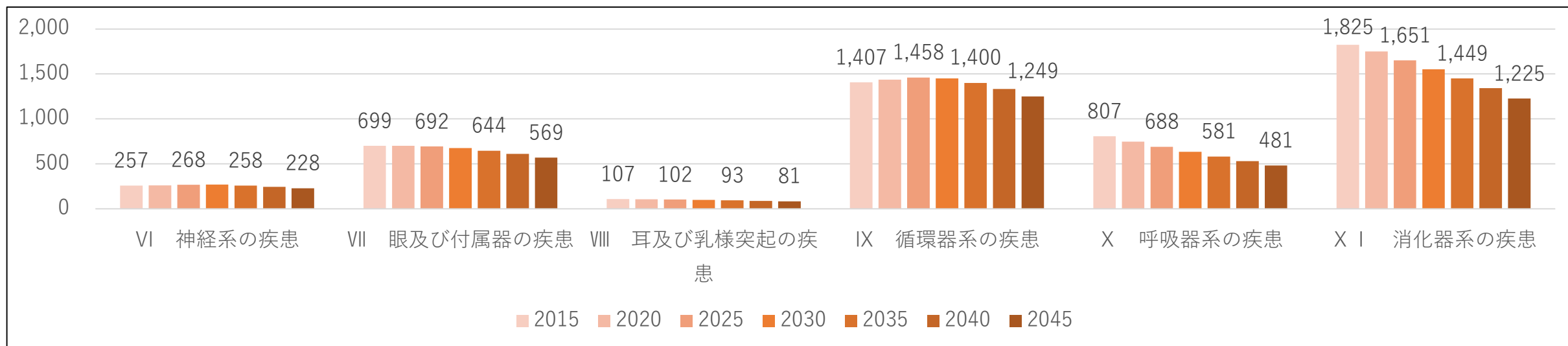
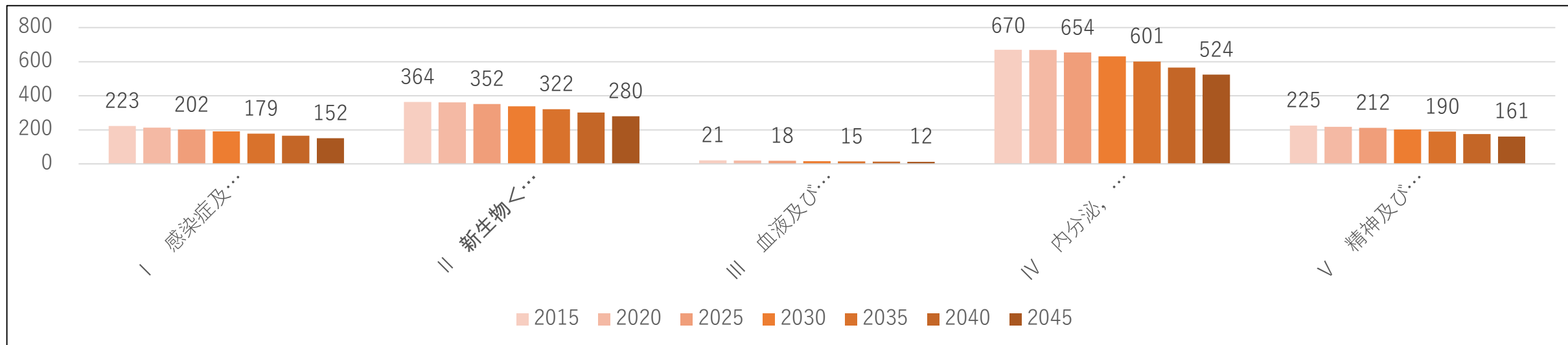


推計患者数推移（県西・外来）

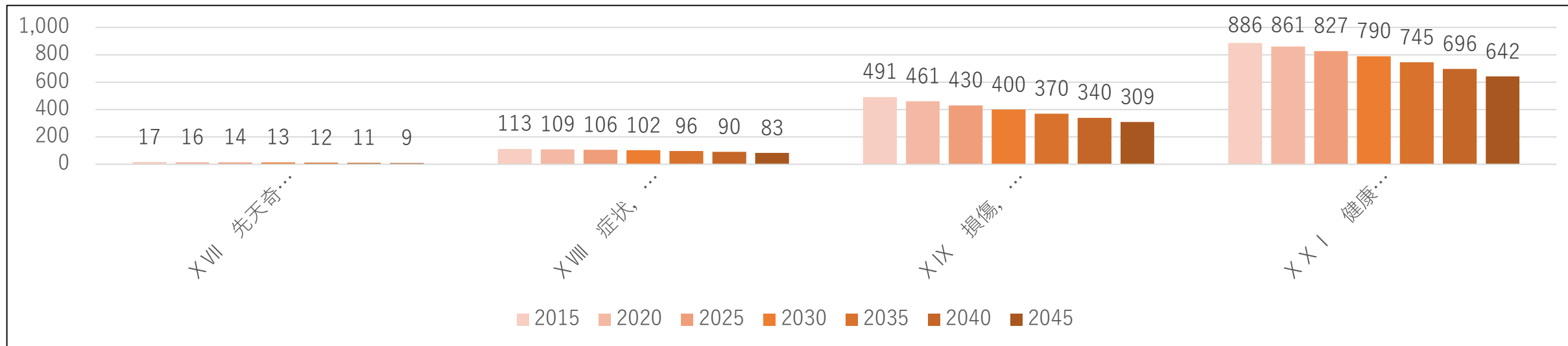
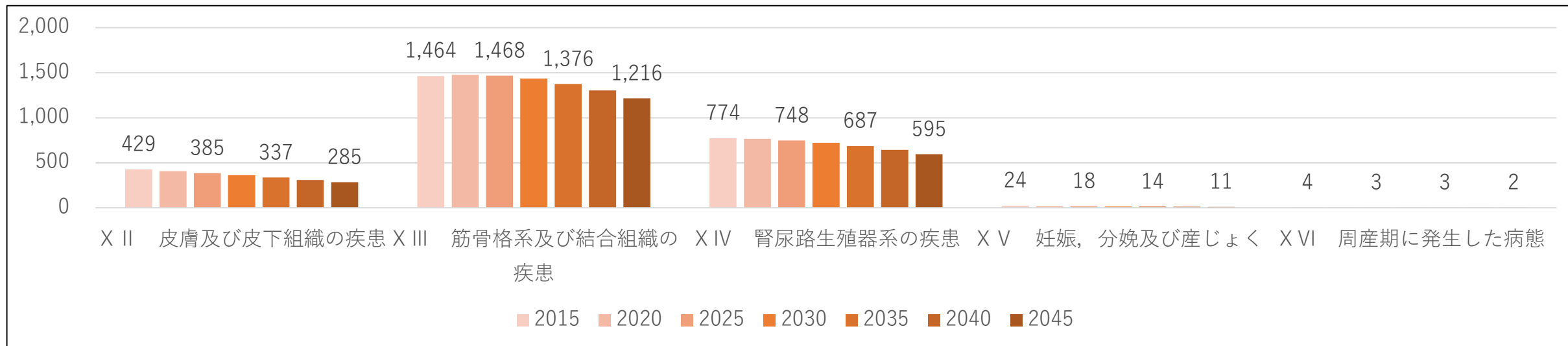
県西医療圏の外来の推計患者数はすでに減少傾向となっており、2045年には8,114人となる。（2015年比-2,692人）。



疾病別推計患者数推移（県西・外来）



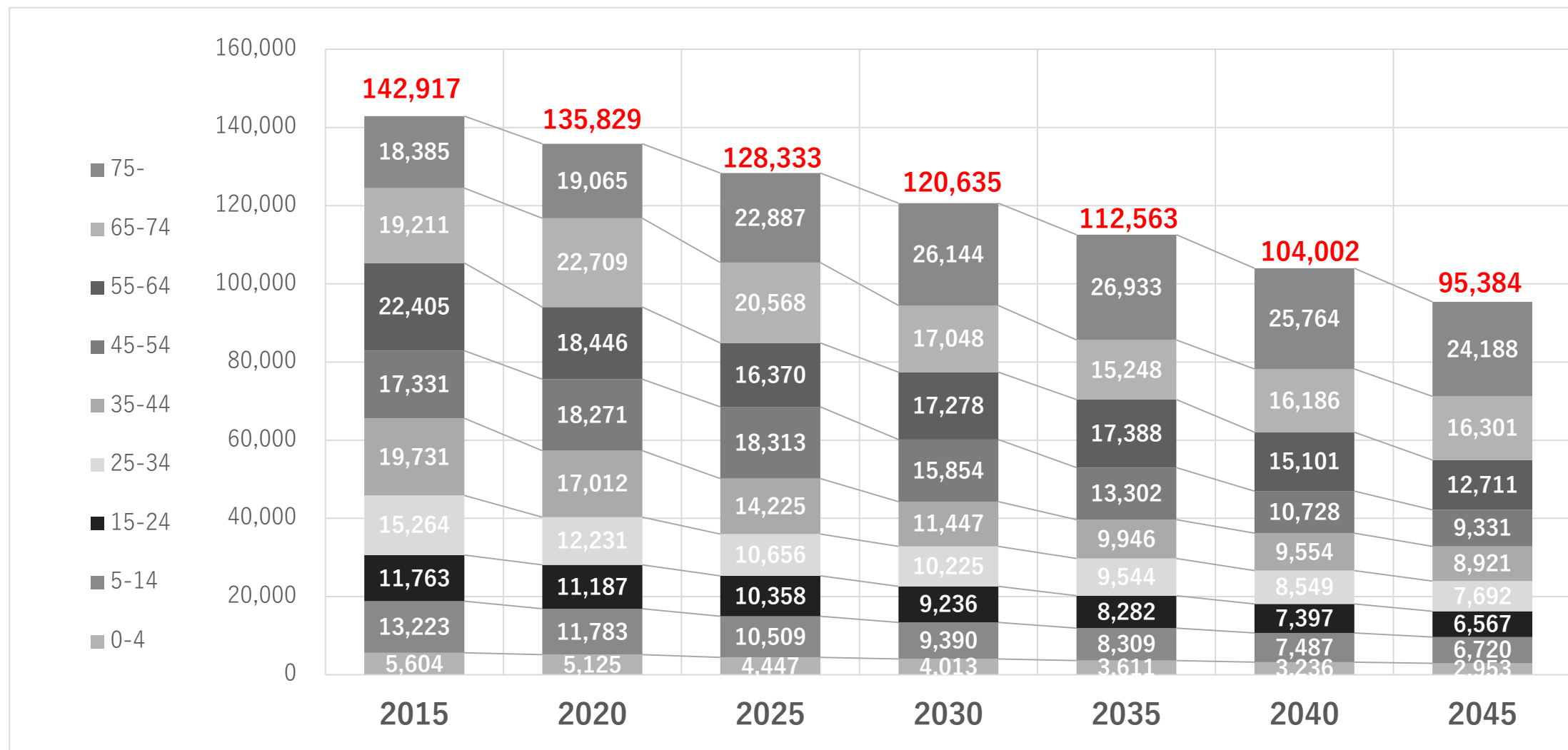
疾病別推計患者数推移（県西・外来）



県東

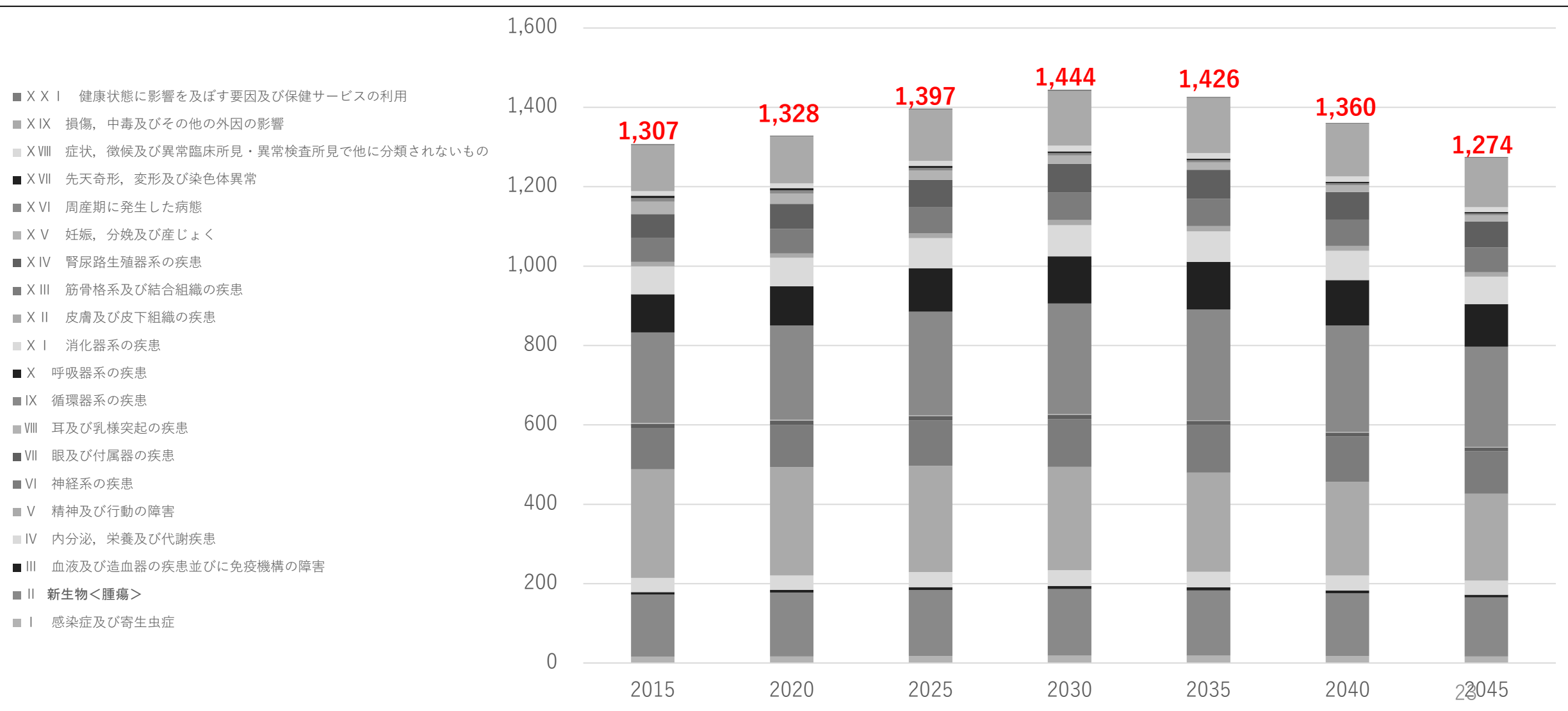
人口推計（県東）

県東医療圏の人口はすでに減少傾向となっており、2045年には95,384人となる（2020年比-47,533人）。

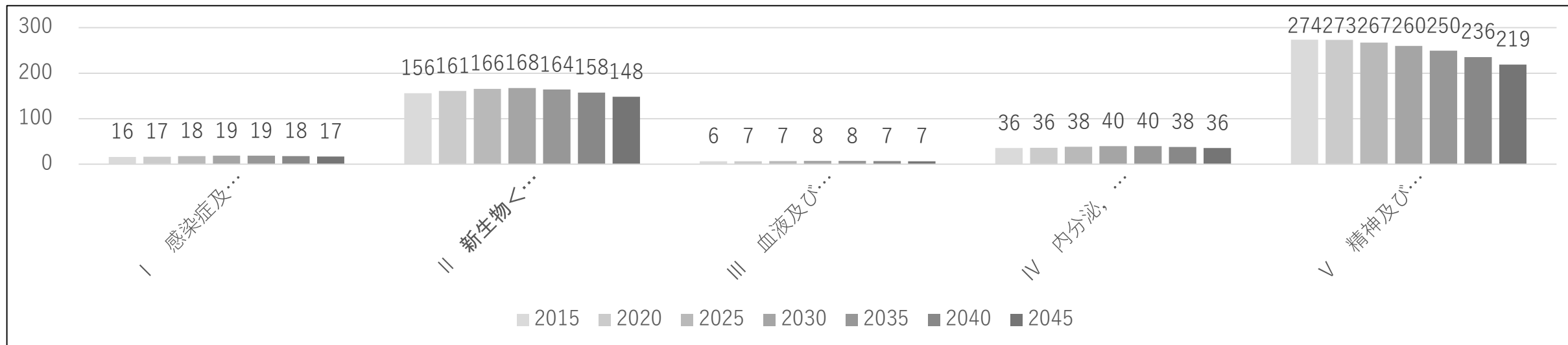


推計患者数推移（県東・入院）

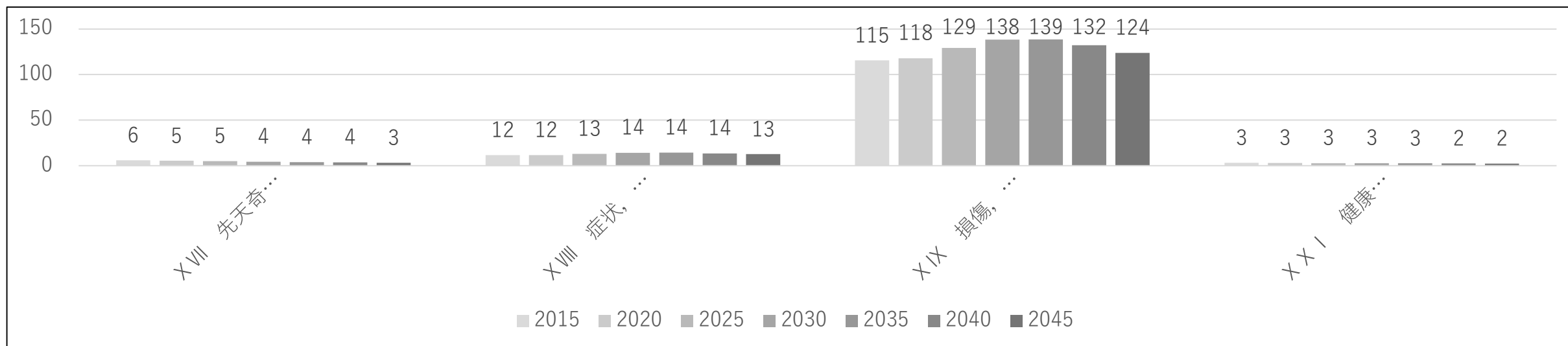
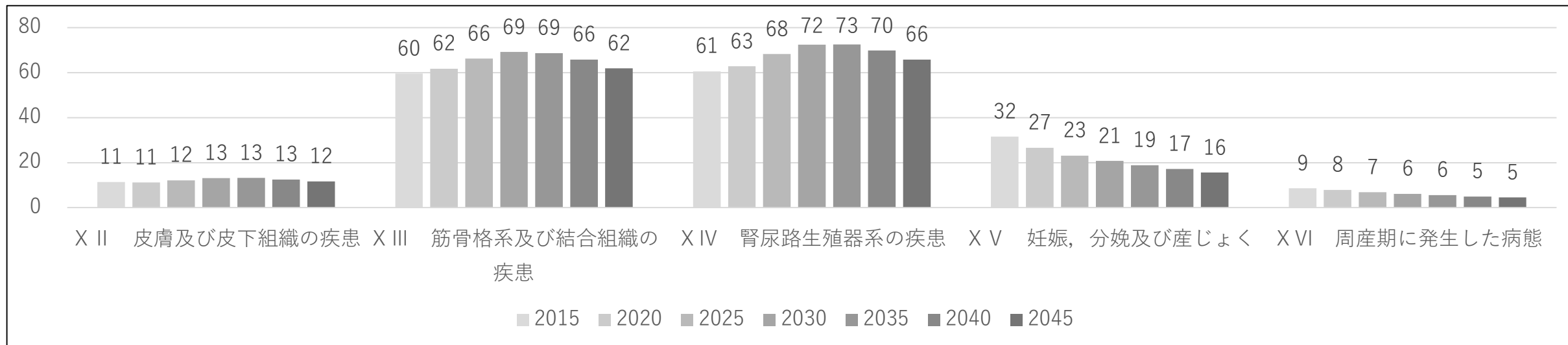
県東医療圏の入院の推計患者数は2025年に1,444人でピークを迎えた後、減少傾向となり、2045年には1,274人となる。



疾病別推計患者数推移（県東・入院）

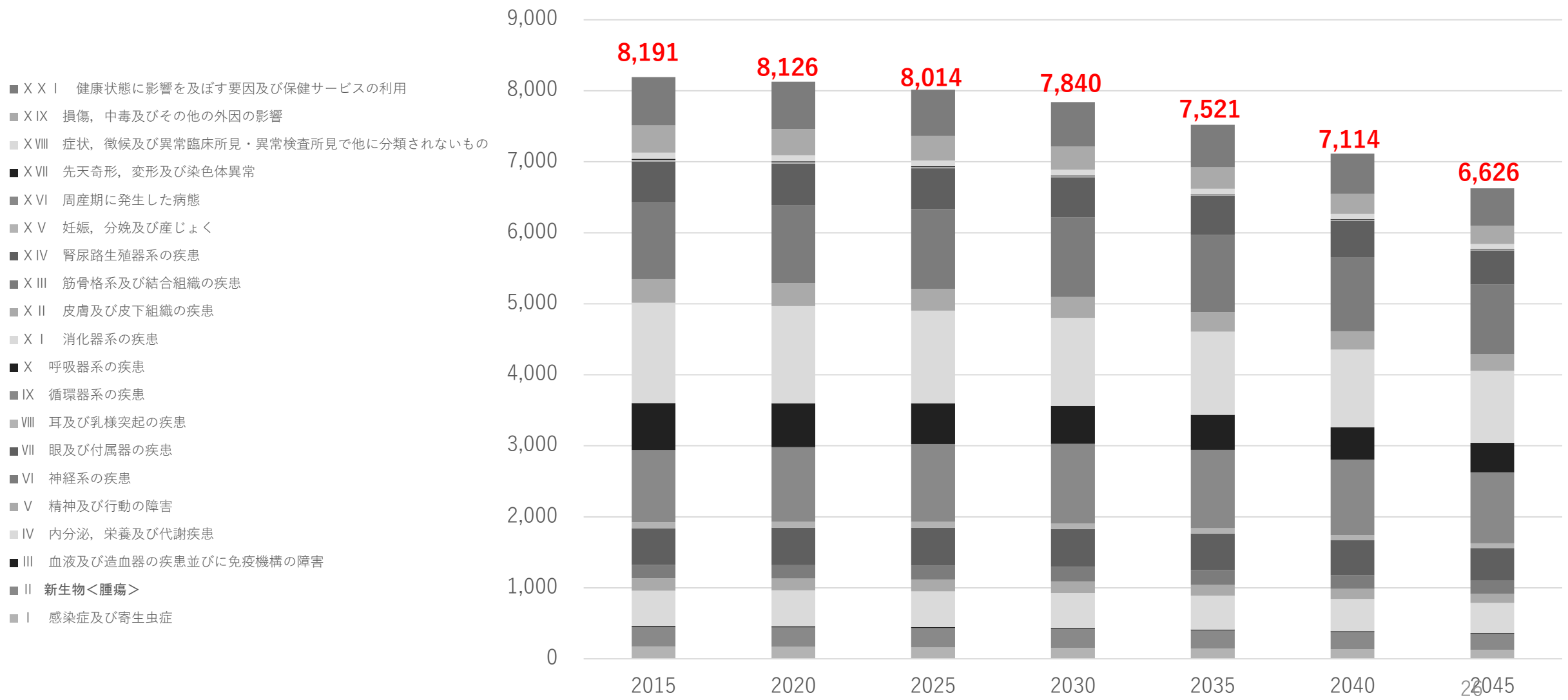


疾病別推計患者数推移（県東・入院）

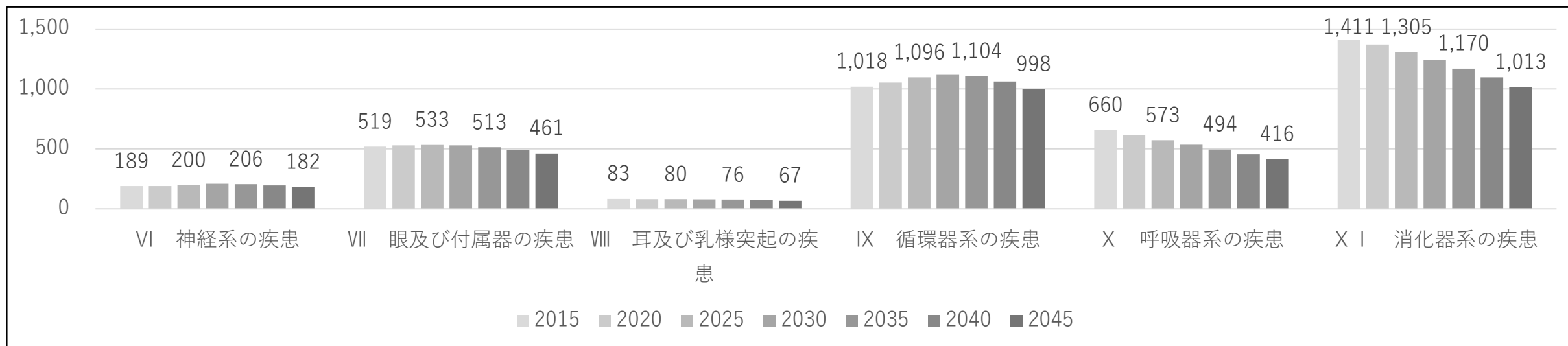
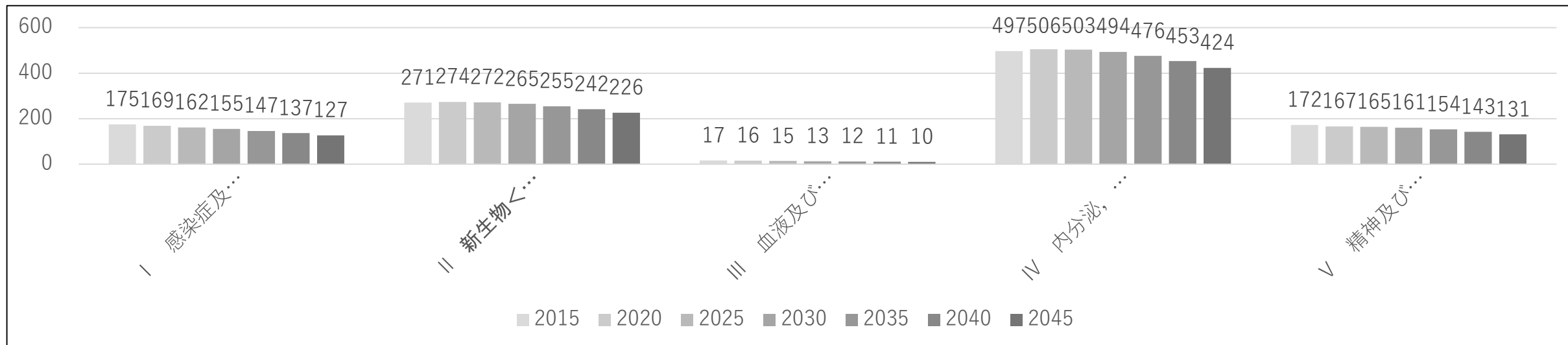


推計患者数推移（県東・外来）

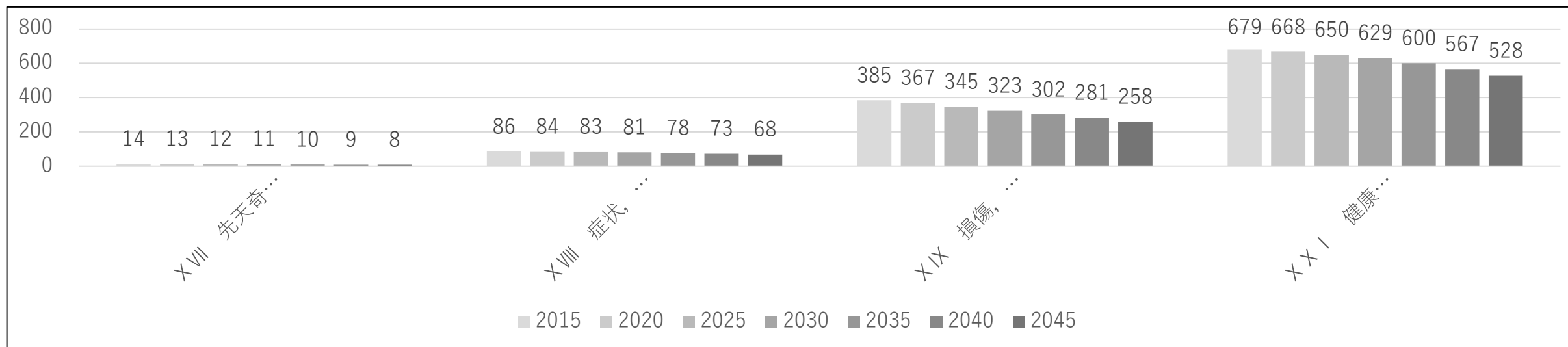
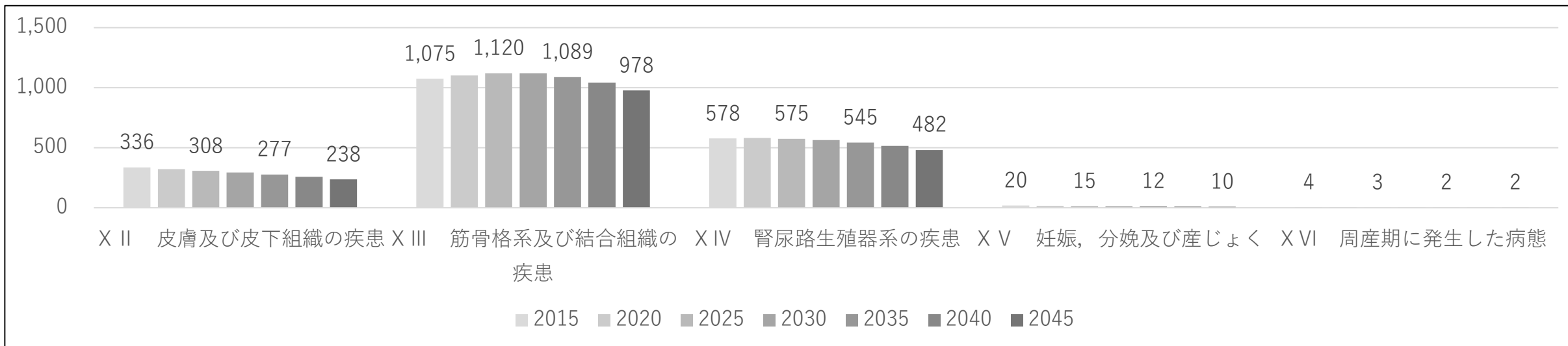
県東医療圏の外来の推計患者数はすでに減少傾向となっており、2045年には6,626人となる。（2015年比-1,565人）。



疾病別推計患者数推移（県東・外来）



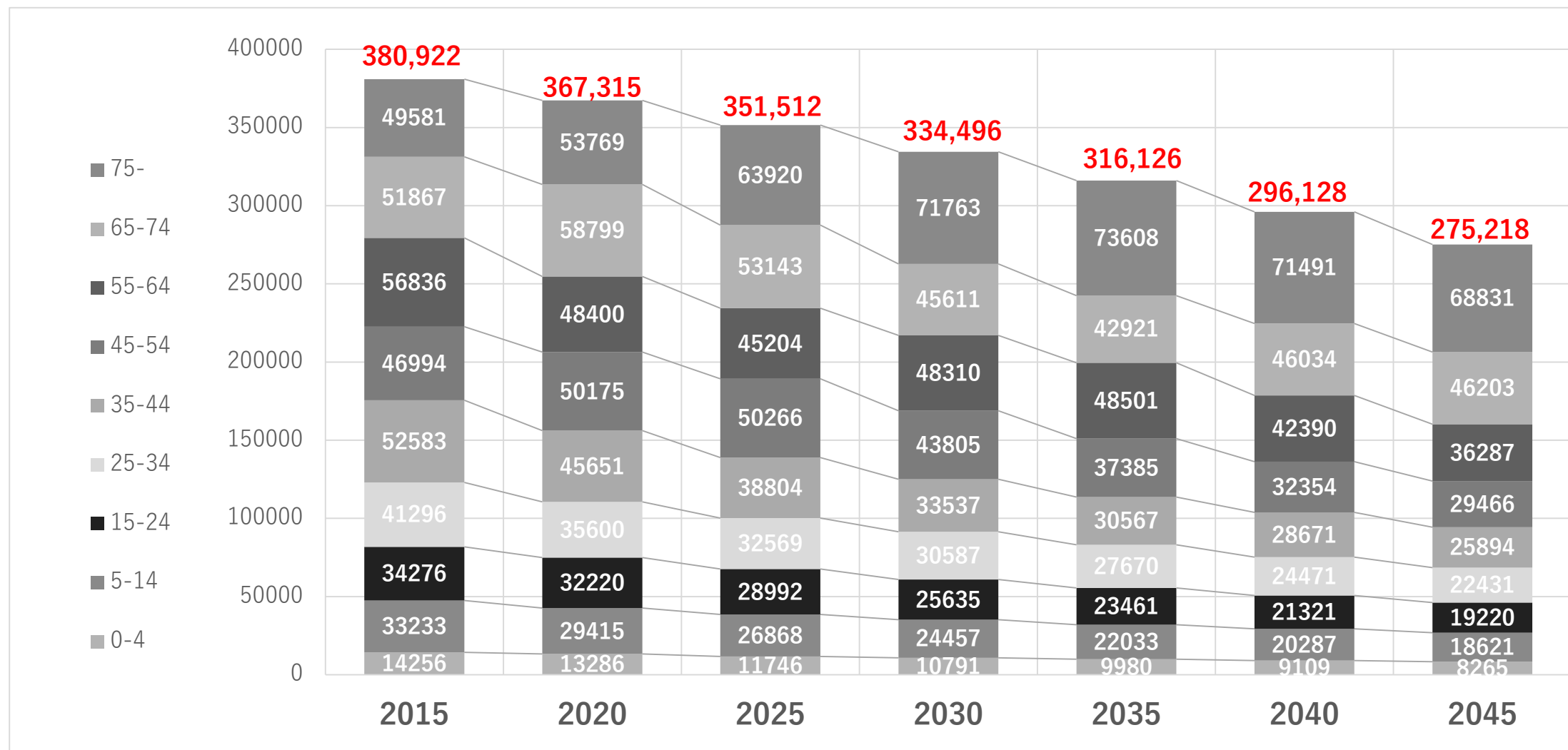
疾病別推計患者数推移（県東・外来）



県北

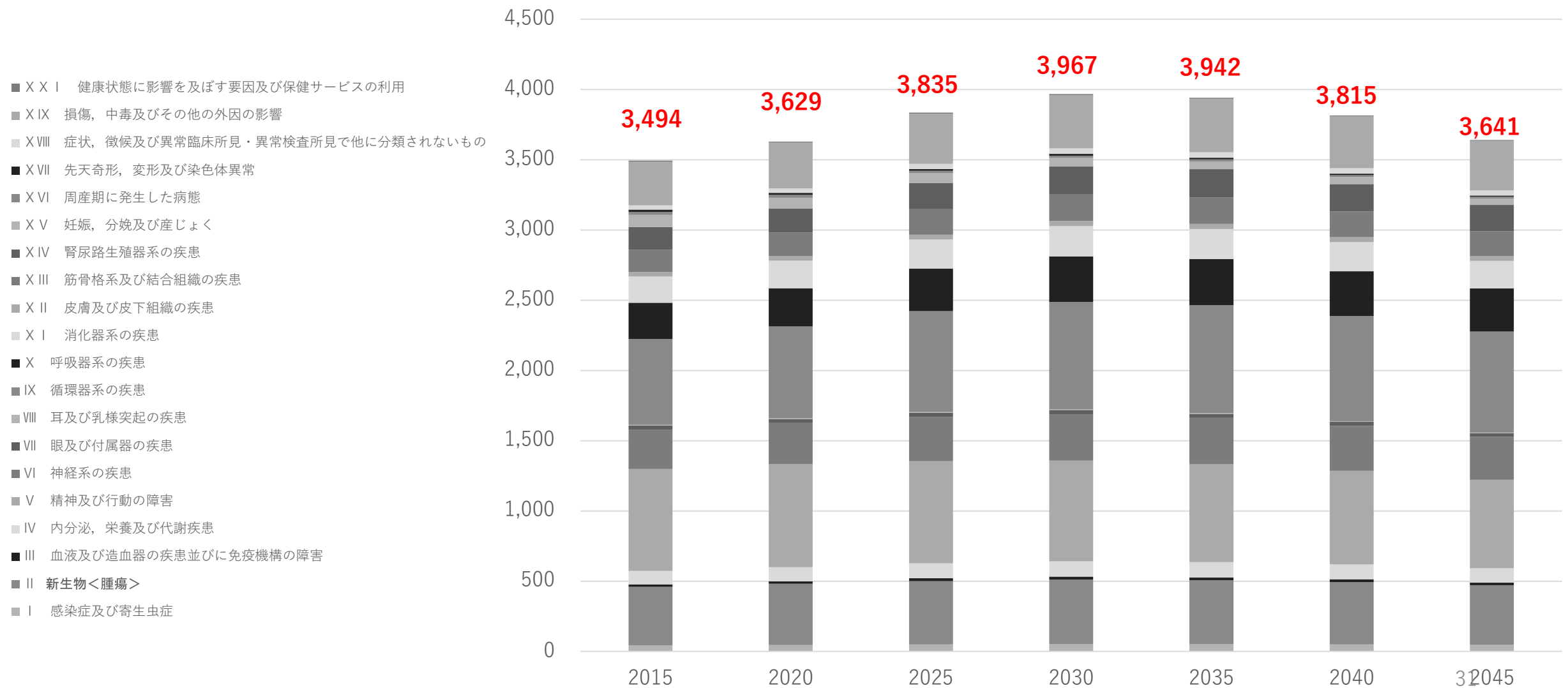
人口推計（県北）

県北医療圏の人口はすでに減少傾向となっており、2045年には27,218人となる（2020年比-105,704人）。

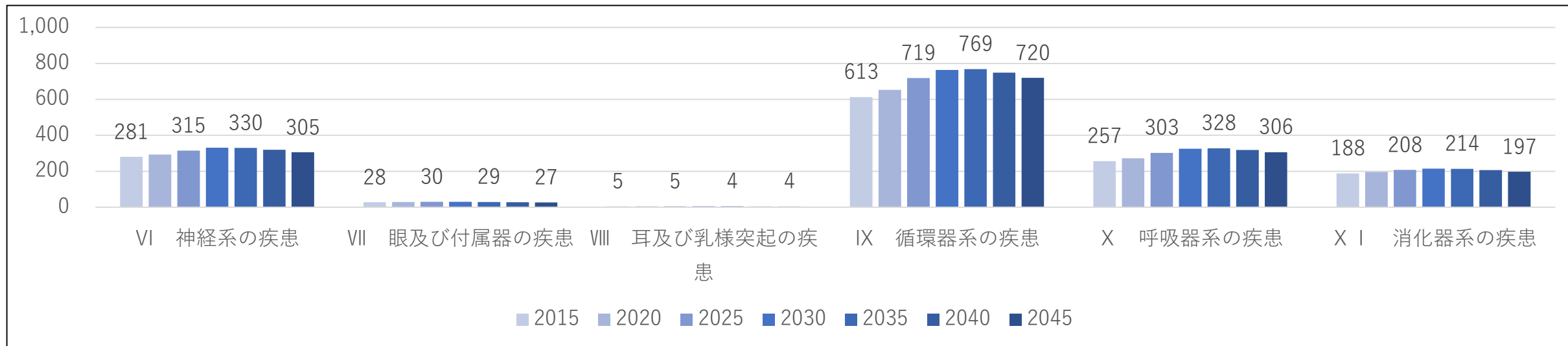
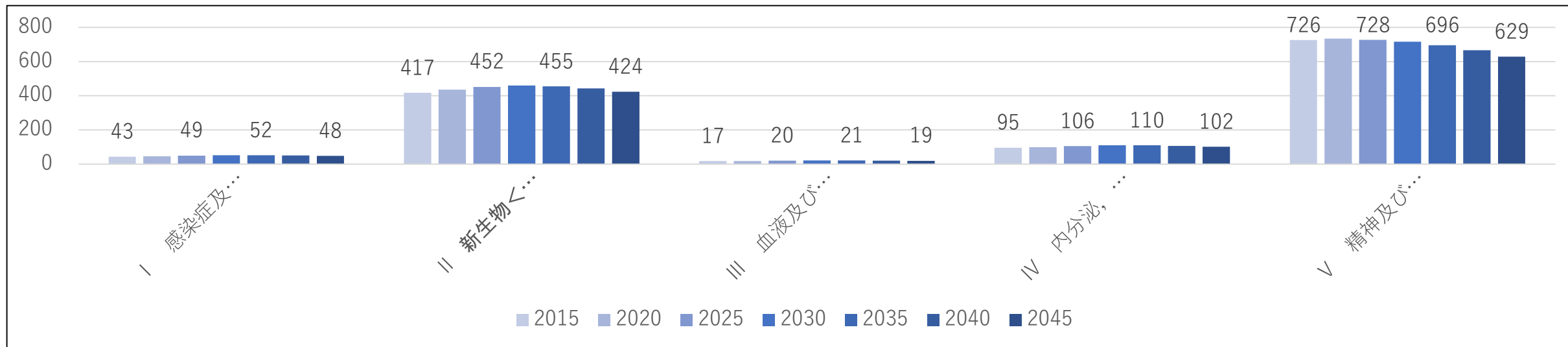


推計患者数推移（県北・入院）

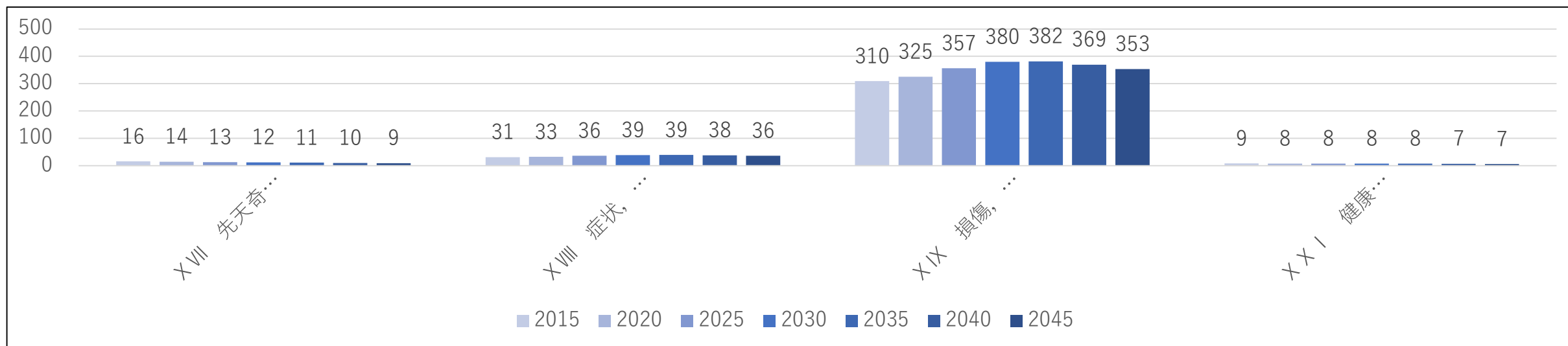
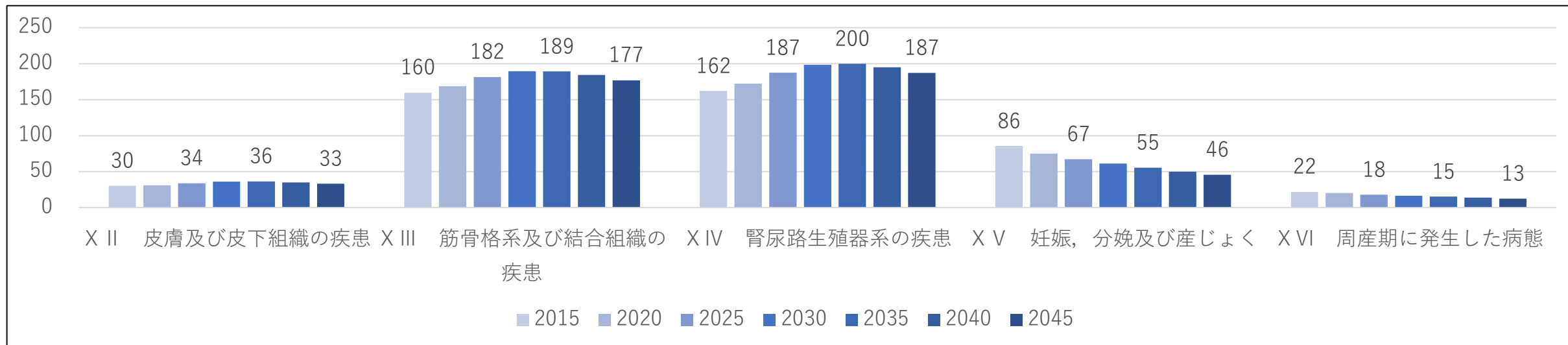
県北医療圏の入院の推計患者数は2030年に3,967人でピークを迎えた後、減少傾向となり、2045年には3,641人となる。



疾病別推計患者数推移（県北・入院）

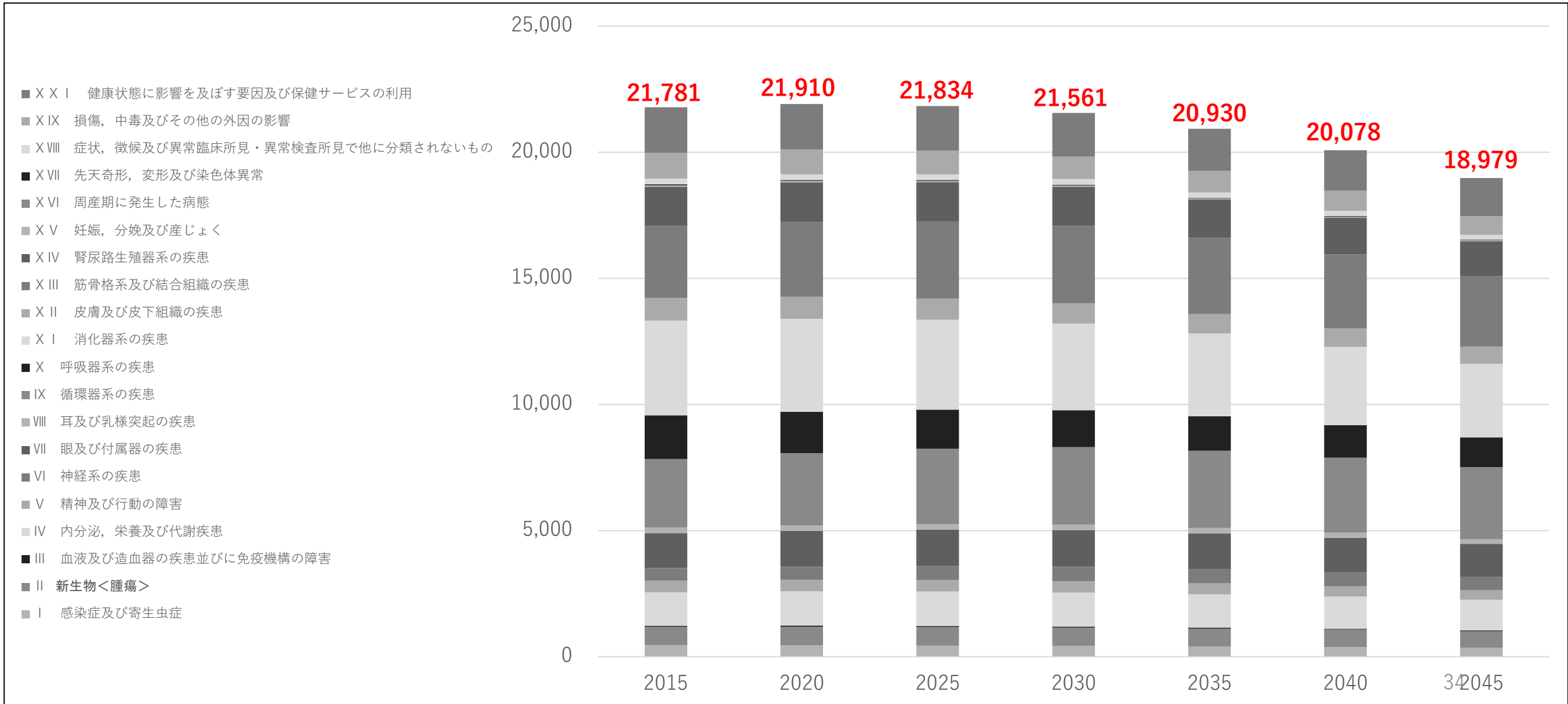


疾病別推計患者数推移（県北・入院）

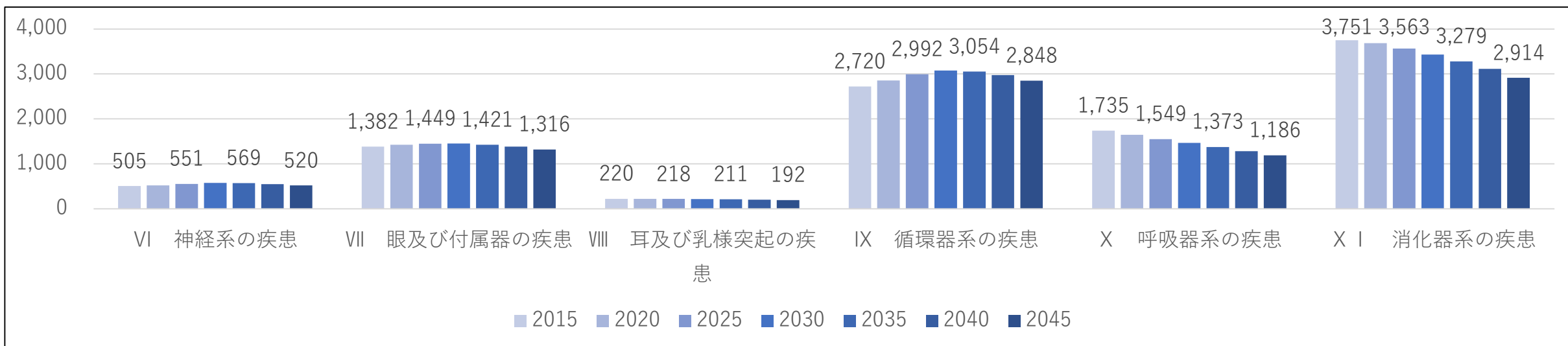
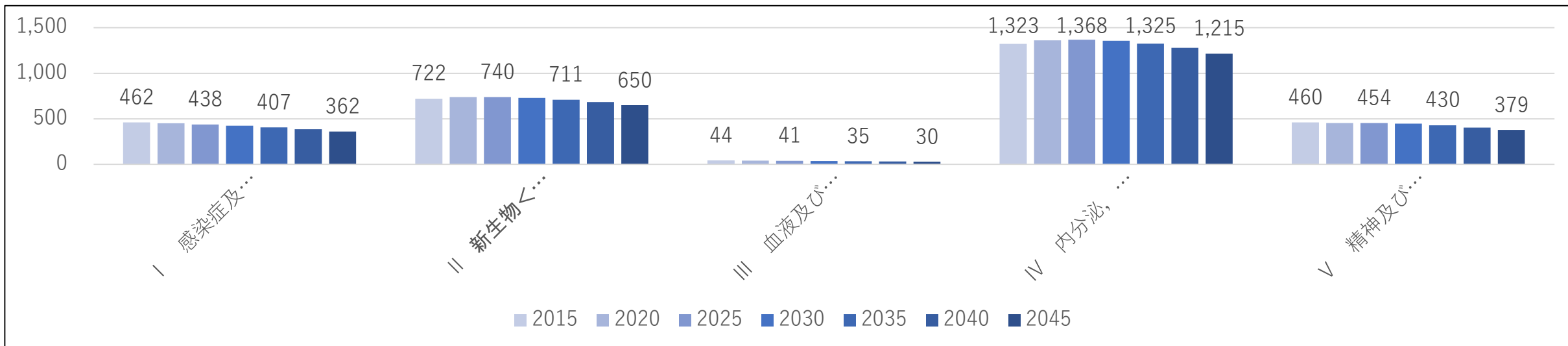


疾病別推計患者数推移（県北・外来）

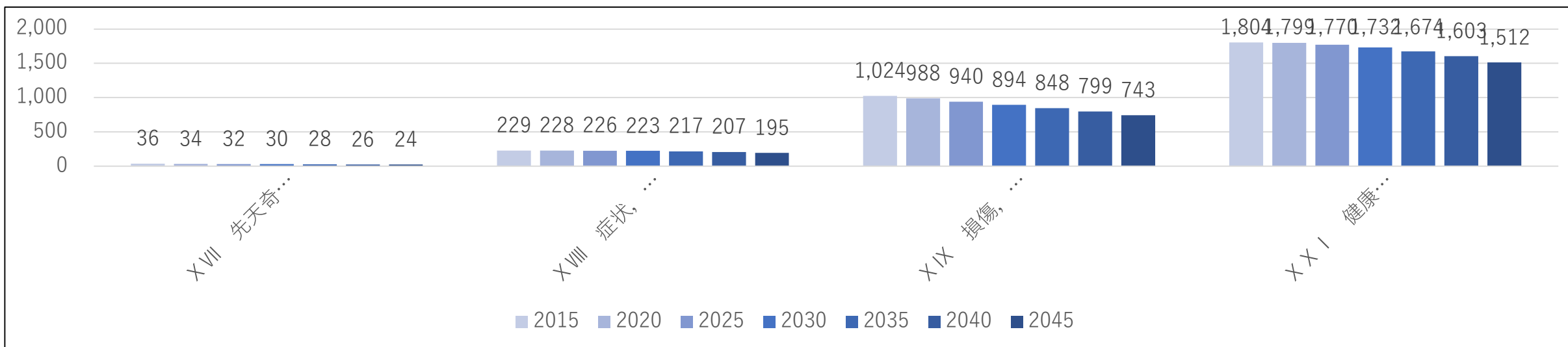
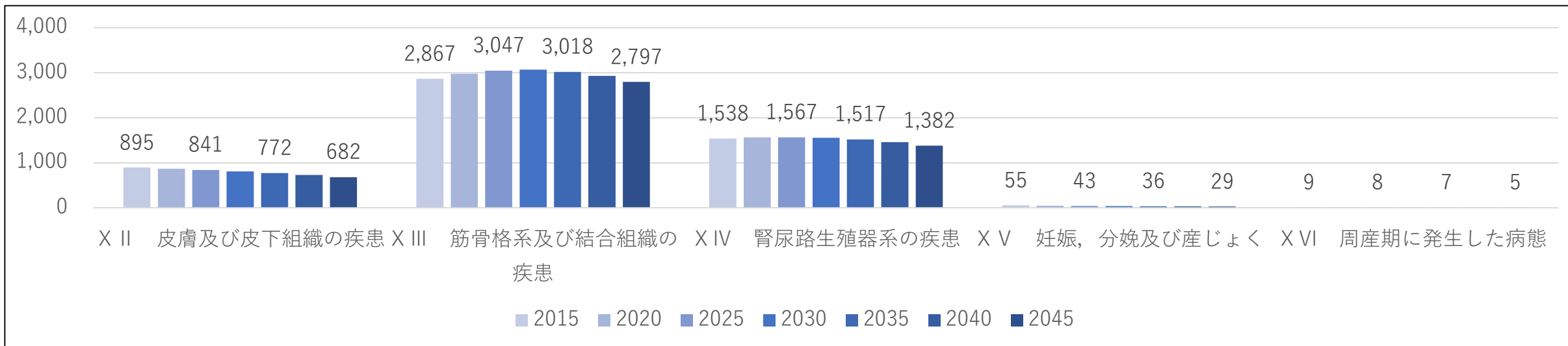
県北医療圏の外来の推計患者数は2020年に21,910人でピークを迎えた後、減少傾向となり、2045年には18,979人となる。



疾病別推計患者数推移（県北・外来）



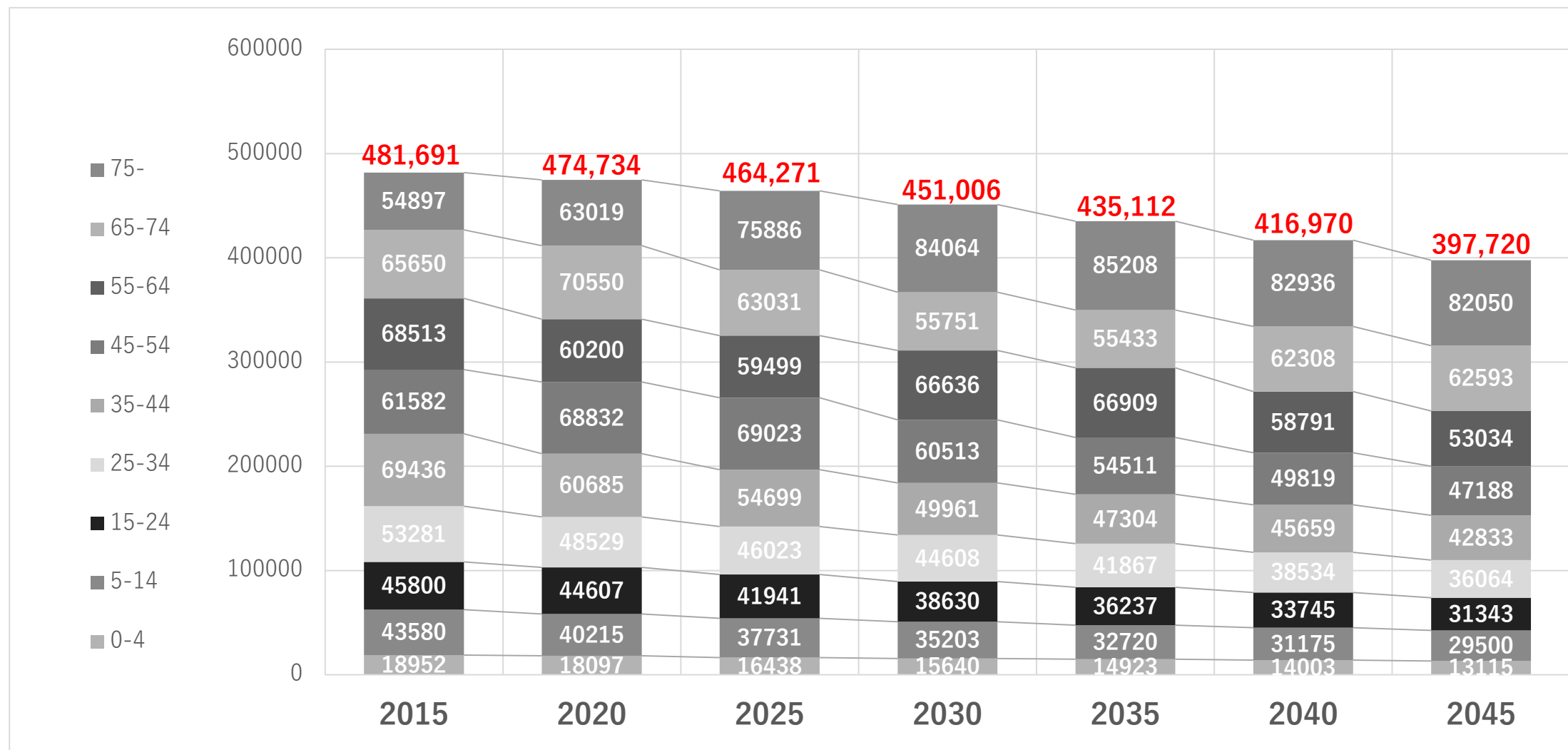
疾病別推計患者数推移（県北・外来）



県南

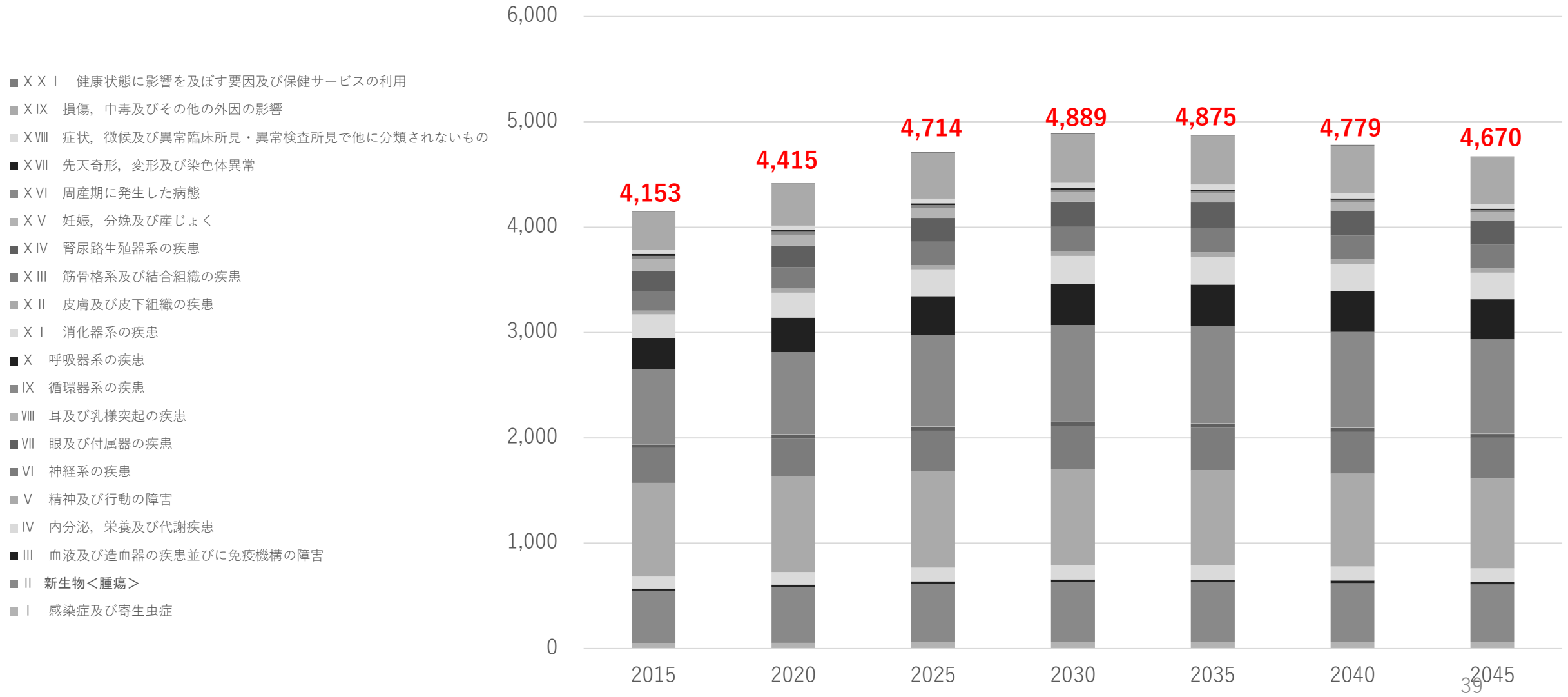
人口推計（県南）

県南医療圏の人口はすでに減少傾向となっており、2045年には397,720人となる（2020年比-83,971人）。

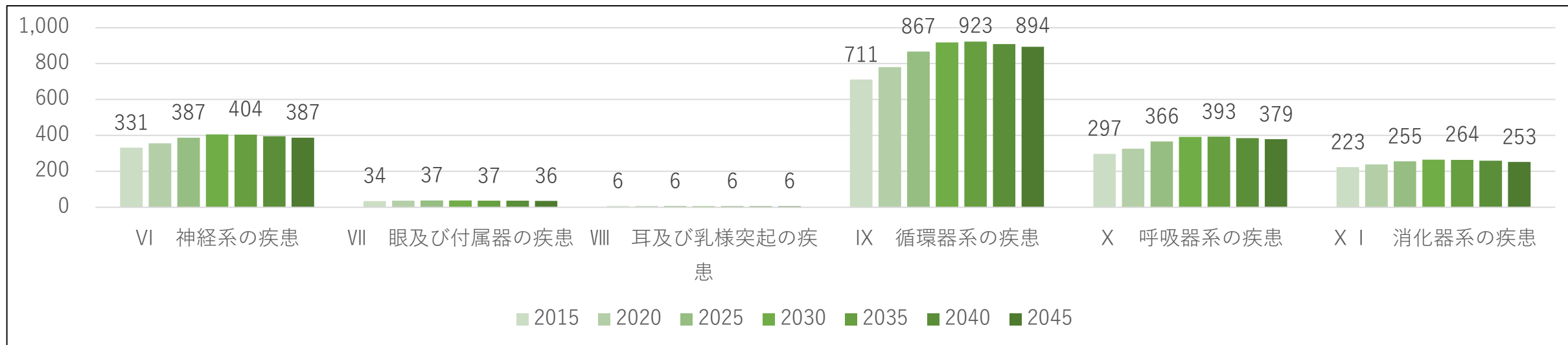
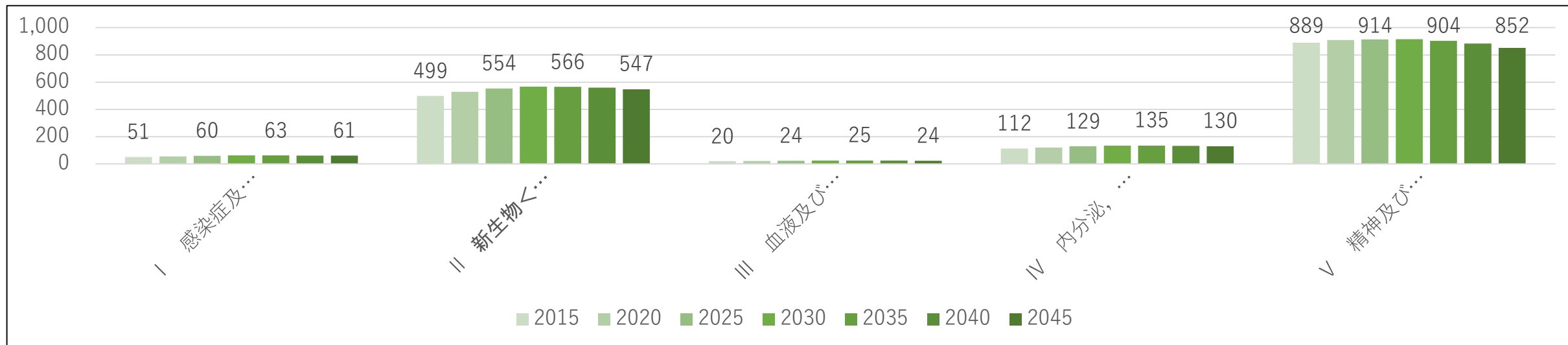


疾病別推計患者数推移（県南・入院）

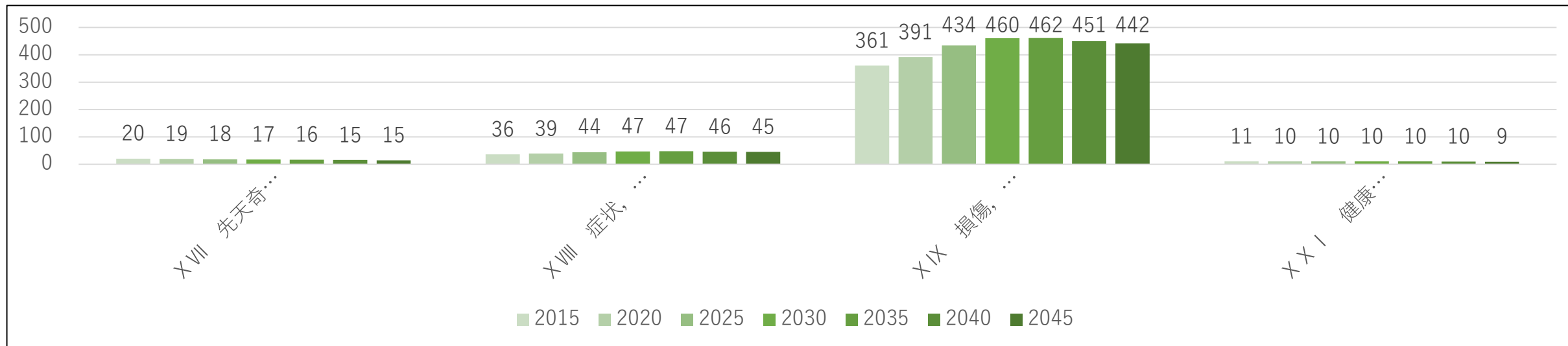
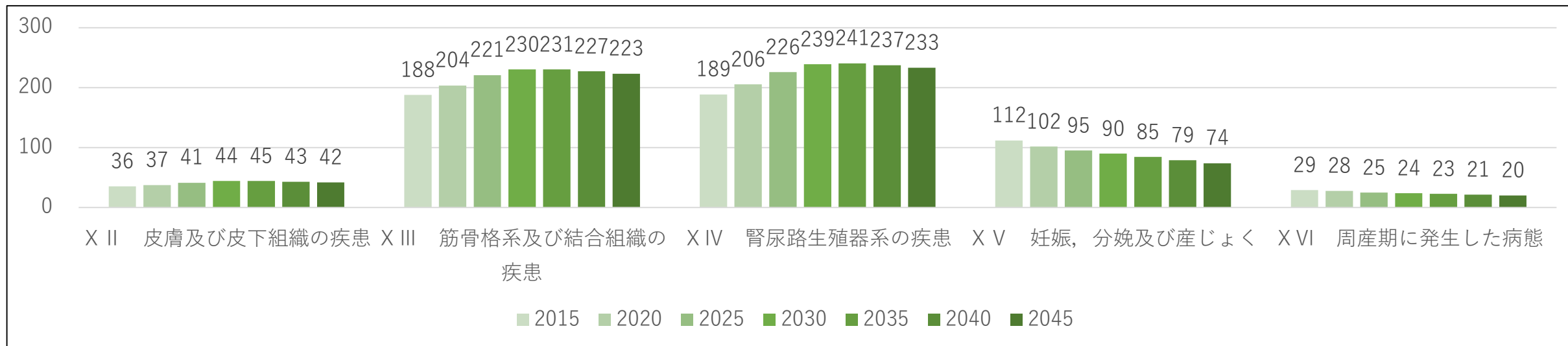
県南医療圏の入院の推計患者数は2030年に4,889人でピークを迎えた後、減少傾向となり、2045年には4,670人となる。



疾病別推計患者数推移（県南・入院）

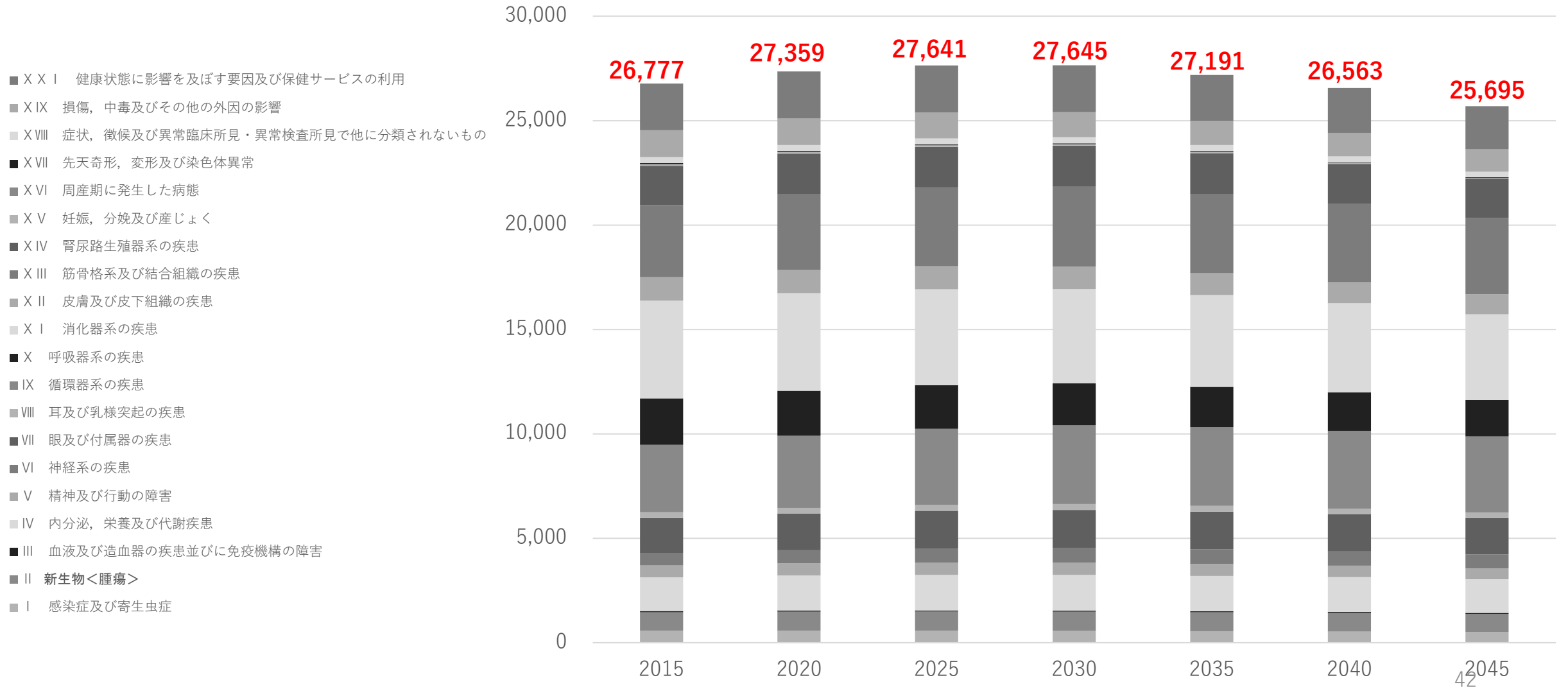


疾病別推計患者数推移（県南・入院）

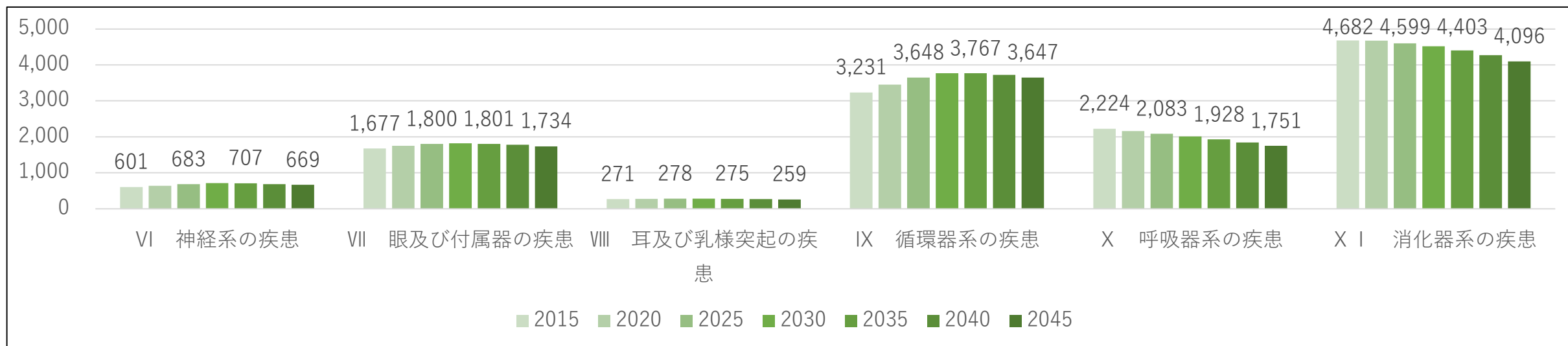
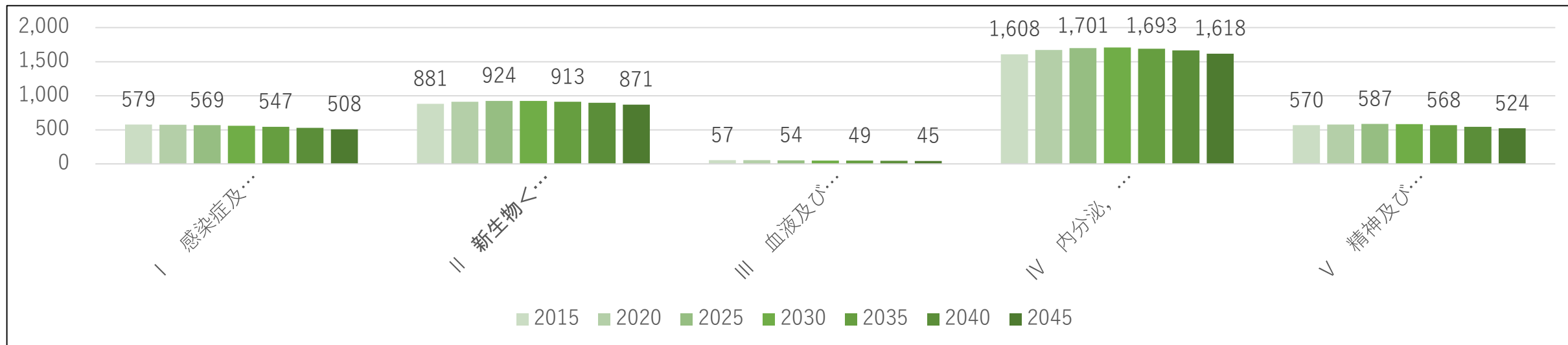


疾病別推計患者数推移（県南・外来）

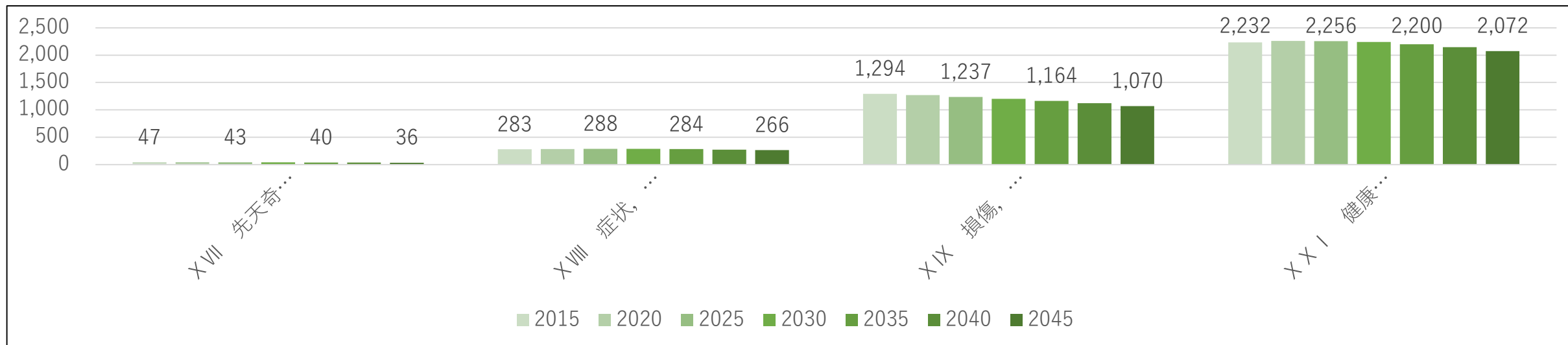
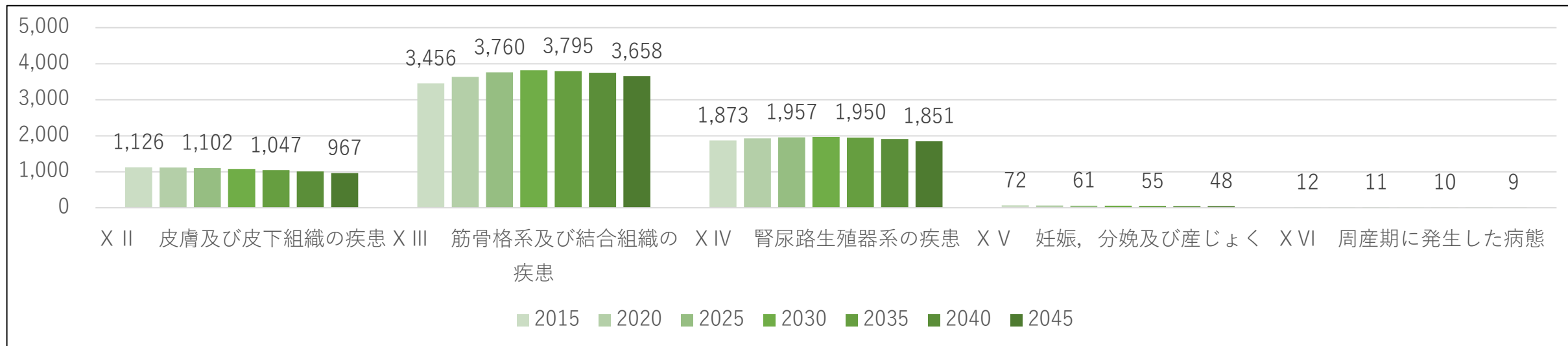
県南医療圏の外来の推計患者数は2030年に27,645人でピークを迎えた後、減少傾向となり、2045年には25,695人となる。



疾病別推計患者数推移（県南・外来）



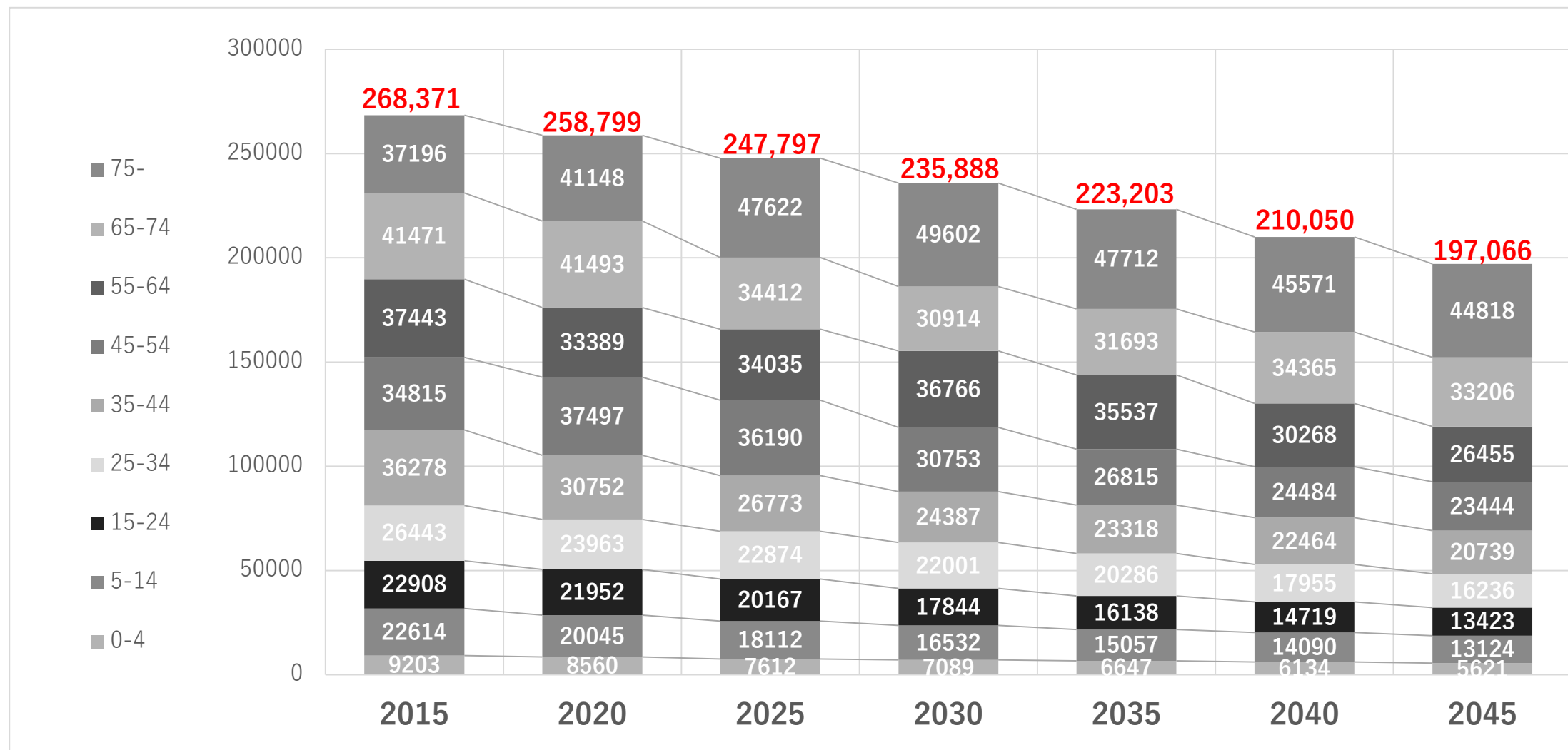
疾病別推計患者数推移（県南・外来）



両毛

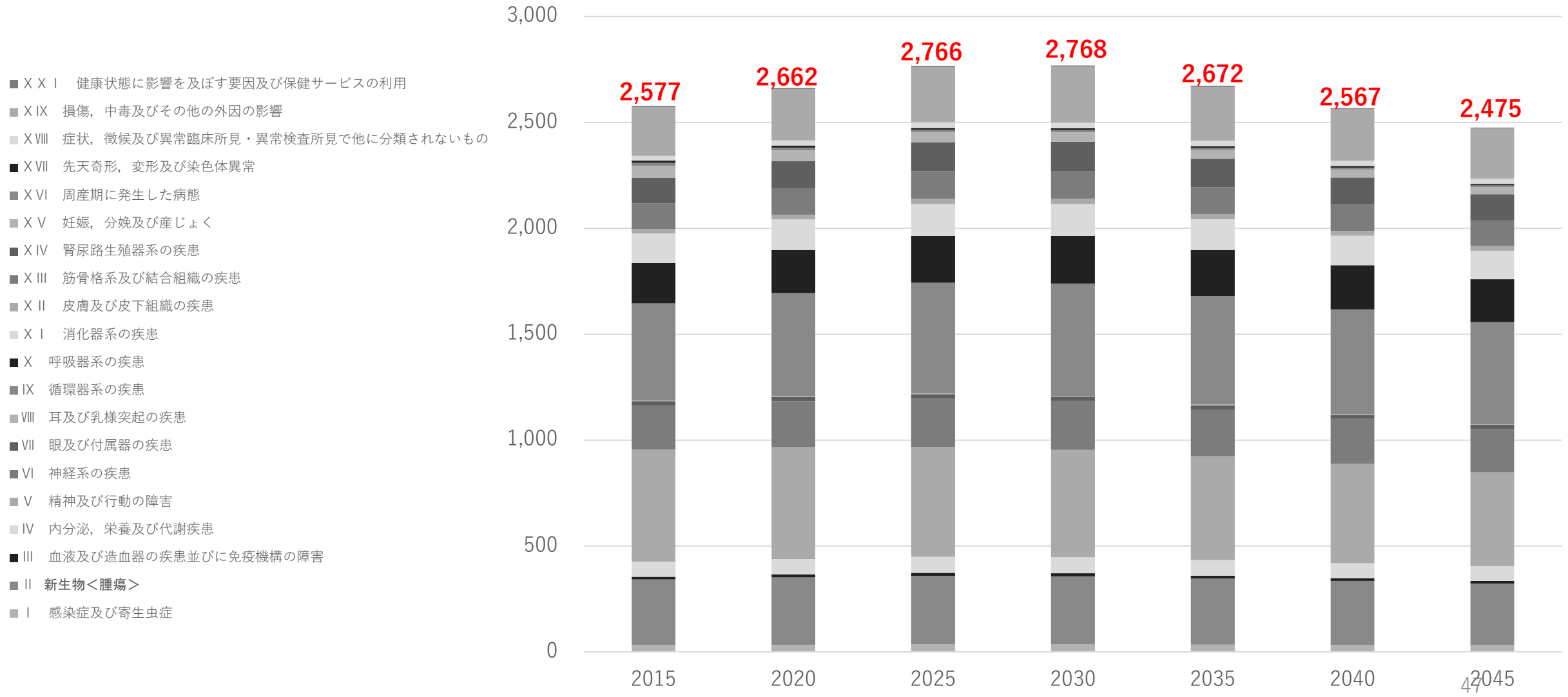
人口推計（両毛）

県南医療圏の人口はすでに減少傾向となっており、2045年には197,066人となる（2020年比-71,305人）。

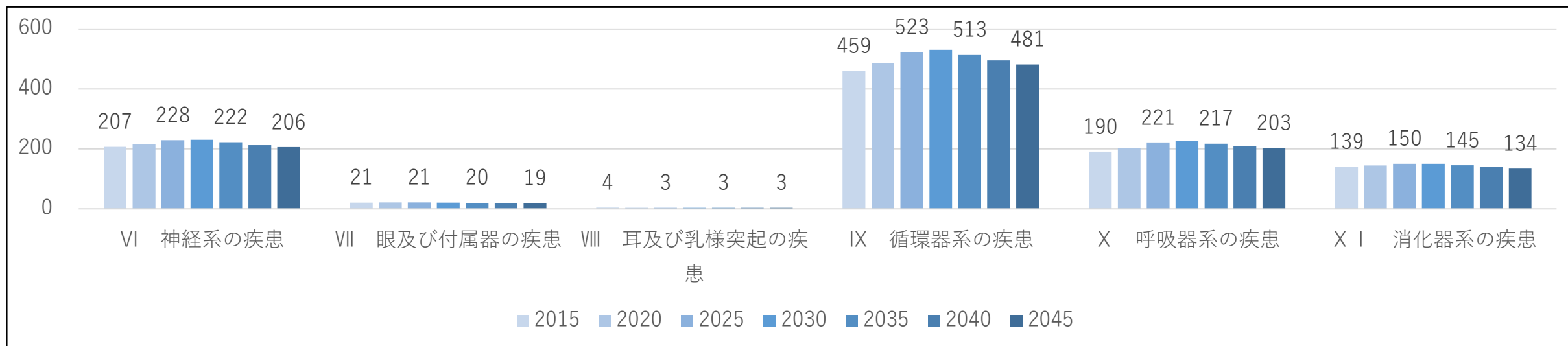
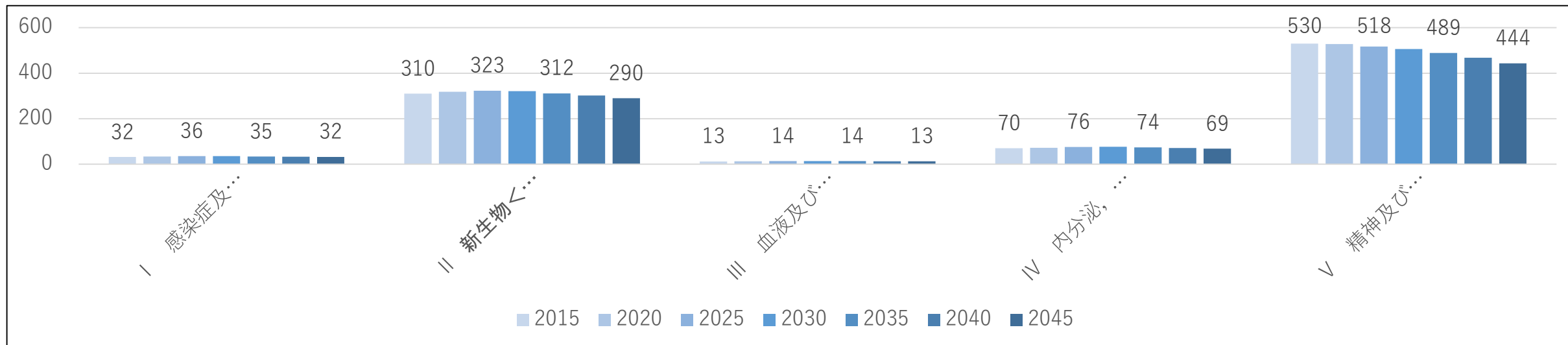


疾病別推計患者数推移（両毛・入院）

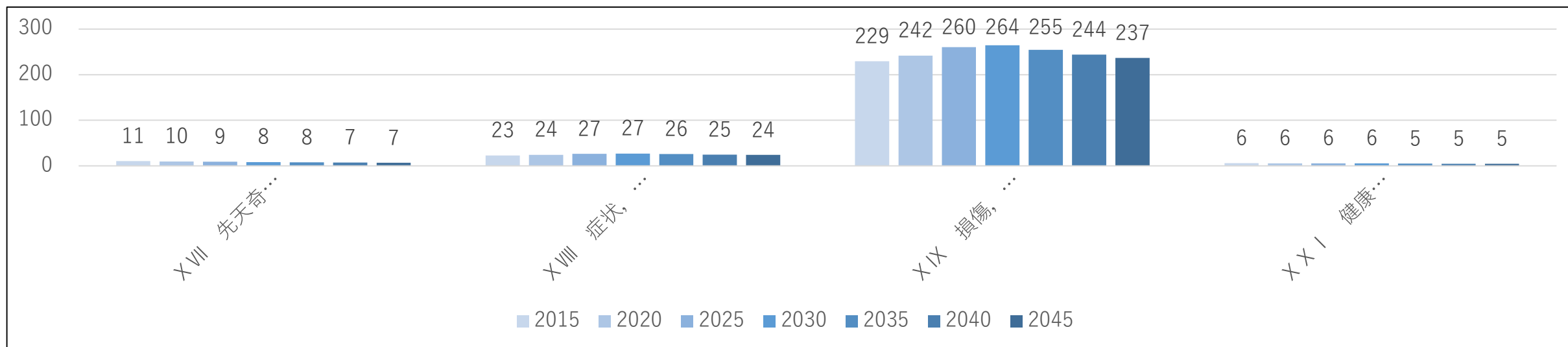
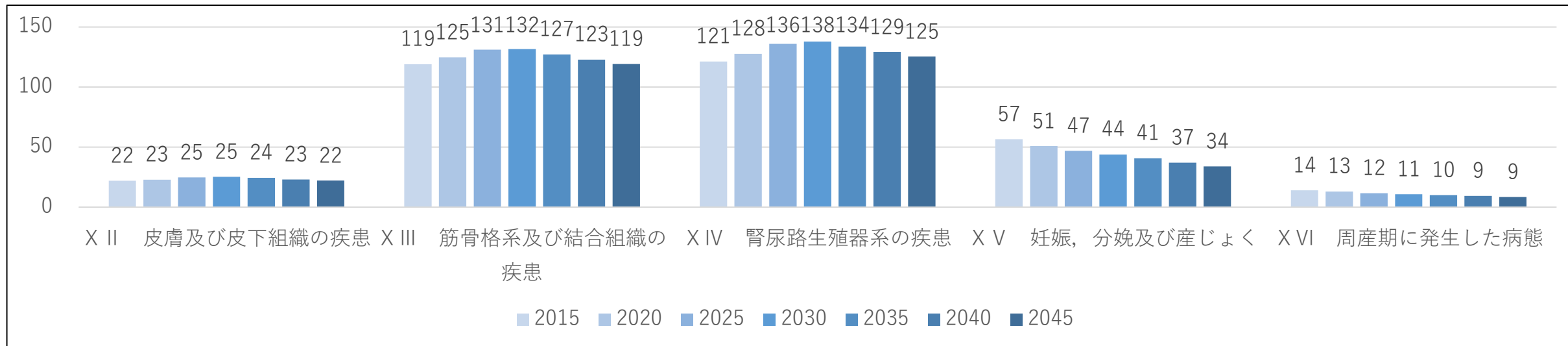
県南医療圏の入院の推計患者数は2030年に2,768人でピークを迎えた後、減少傾向となり、2045年には2,475人となる。



疾病別推計患者数推移（両毛・入院）

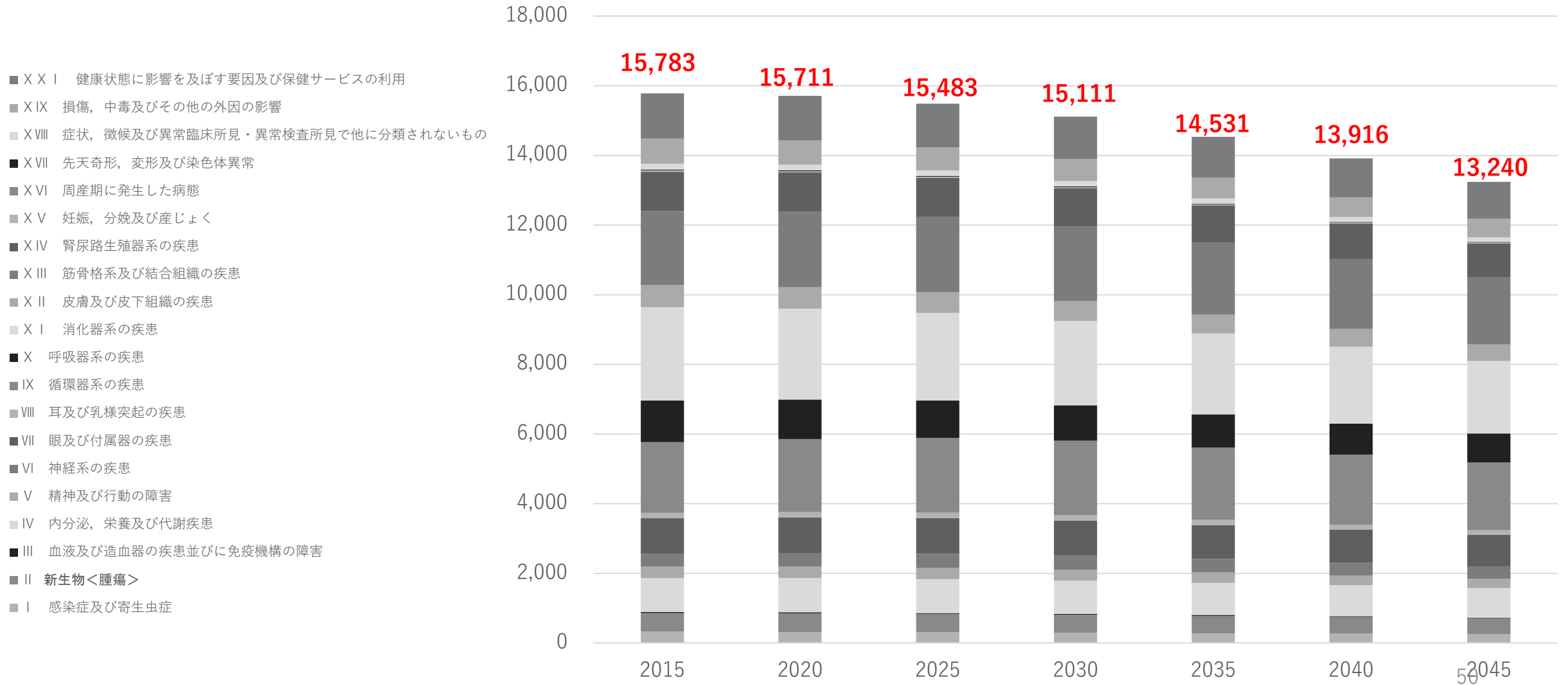


疾病別推計患者数推移（両毛・入院）

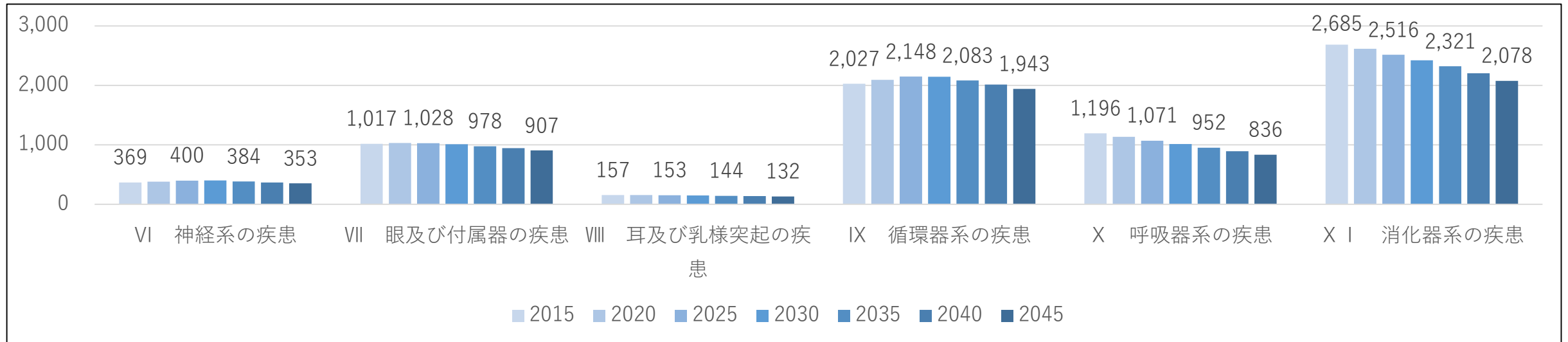
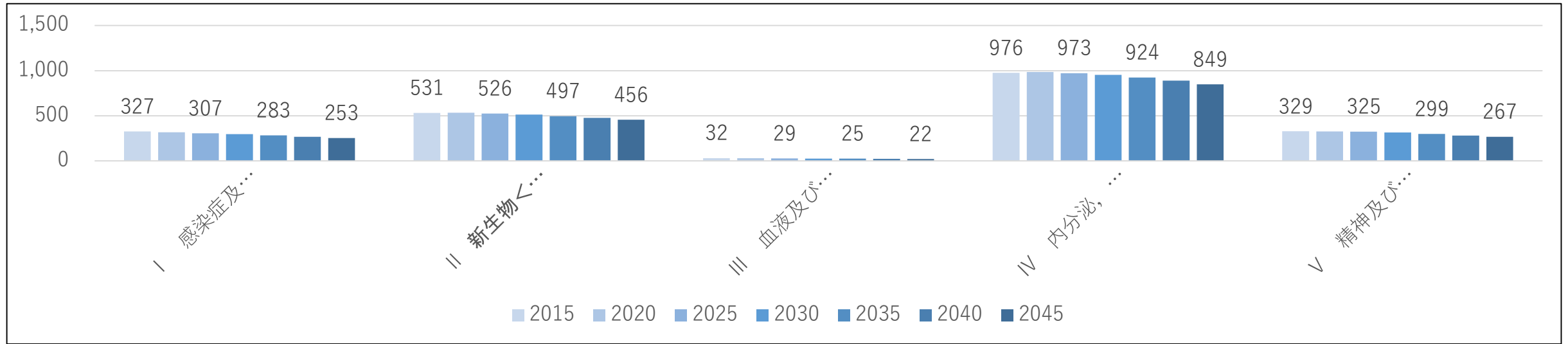


疾病別推計患者数推移（両毛・外来）

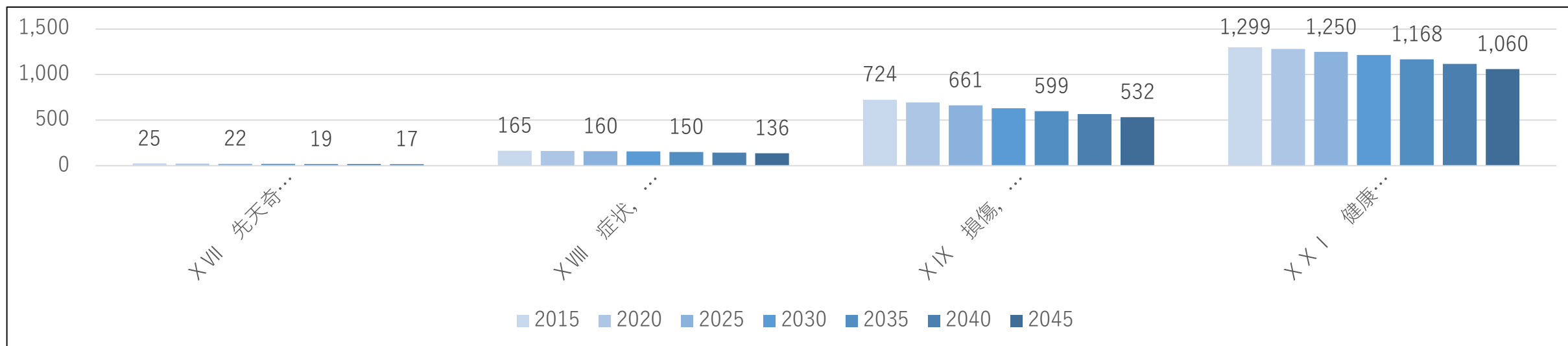
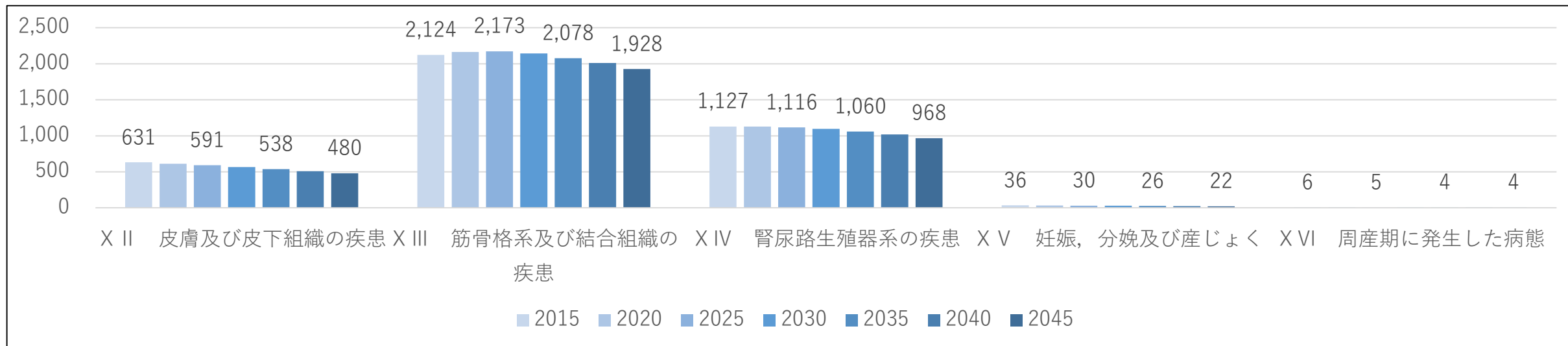
両毛医療圏の外来の推計患者数はすでに減少傾向となっており、2045年には13,240人となる。（2015年比-2,543人）。



疾病別推計患者数推移（両毛・外来）



疾病別推計患者数推移（両毛・外来）



各医療圏の状況（人口・入院患者数・外来患者数）

医療圏	人口のピーク	入院患者数のピーク	外来患者数のピーク
宇都宮	2020年	2045年	2035年
県西	2015年	2025年	2015年
県東	2015年	2025年	2015年
県北	2015年	2030年	2020年
県南	2015年	2030年	2030年
両毛	2015年	2030年	2015年

患者調査の分析について

(平成17～29年の患者調査の疾病別受療率の推移)

医療政策課

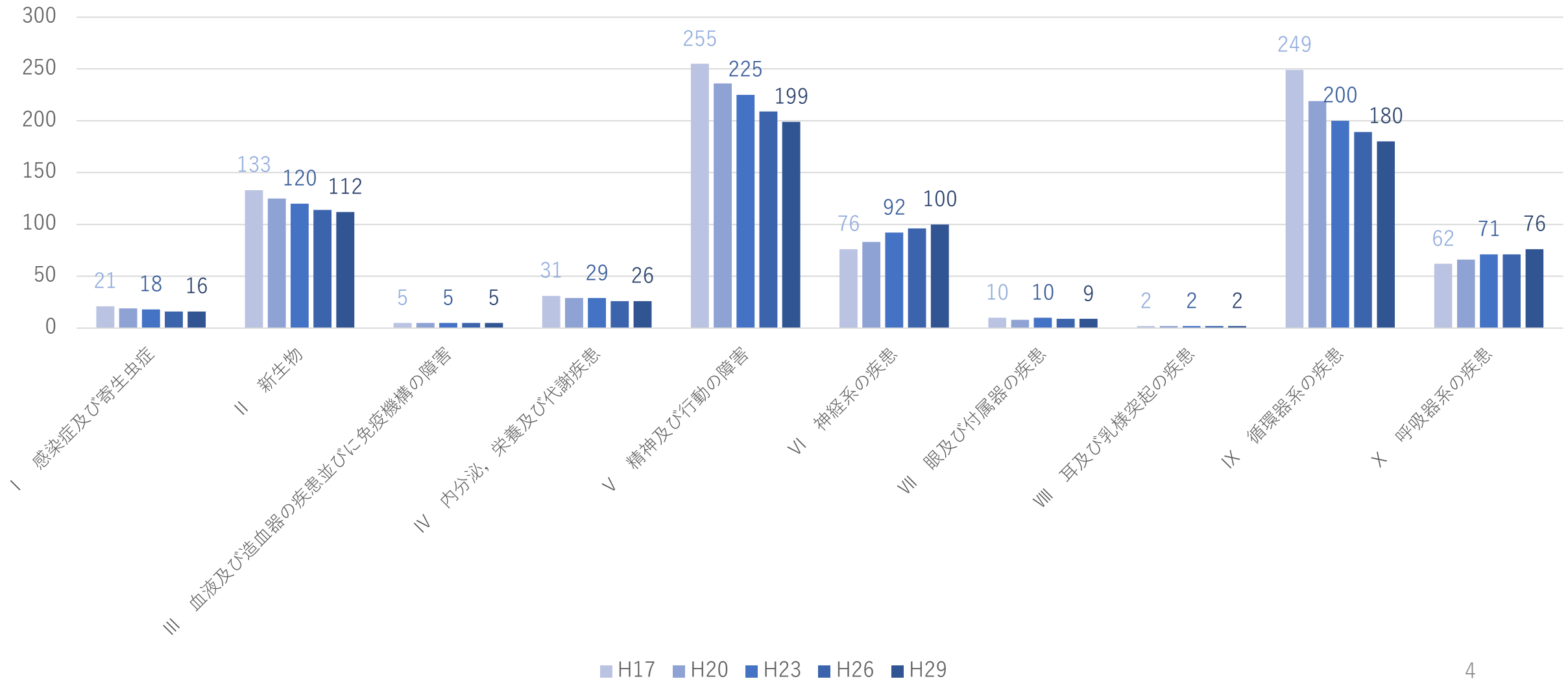
分析方法

- 患者調査において示される受療率（※）の変化を入院・外来別、全国・栃木県別に疾病分類ごとに分析した。
- 患者調査は厚生労働省 患者調査の以下2種類（入院・外来）の平成17、20、23、26、29年の5年分（計12年）を用いた。
 - ①受療率（人口10万対），性・年齢階級×傷病大分類×入院－外来・都道府県別（入院）
 - ②受療率（人口10万対），性・年齢階級×傷病大分類×入院－外来・都道府県別（外来）

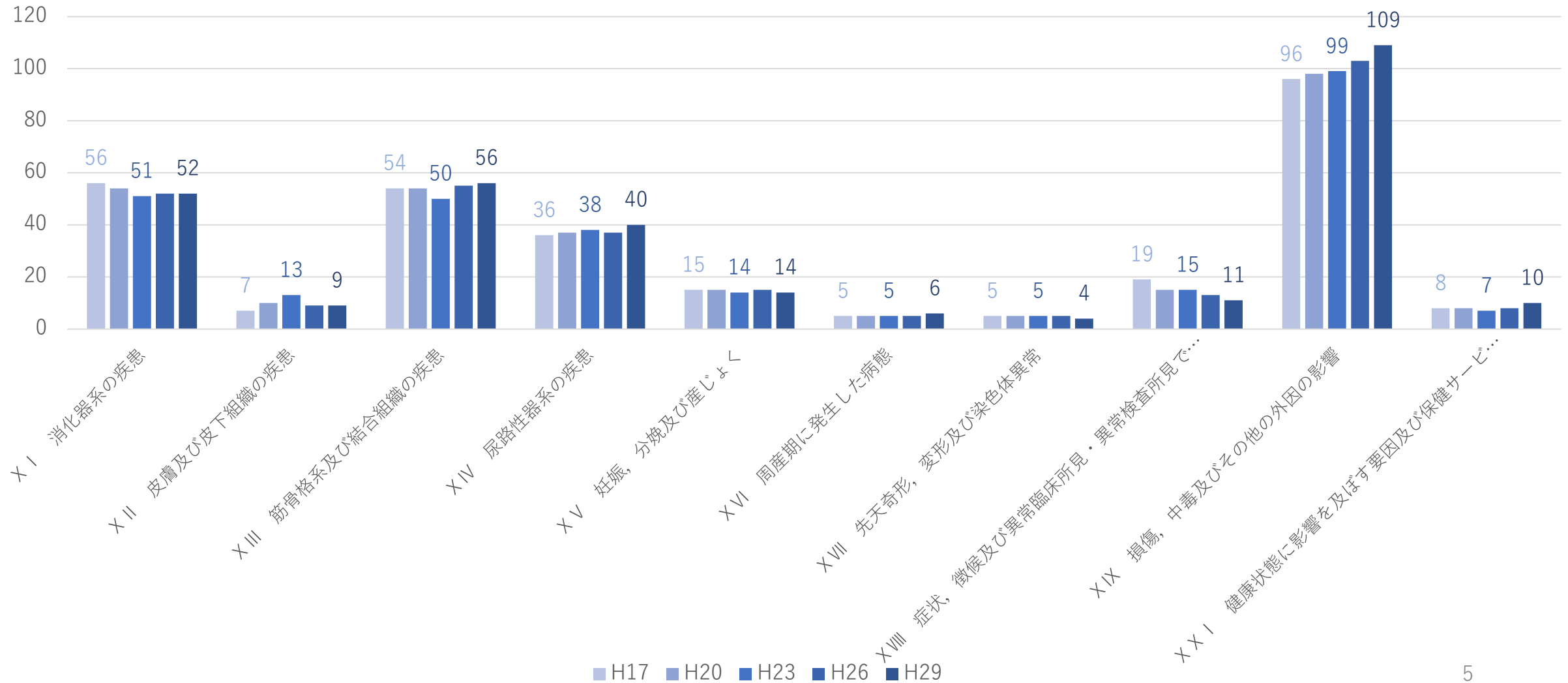
※ 推計患者数を人口10万対であらわした数
（計算方法）受療率（人口10万対）＝推計患者数／推計人口×100,000

全 国

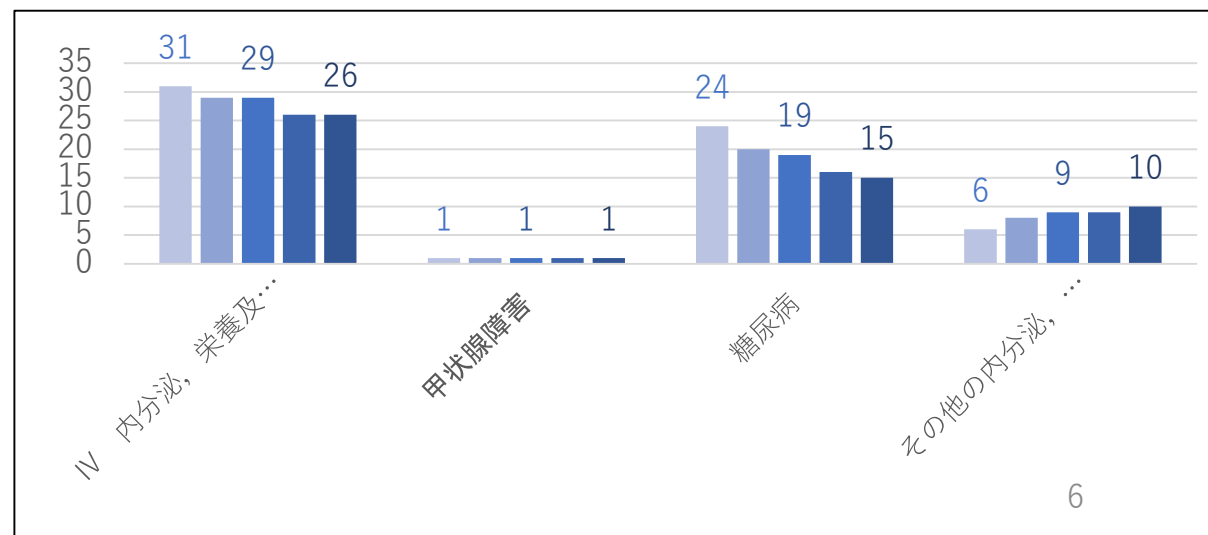
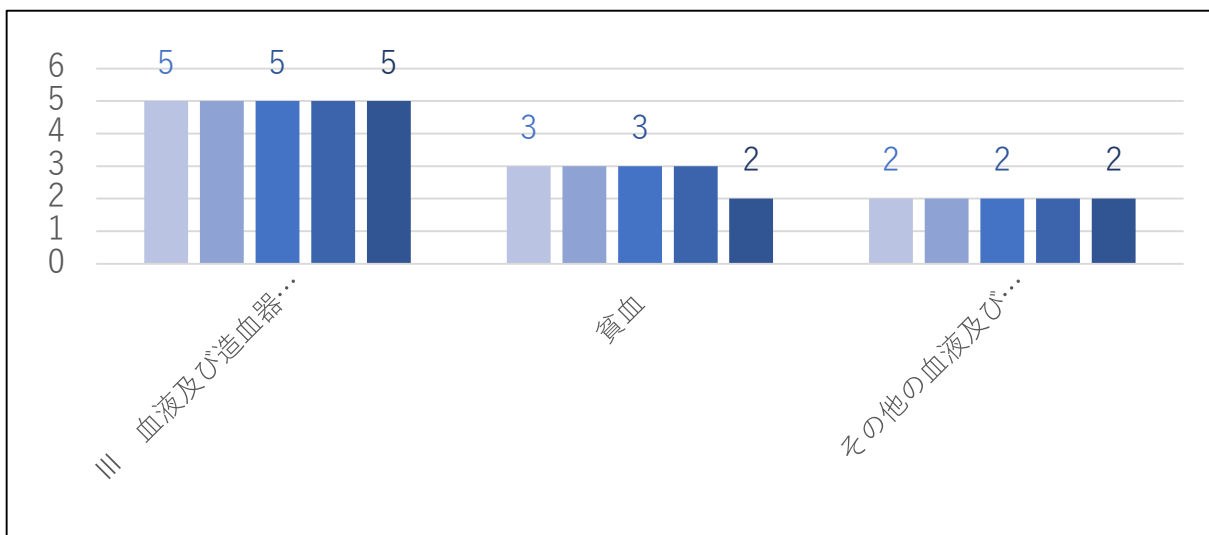
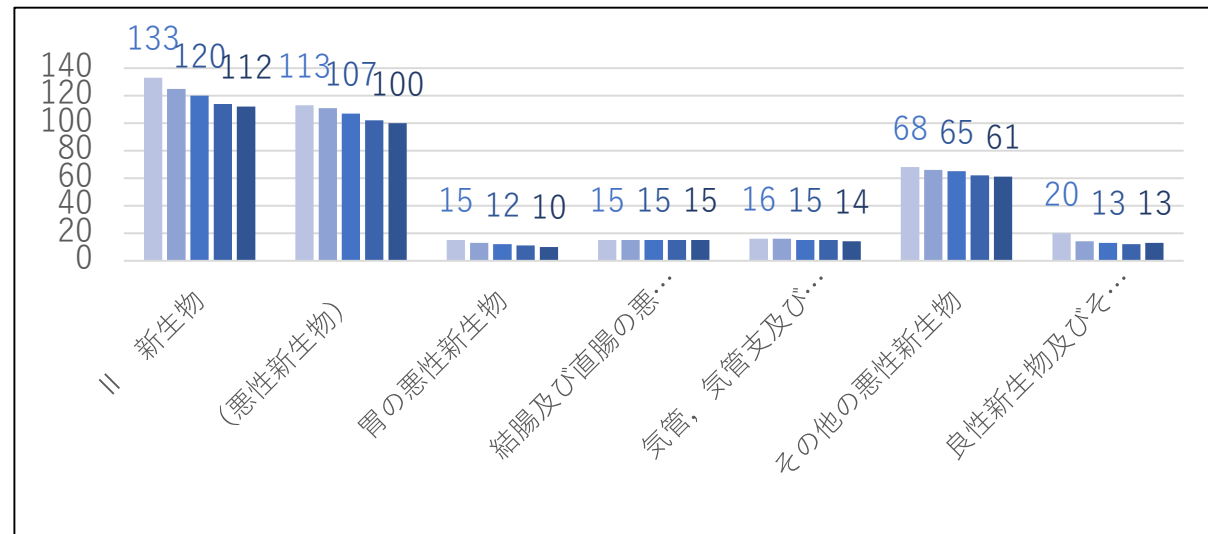
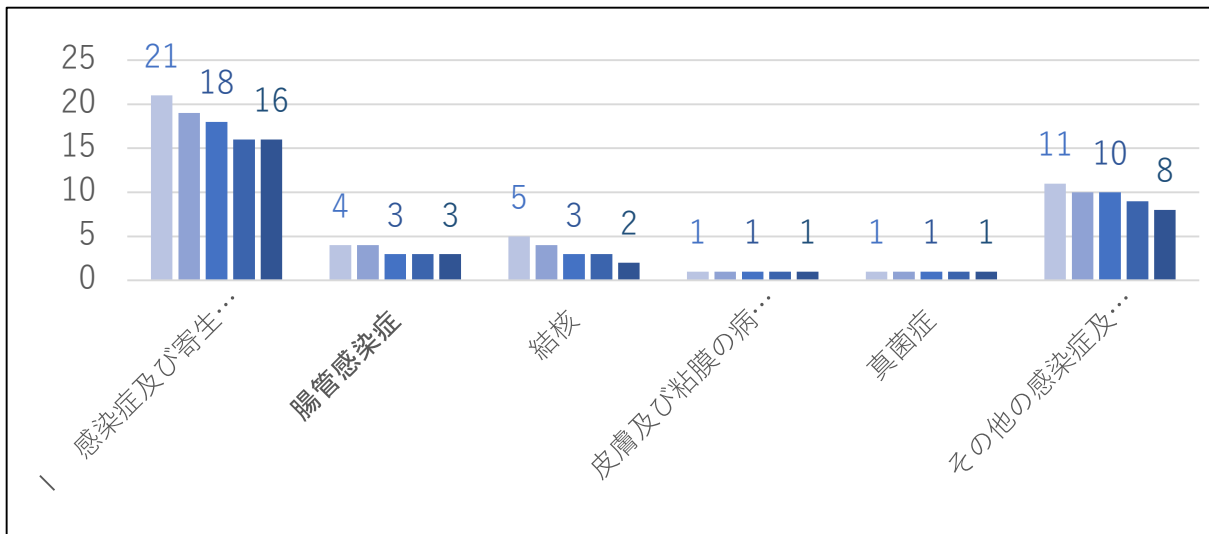
患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-全国、入院（Ⅰ～Ⅹ）【総括表】



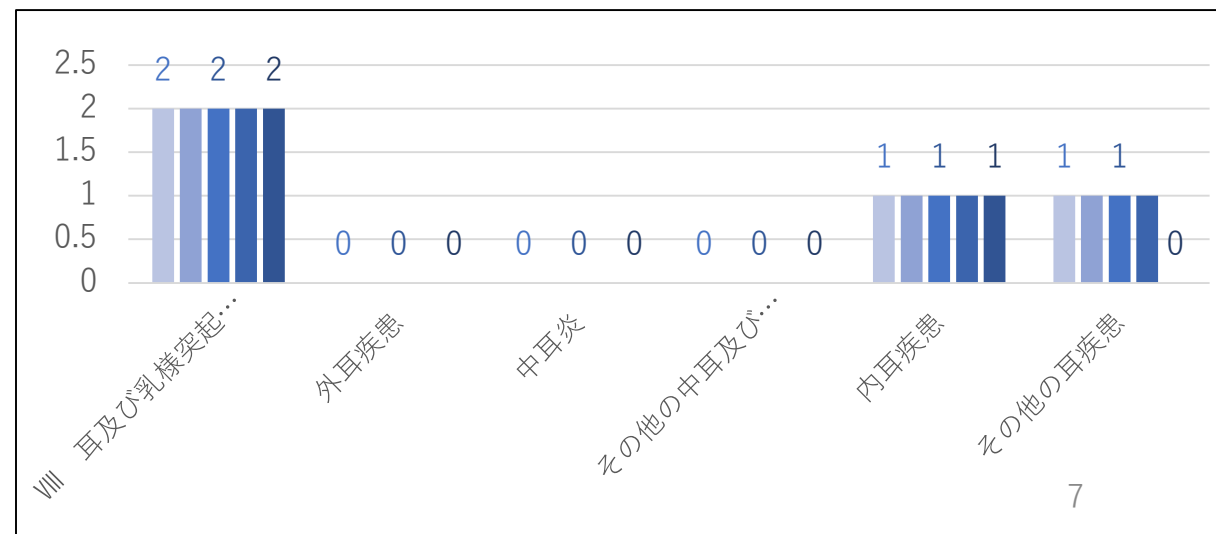
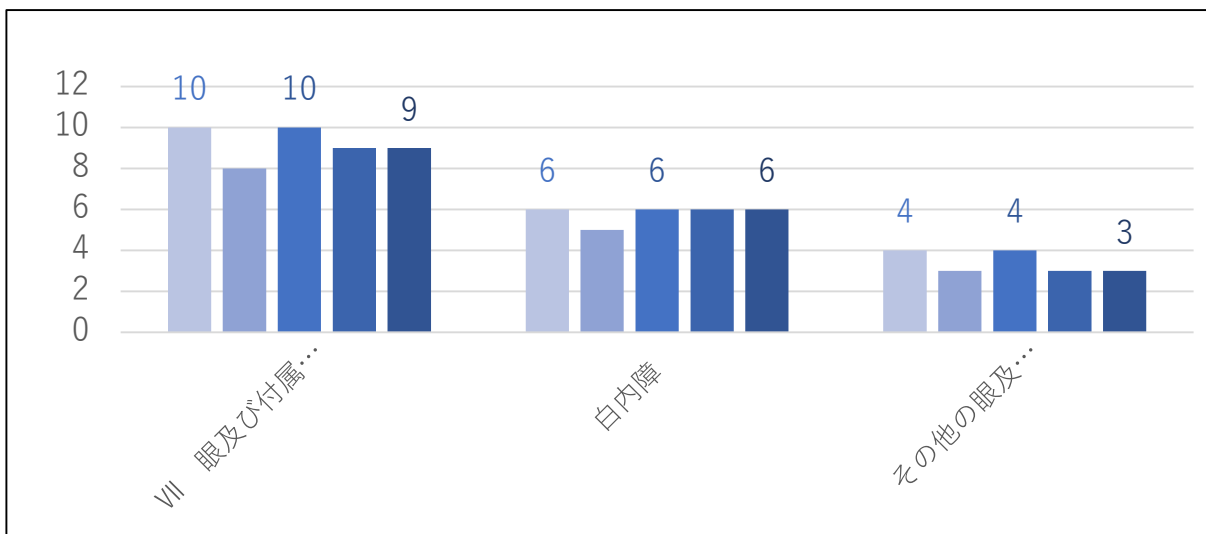
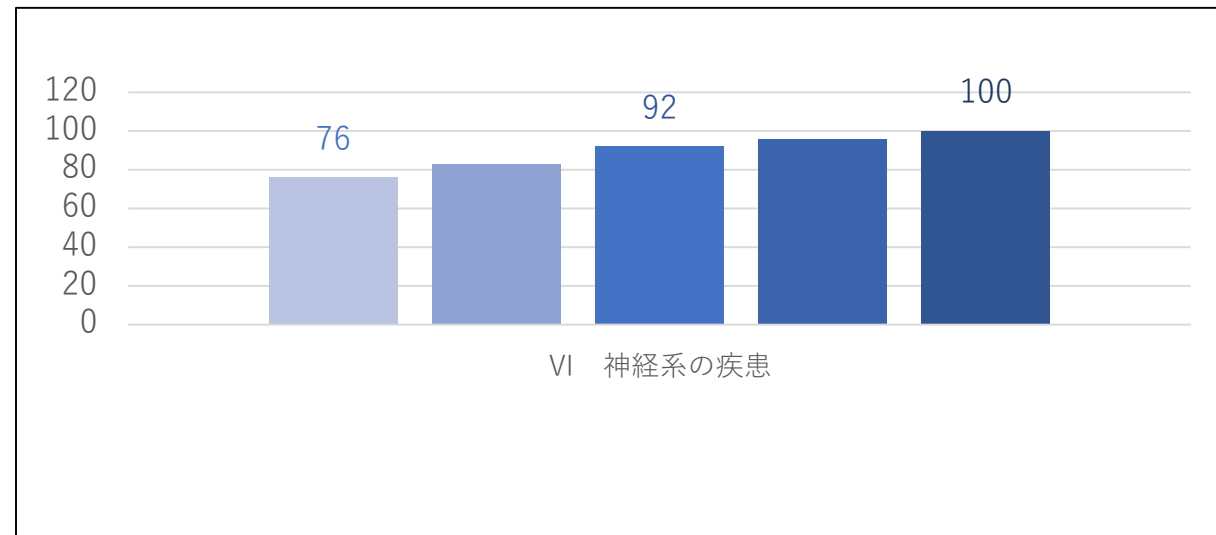
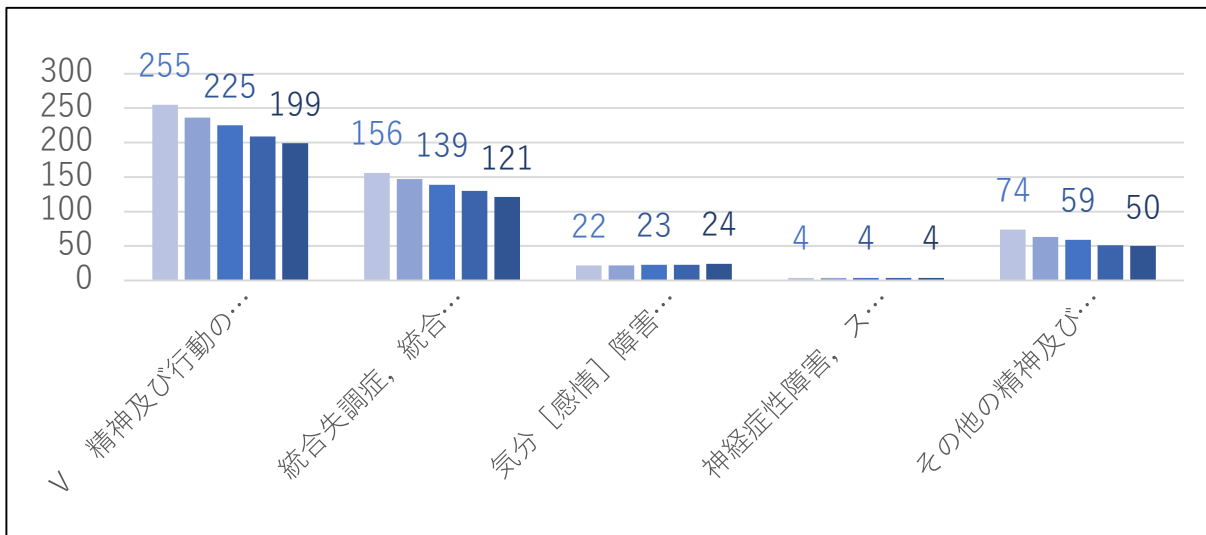
患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-全国、入院（X I～X X I）【総括表】



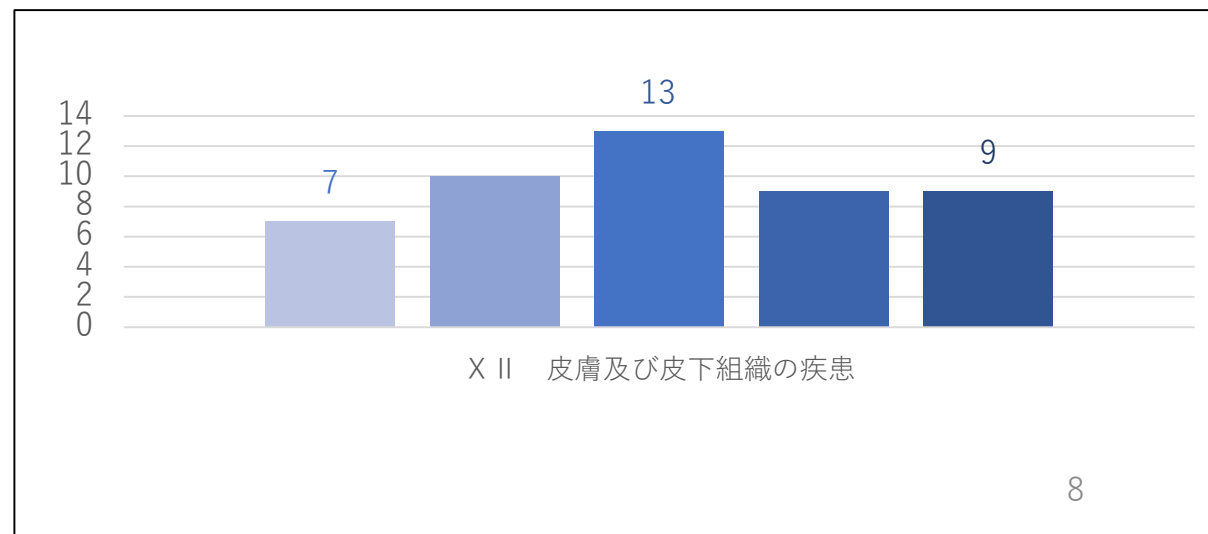
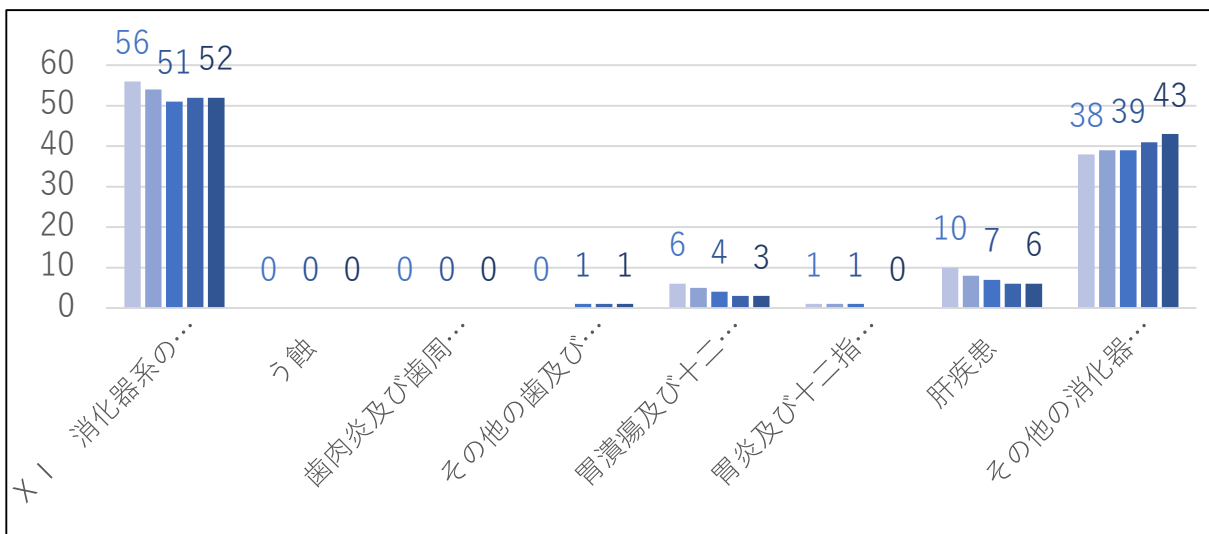
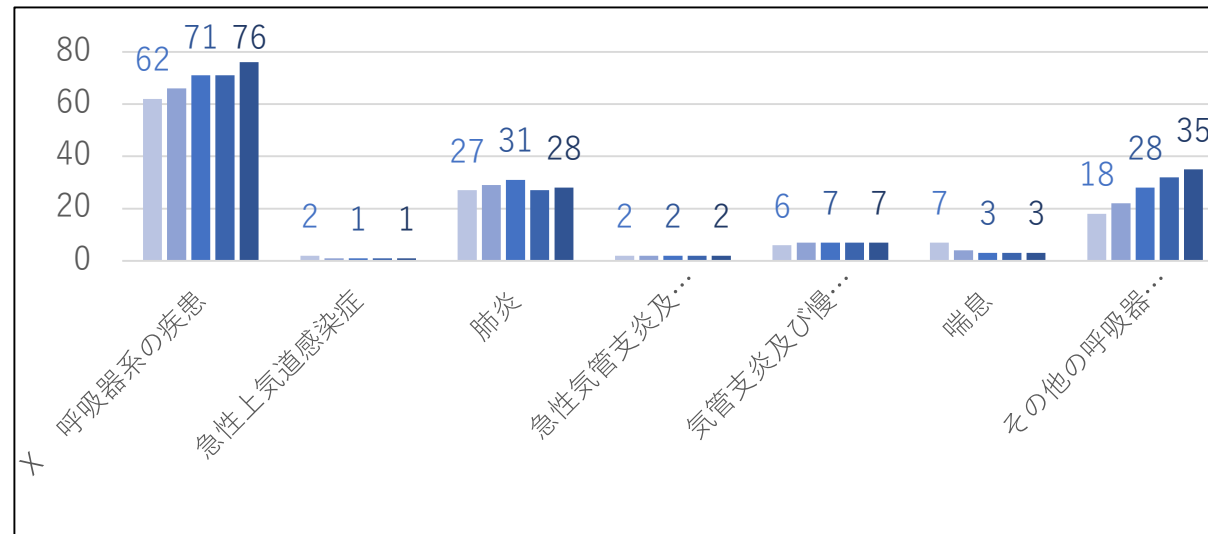
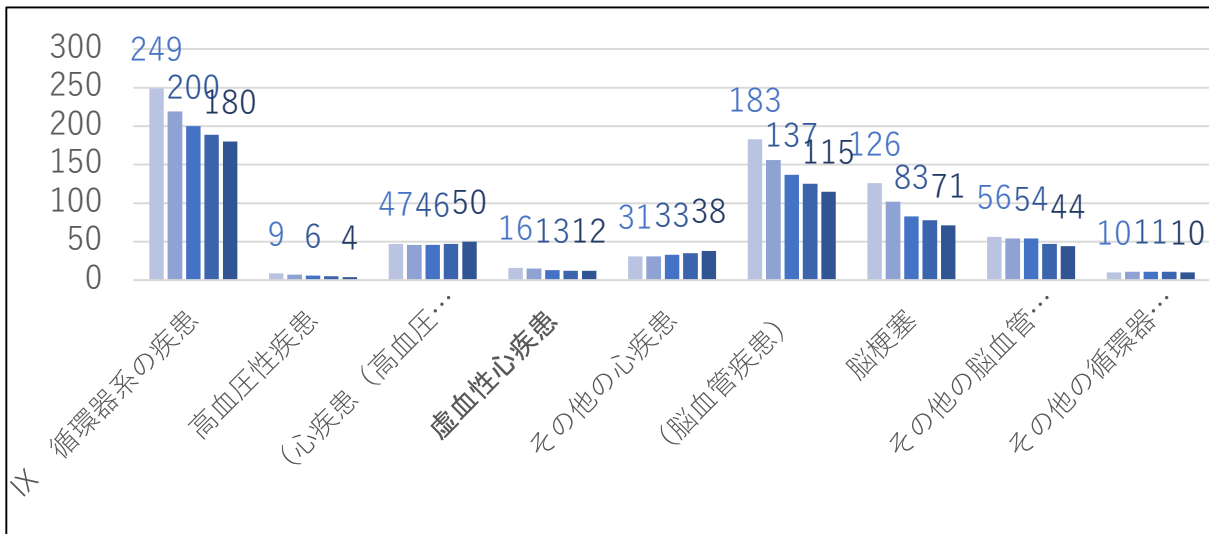
患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-全国、入院（Ⅰ～Ⅳ）



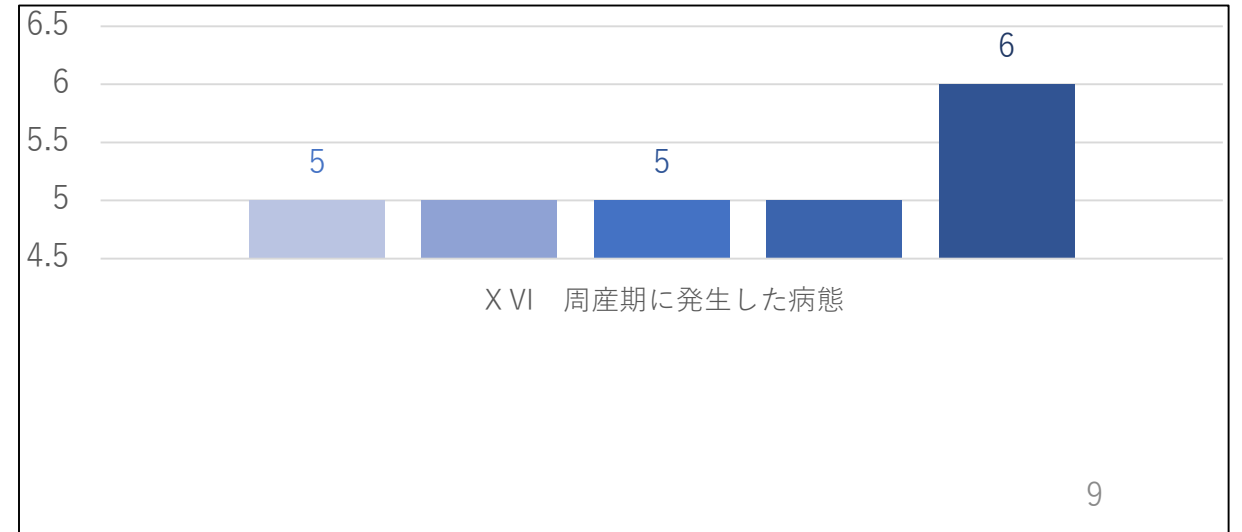
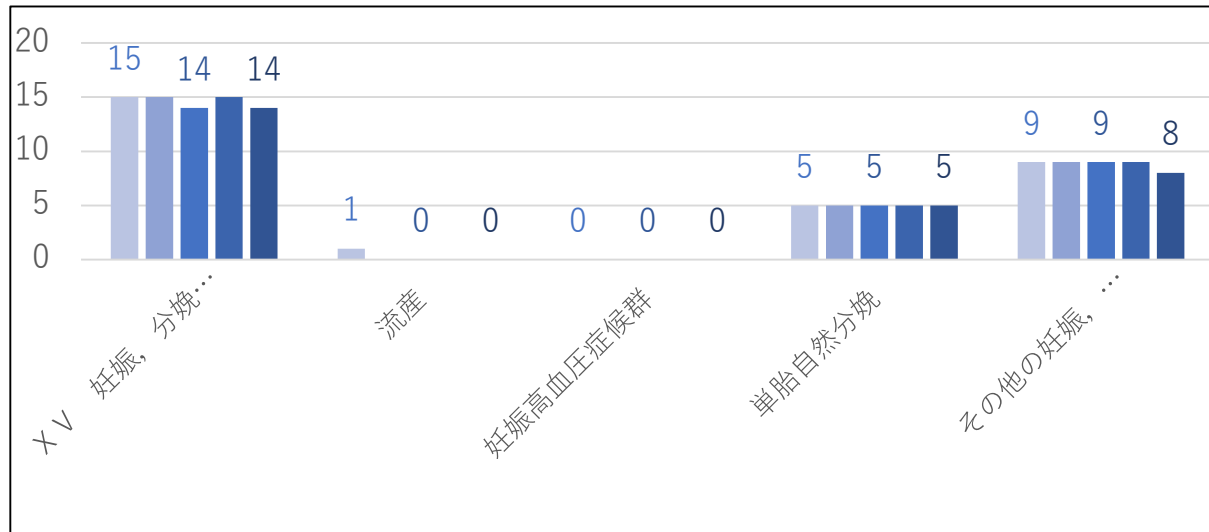
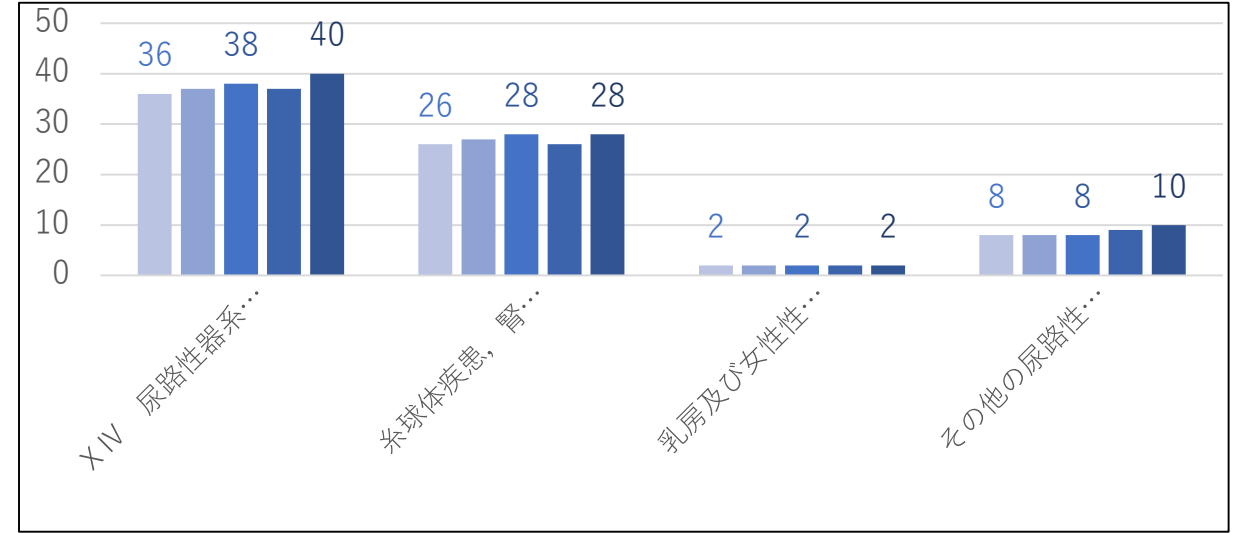
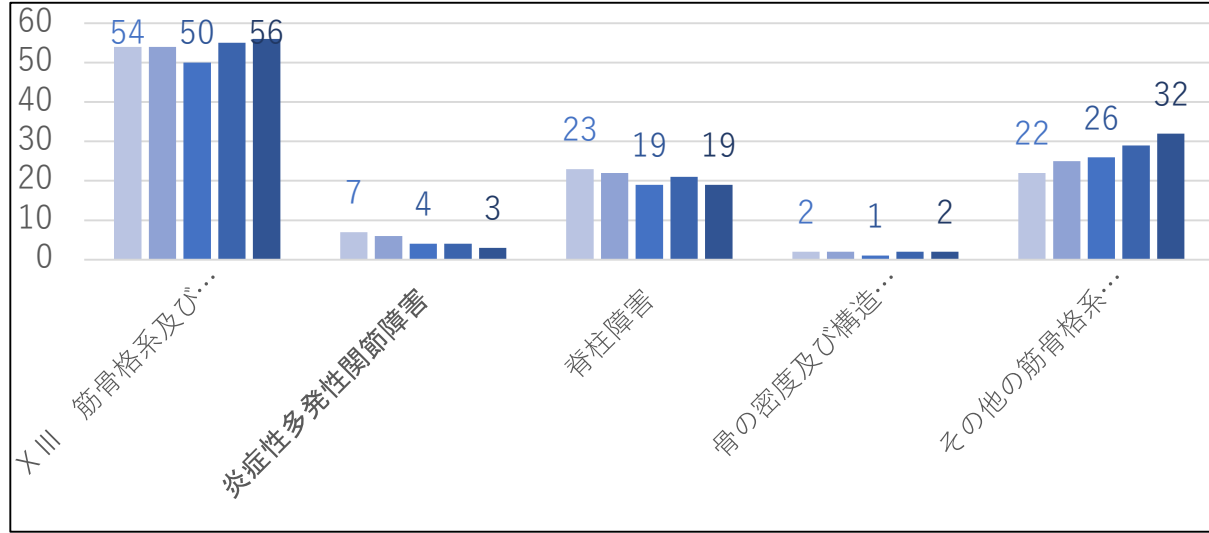
患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-全国、入院（V～VIII）



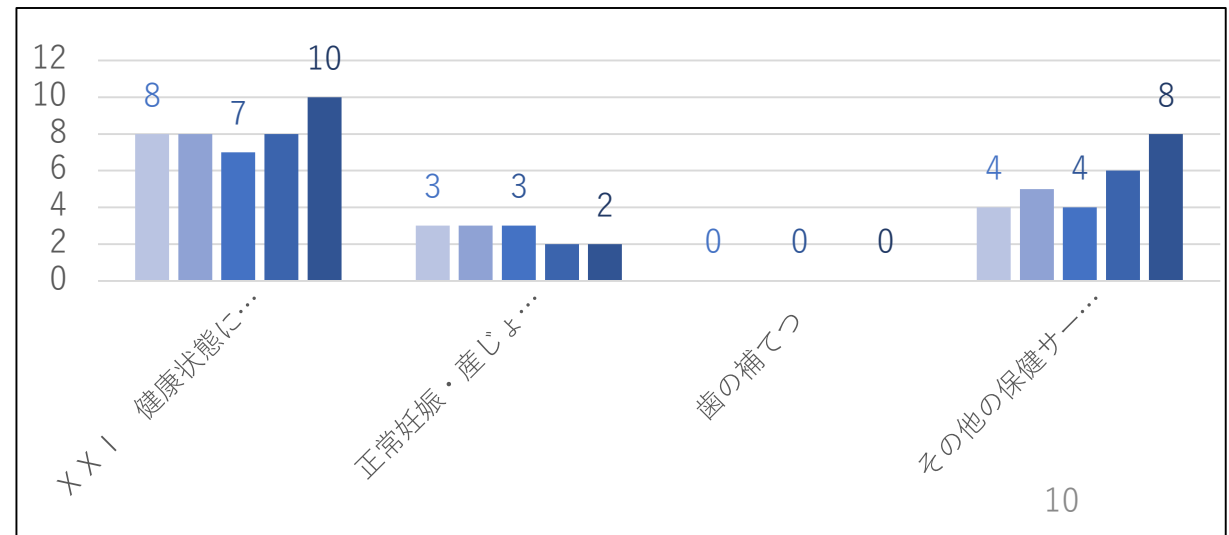
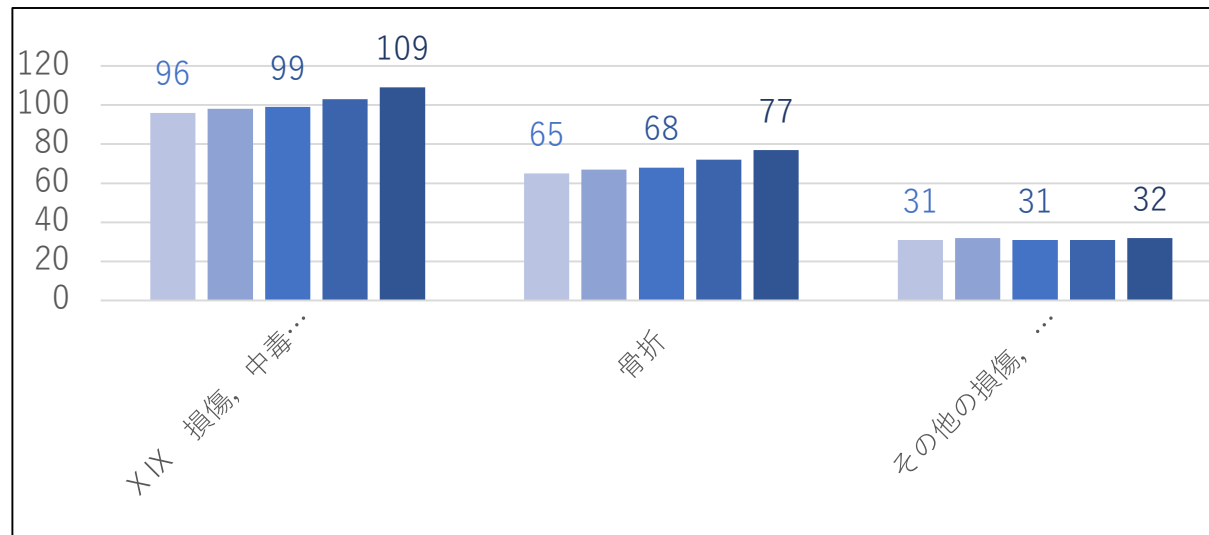
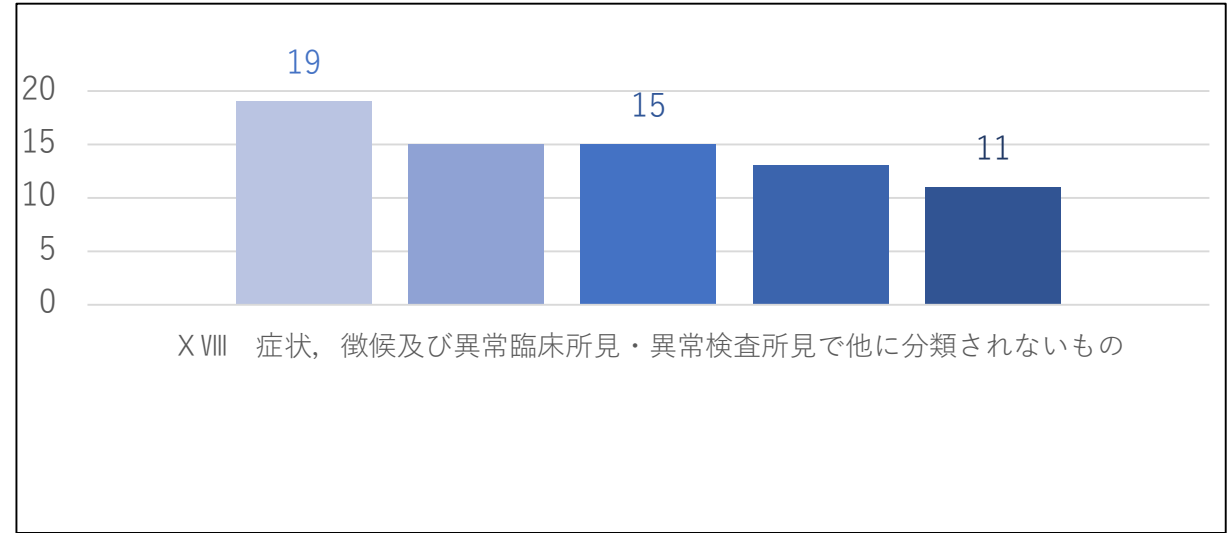
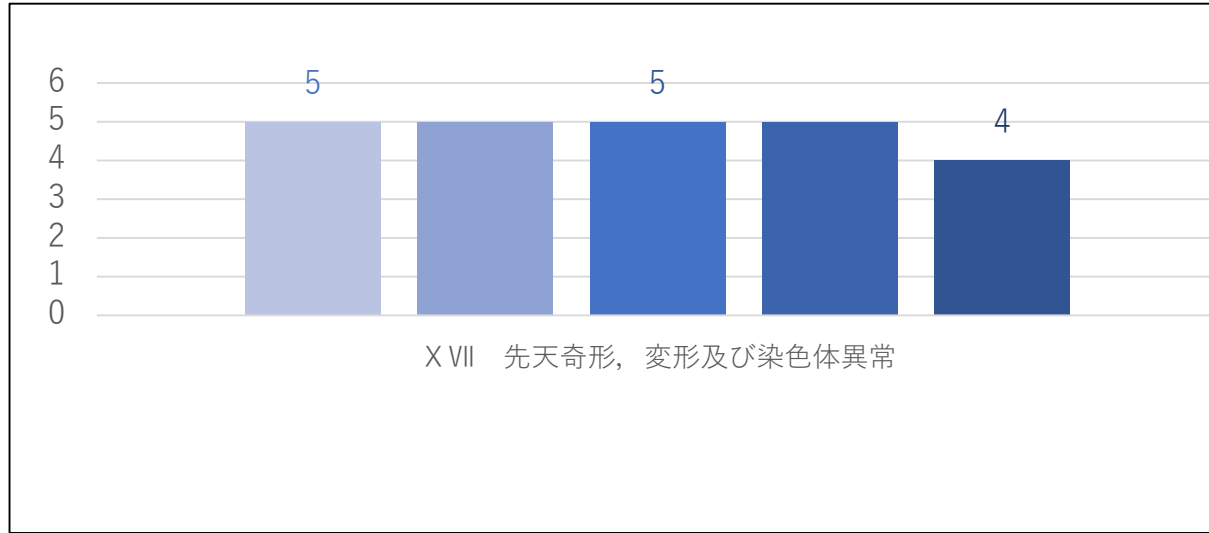
患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-全国、入院（IX～XII）



患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-全国、入院（X III～X VI）



患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-全国、入院（X VII～X XI）



患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-全国、入院

受療率（降順上位3位）：「V 精神及び行動の障害」「IX 循環器系の疾患」「II 新生物」

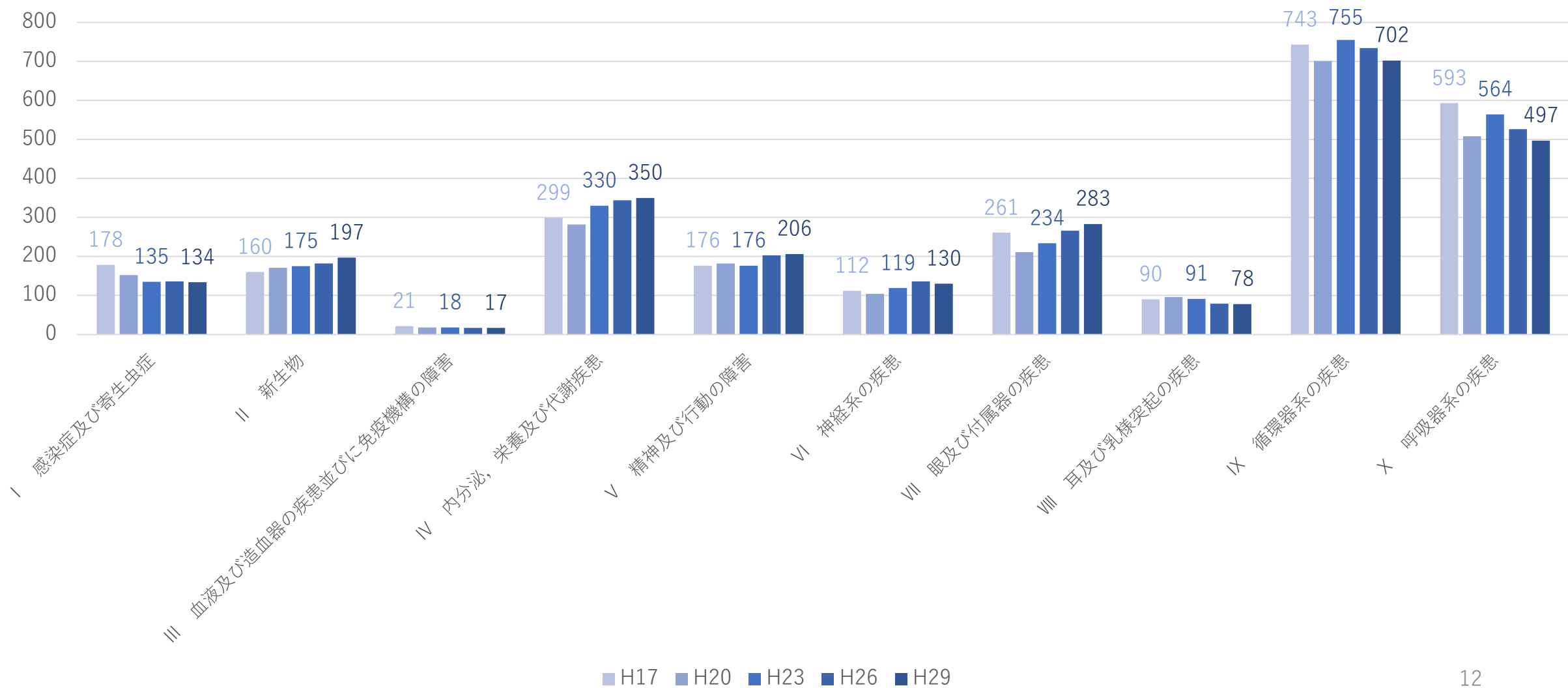
減少傾向（降順上位3位）：「IX 循環器系の疾患」「V 精神及び行動の障害」「II 新生物」

増加傾向（降順上位3位）：「VI 神経系の疾患」「X 呼吸器系の疾患」「XIX 損傷，中毒及びその他の外因の影響」

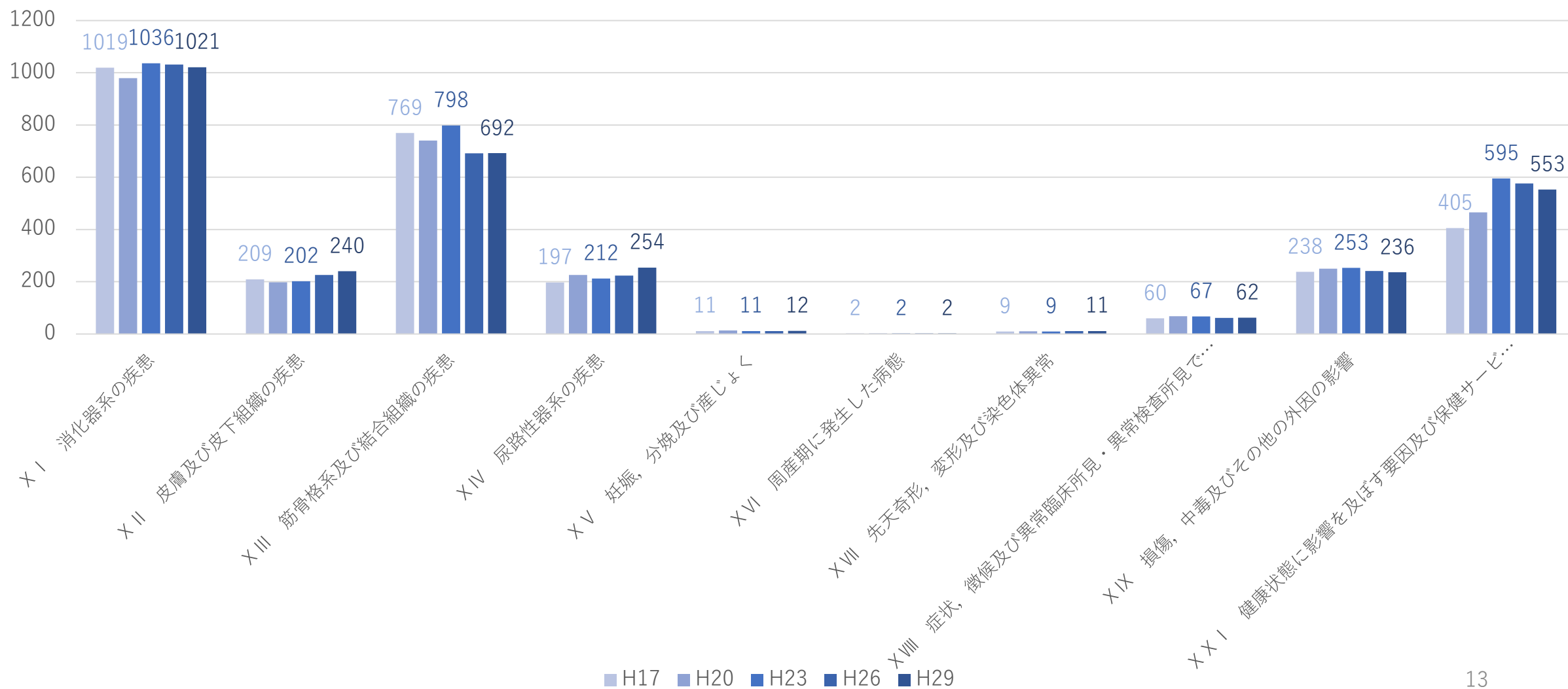
		受療率（平成17年時点）		12年間での平均的な増減※	
		傷病分類	受療率	受療率	増減
1位	V	精神及び行動の障害	255	→	-56 減
2位	IX	循環器系の疾患	249	→	-67 減
3位	II	新生物	133	→	-21 減
4位	XIX	損傷，中毒及びその他の外因の影響	96	→	12 増
5位	VI	神経系の疾患	76	→	24 増
6位	X	呼吸器系の疾患	62	→	13 増
7位	XI	消化器系の疾患	56	→	-4 減
8位	XIII	筋骨格系及び結合組織の疾患	54	→	2 増
9位	XIV	尿路性器系の疾患	36	→	3 増
10位	IV	内分泌，栄養及び代謝疾患	31	→	-5 減

※ 平成17,20,23,26,29年の5年（通算12年）分のデータをSLOPE関数（単回帰分析）により増減を算出した。

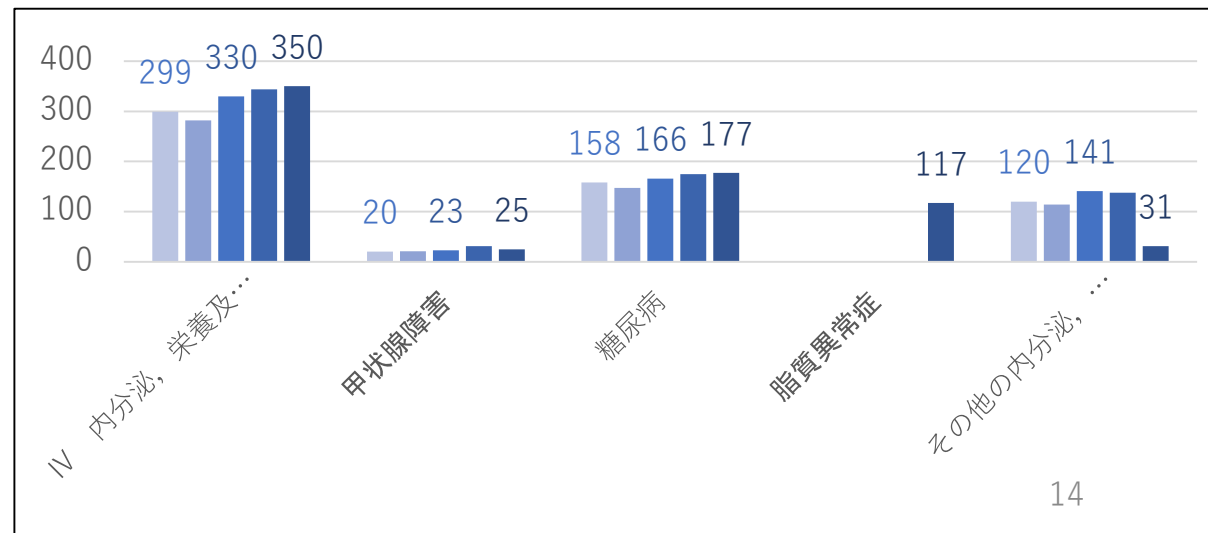
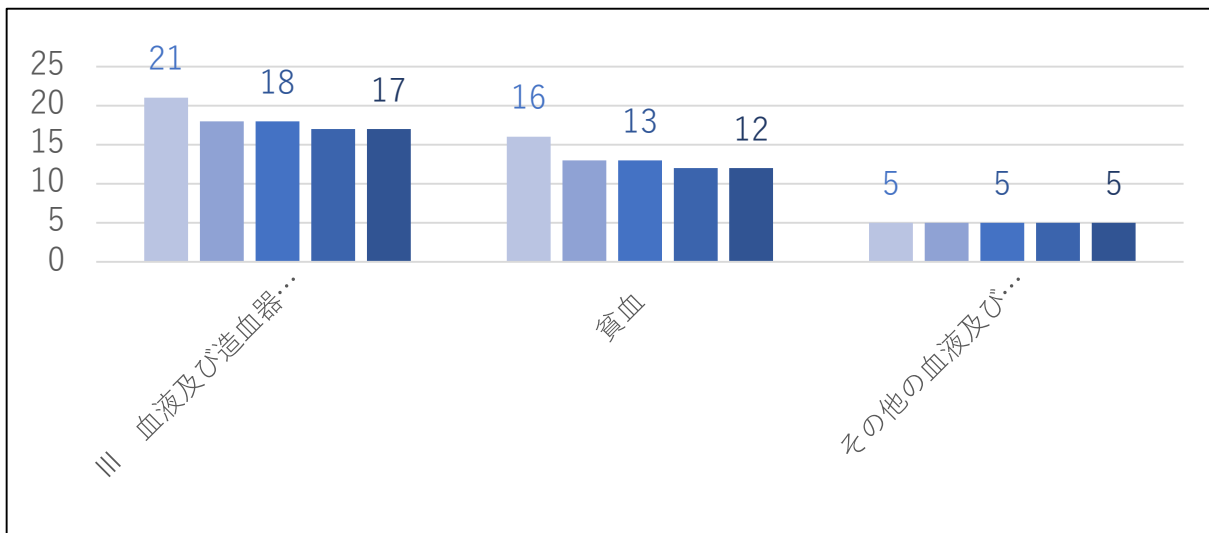
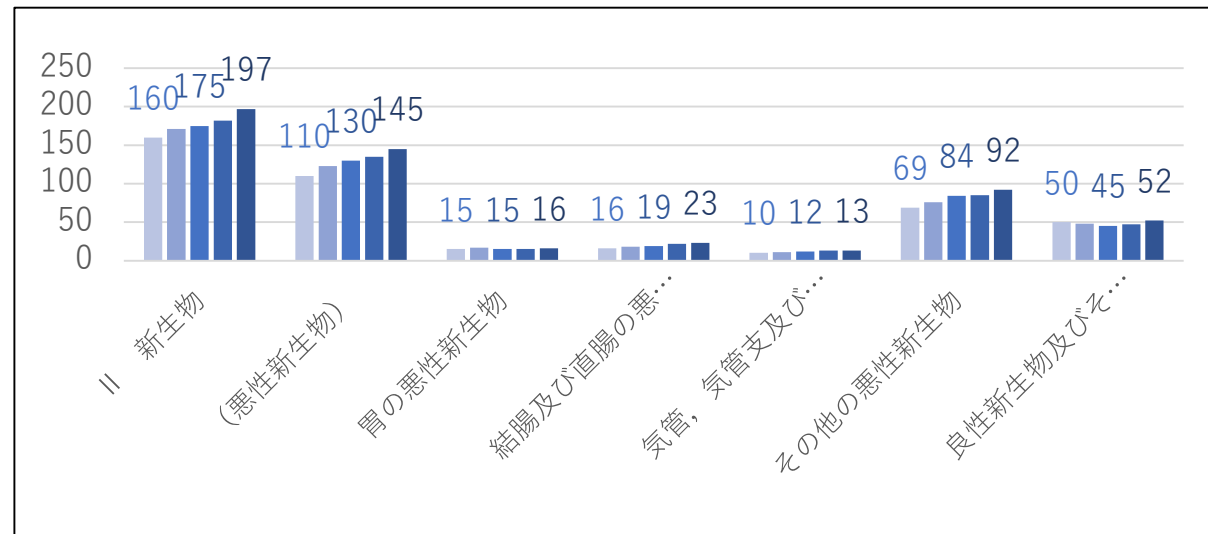
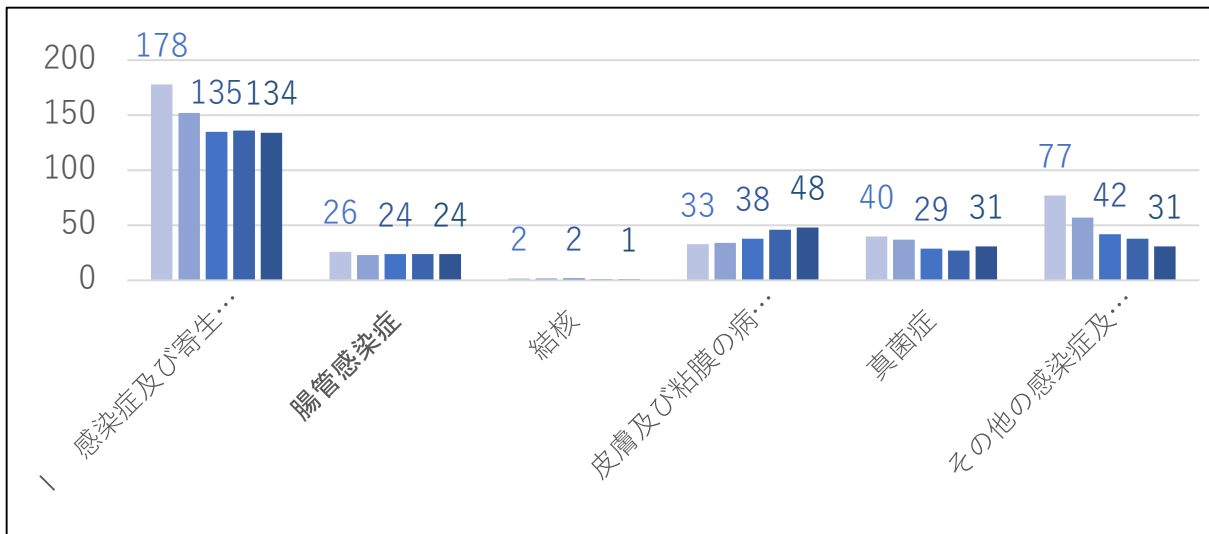
患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-全国、外来（I～X）



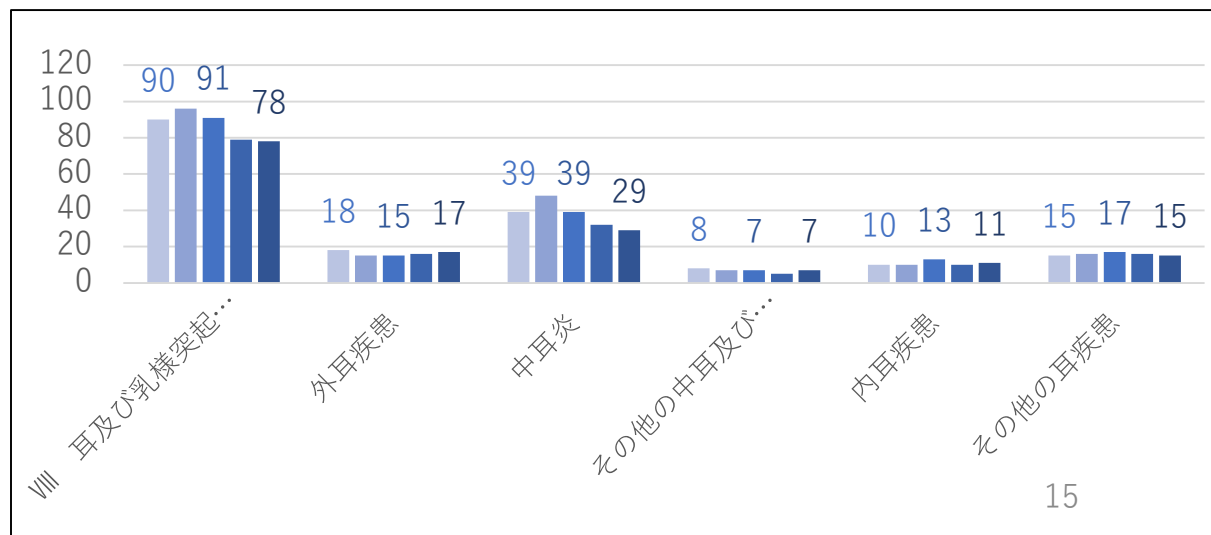
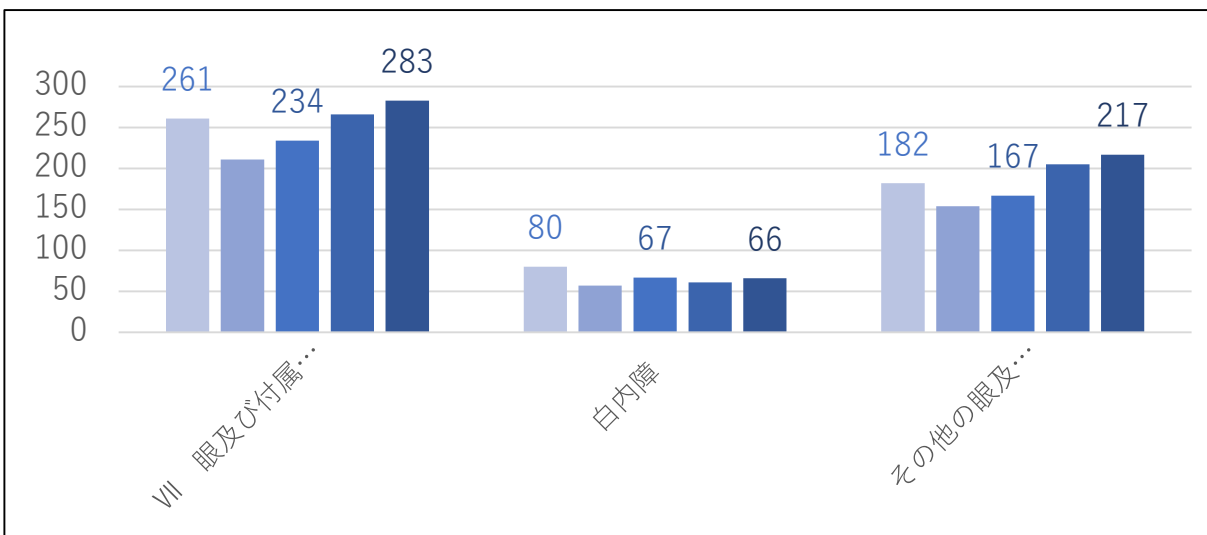
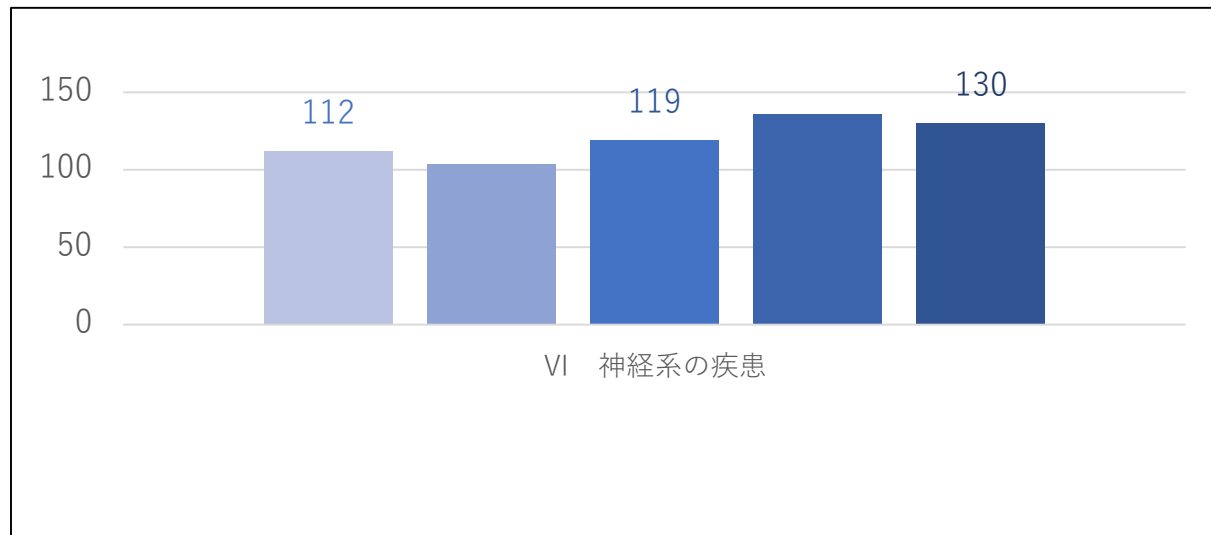
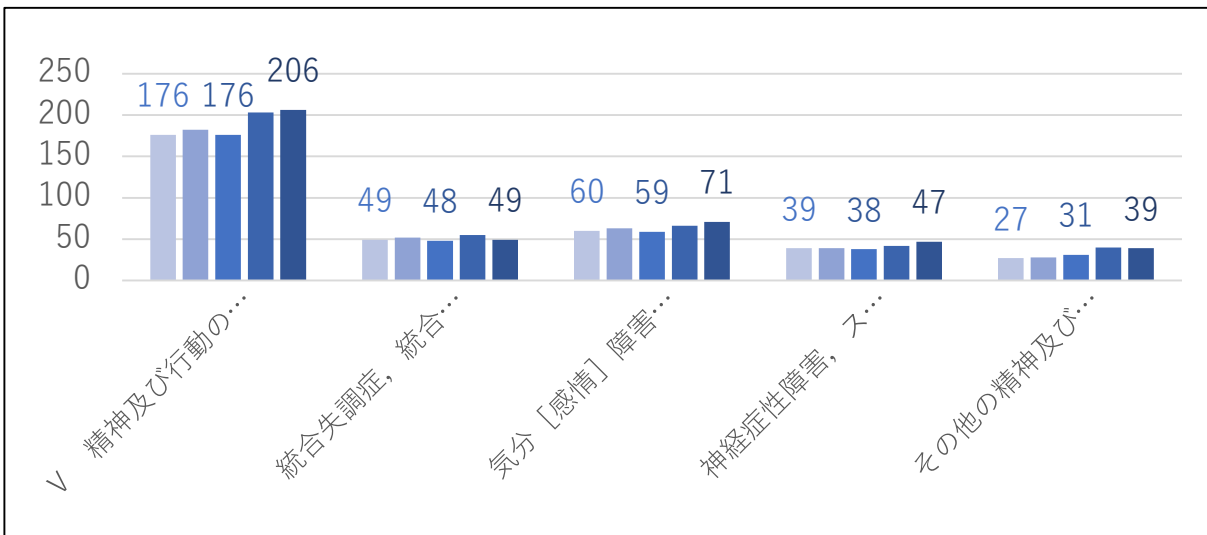
患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-全国、外来（I～X）



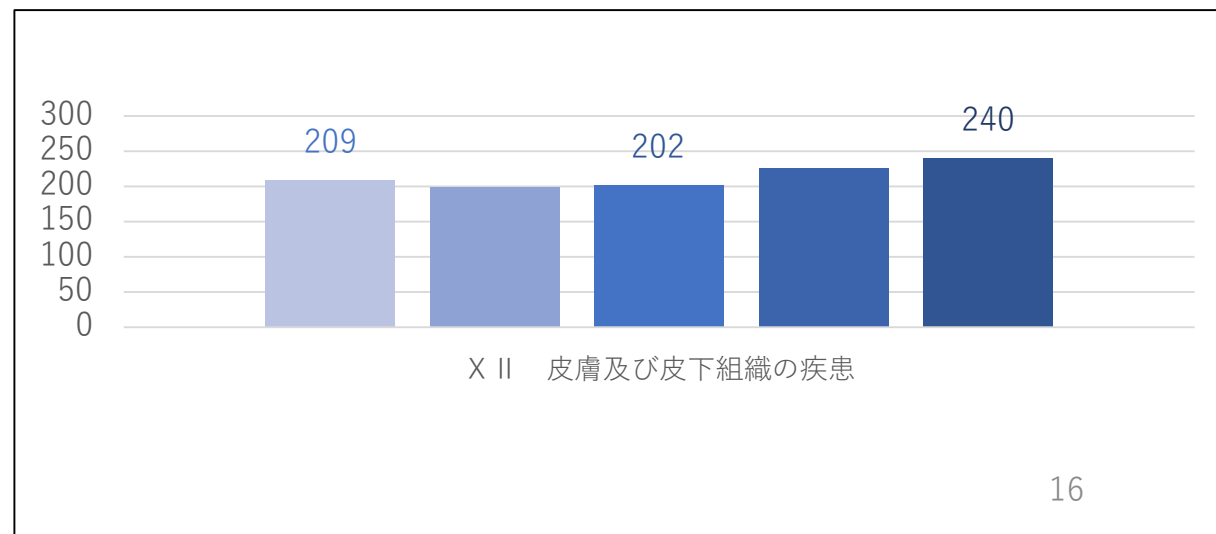
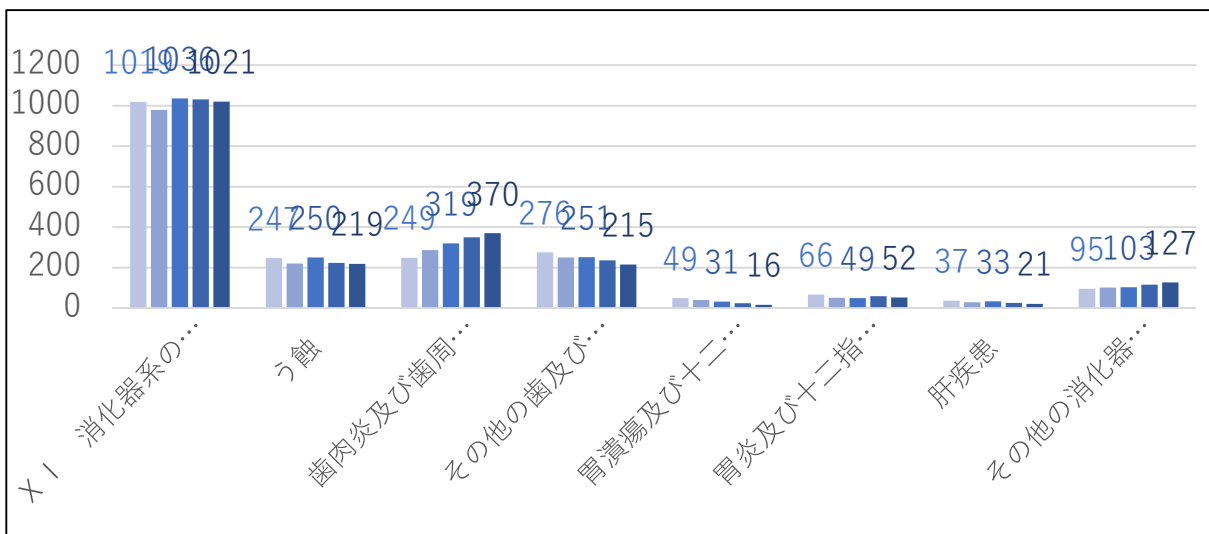
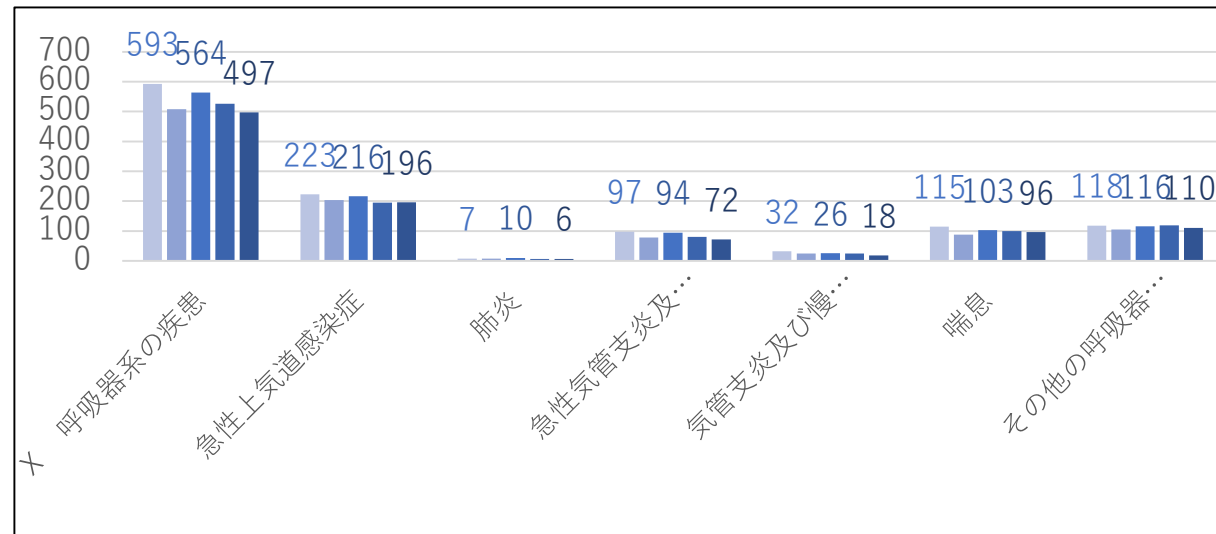
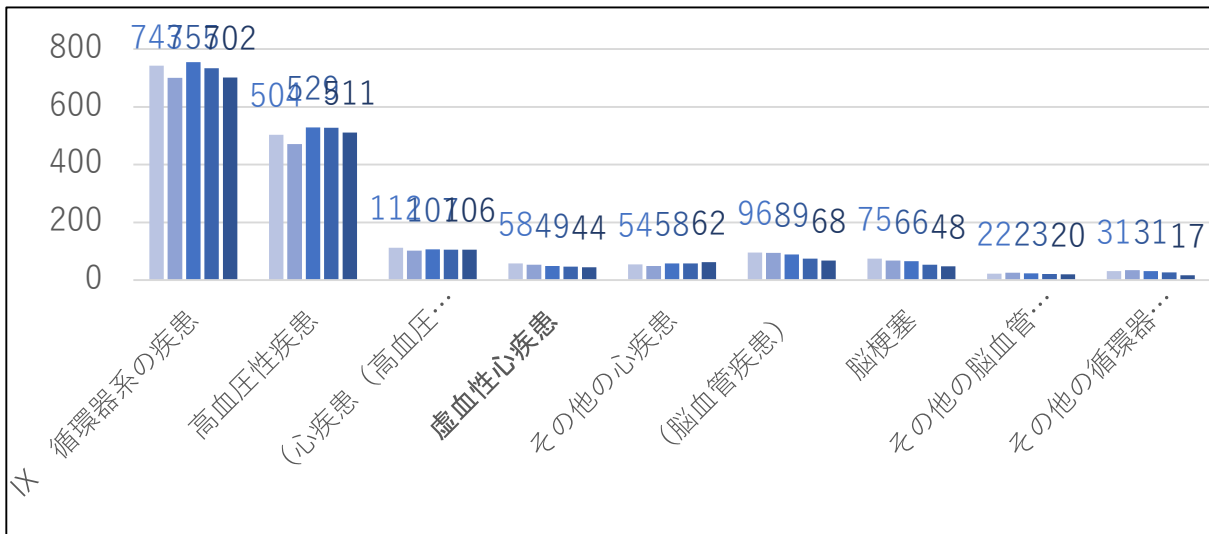
患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-全国、外来（Ⅰ～Ⅳ）



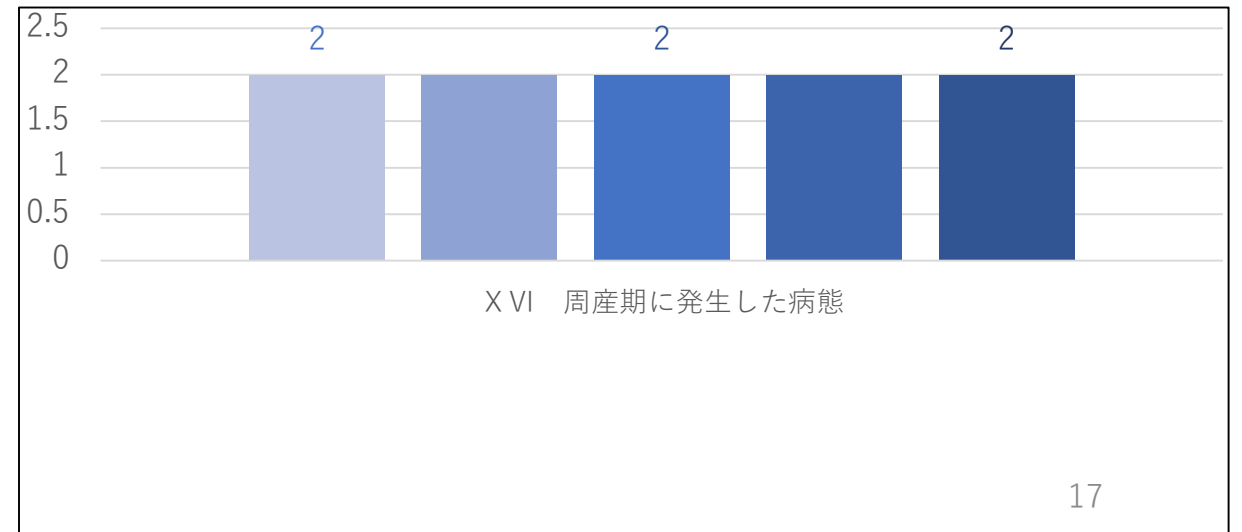
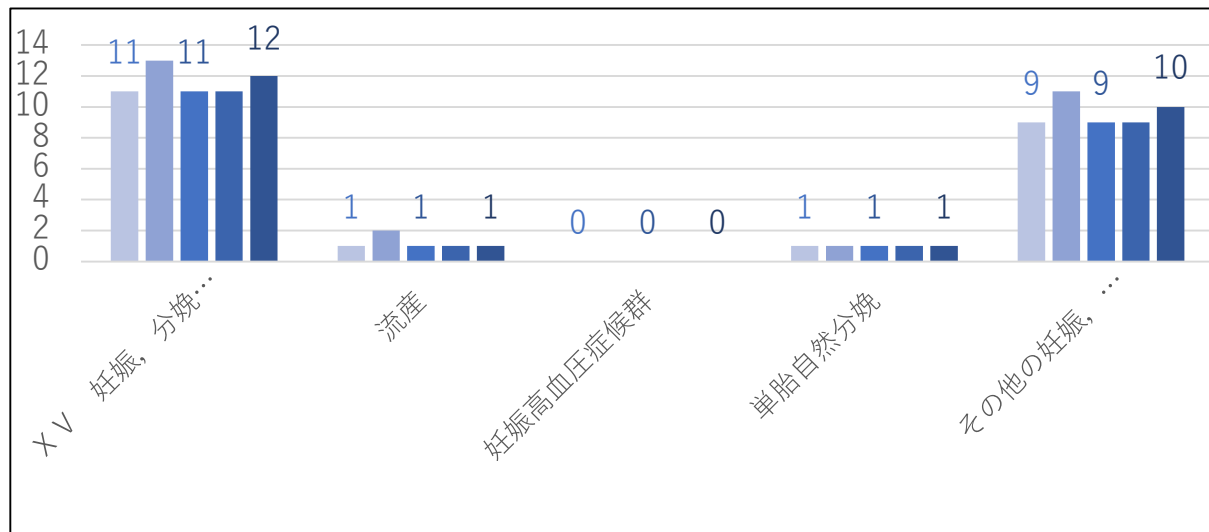
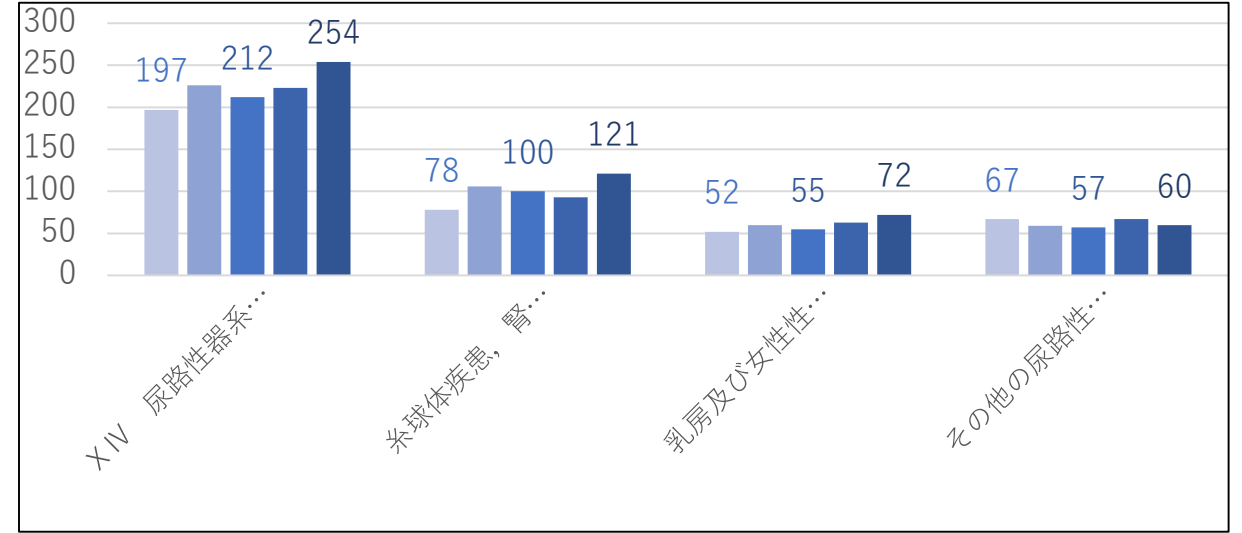
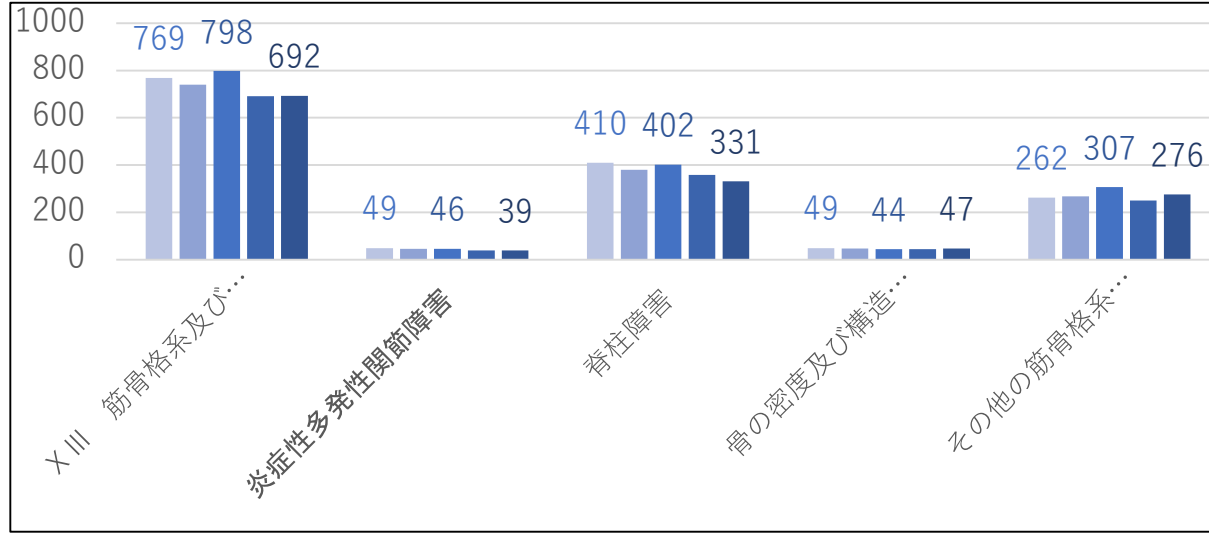
患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-全国、外来（Ⅴ～Ⅷ）



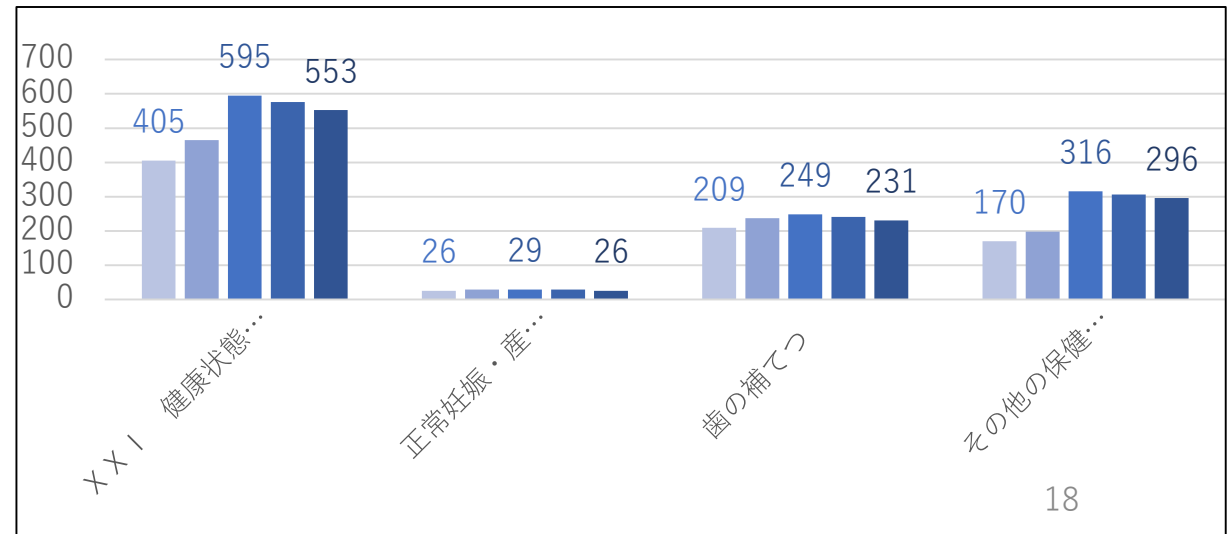
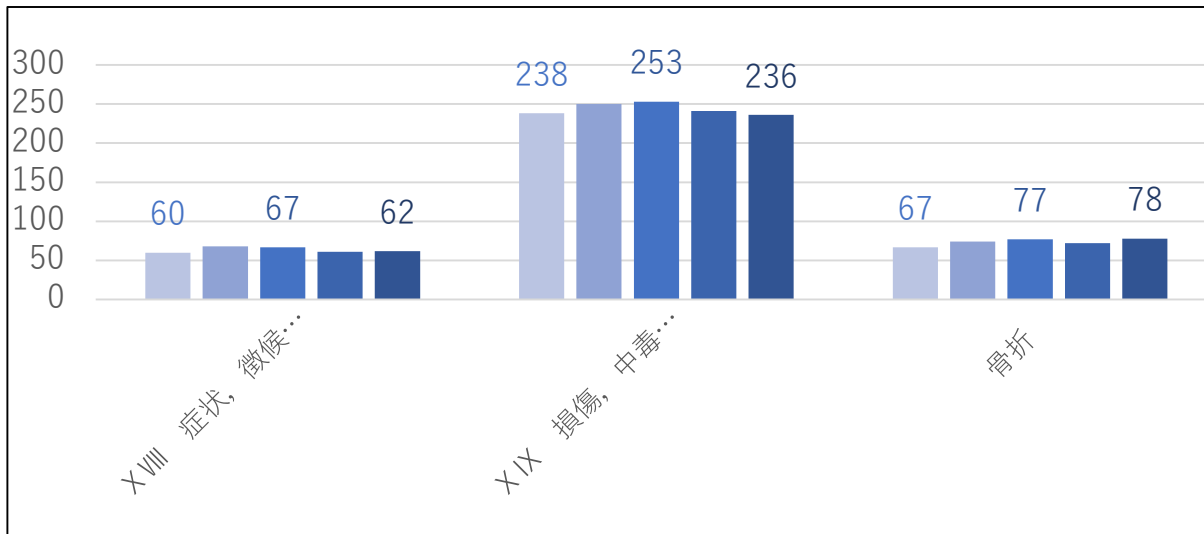
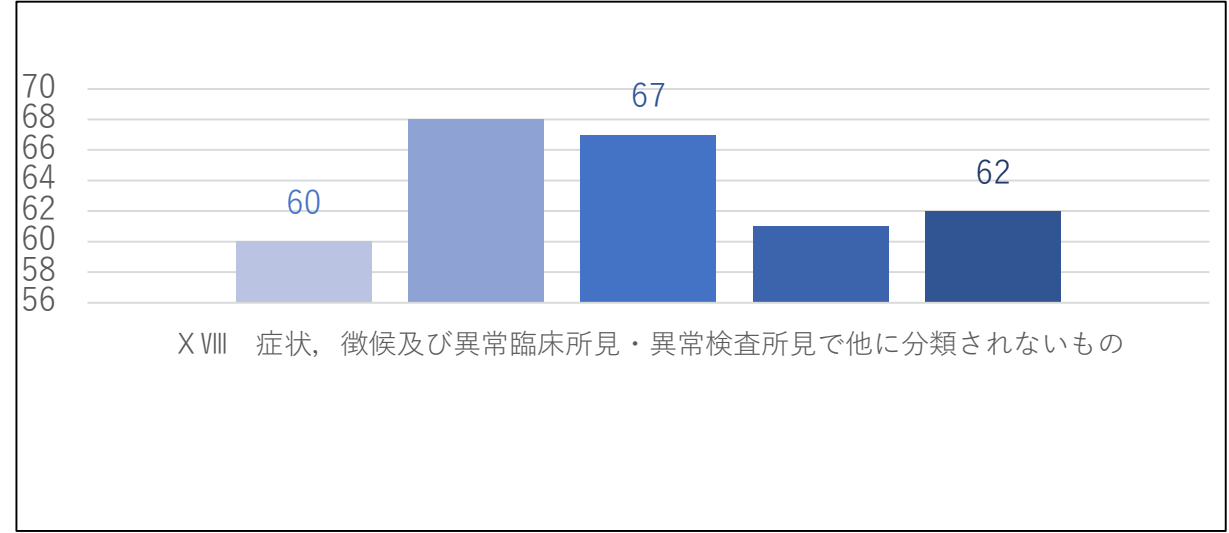
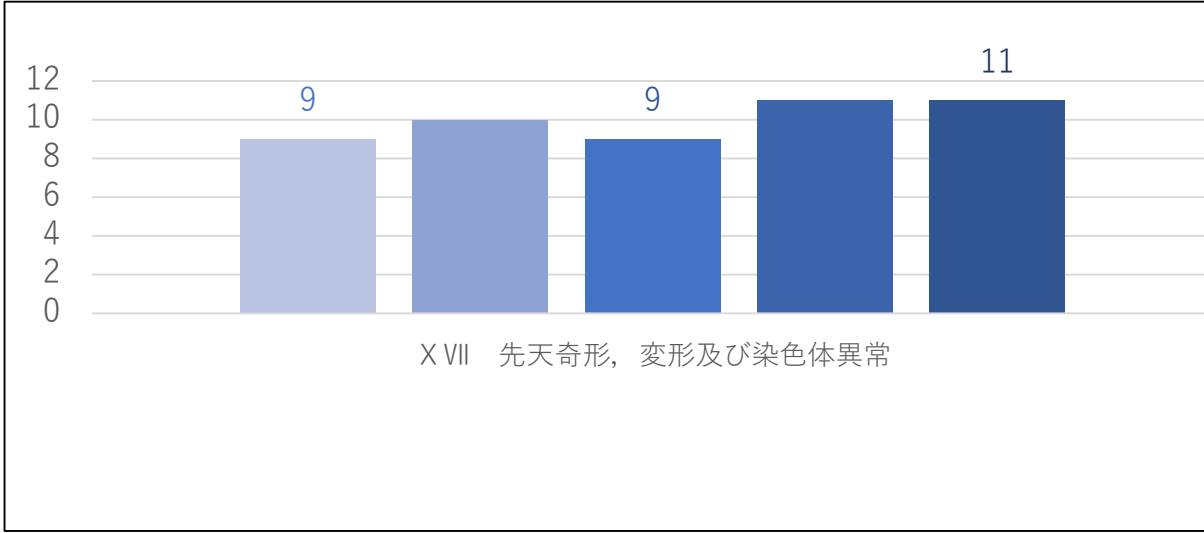
患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-全国、外来（IX～XII）



患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-全国、外来（X III～X VI）



患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-全国、外来（X VII～X XI）



患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-全国、外来

受療率（降順上位3位）：「X I 消化器系の疾患」「X I 消化器系の疾患」「IX 循環器系の疾患」

減少傾向（降順上位3位）：「IX 循環器系の疾患」「X 呼吸器系の疾患」「IX 循環器系の疾患」

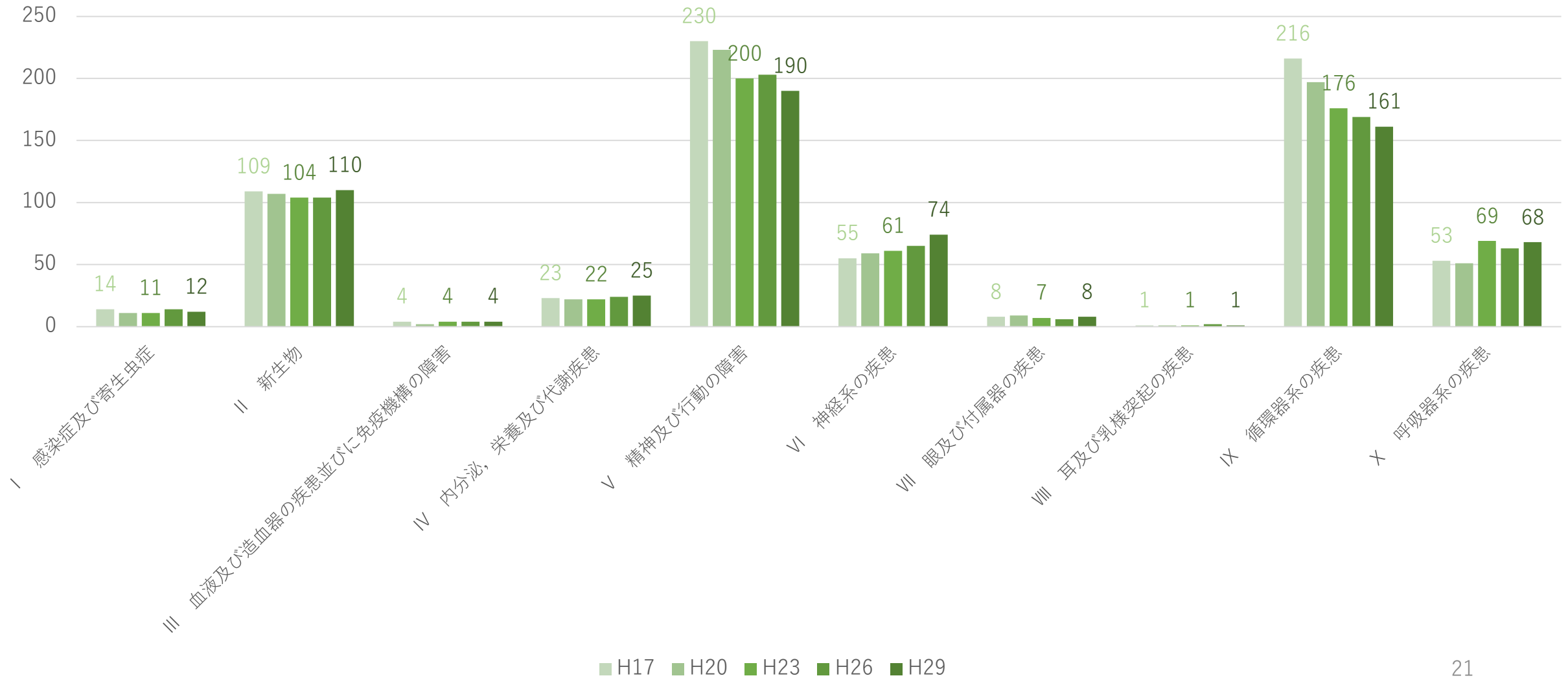
増加傾向（降順上位3位）：「XX I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」「IV 内分泌、栄養及び代謝疾患」「VII 眼及び付属器の疾患」

		受療率（平成17年時点）		12年間での平均的な増減※	
		傷病分類	受療率	受療率	増減
1位	X I	消化器系の疾患	1,019	→ 22	増
2位	X III	筋骨格系及び結合組織の疾患	769	→ -81	減
3位	IX	循環器系の疾患	743	→ -20	減
4位	X	呼吸器系の疾患	593	→ -70	減
5位	XX I	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	405	→ 163	増
6位	IV	内分泌、栄養及び代謝疾患	299	→ 66	増
7位	VII	眼及び付属器の疾患	261	→ 40	増
8位	X IX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	238	→ -5	減
9位	X II	皮膚及び皮下組織の疾患	209	→ 36	増
10位	X IV	尿路性器系の疾患	197	→ 44	増

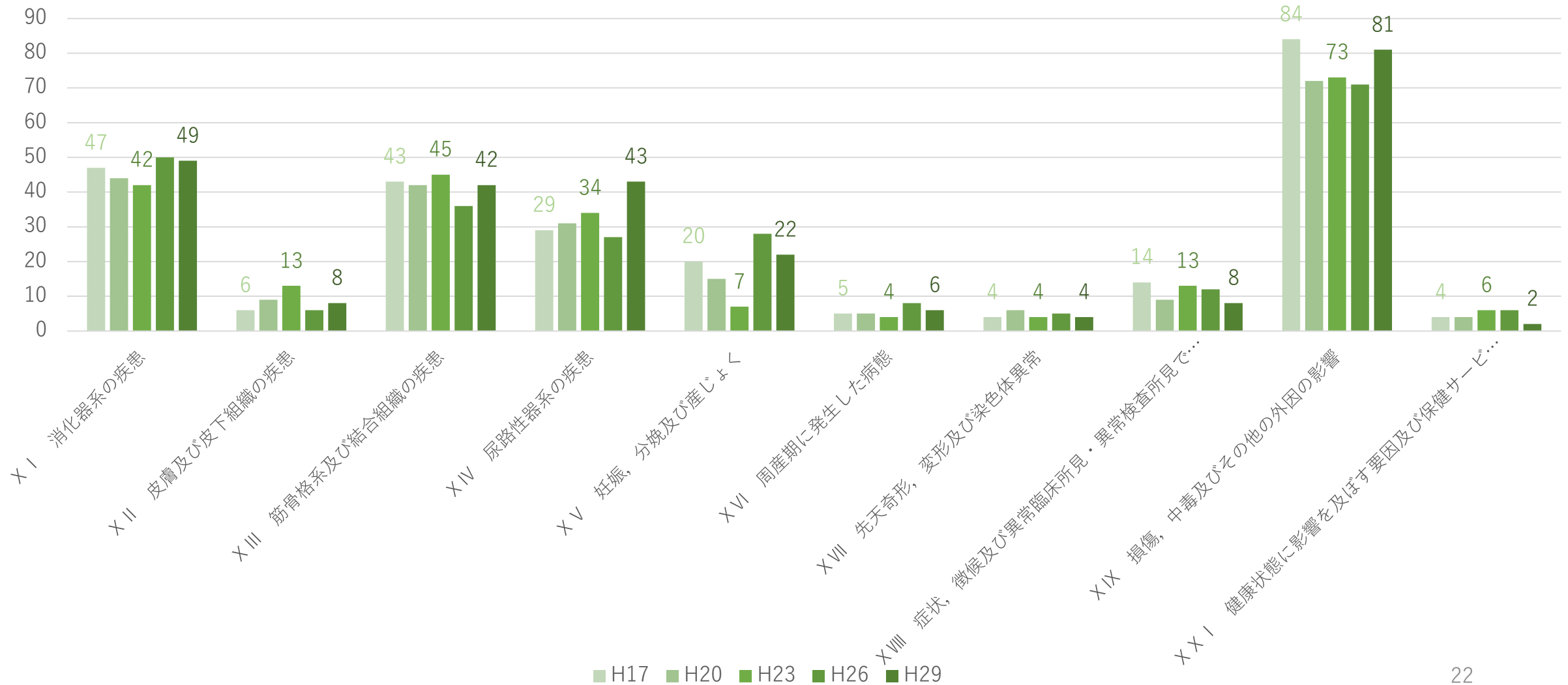
※ 平成17,20,23,26,29年の5年（通算12年）分のデータをSLOPE関数（単回帰分析）により増減を算出した。

栃木県

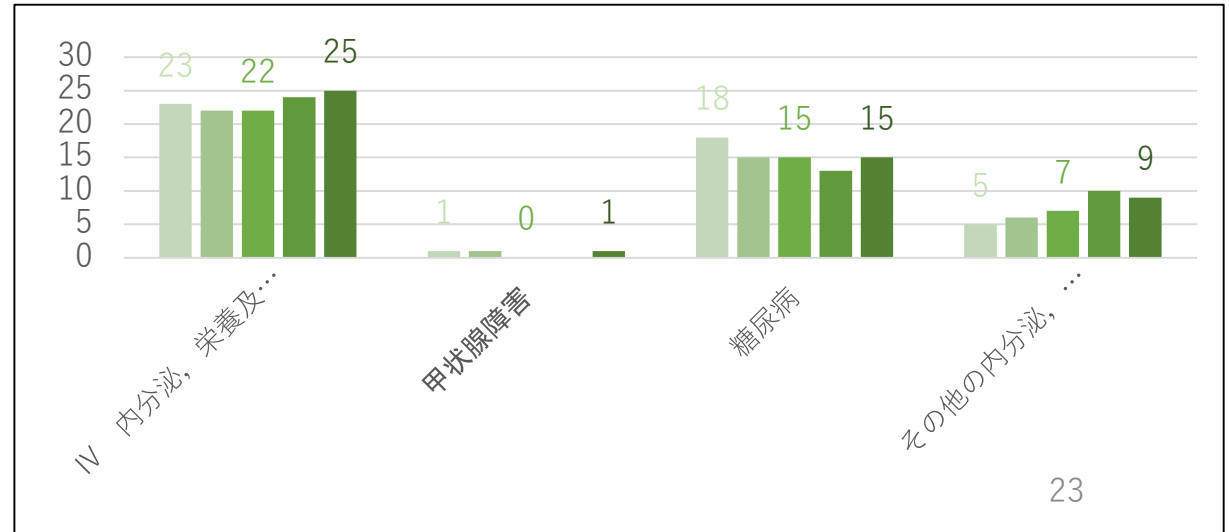
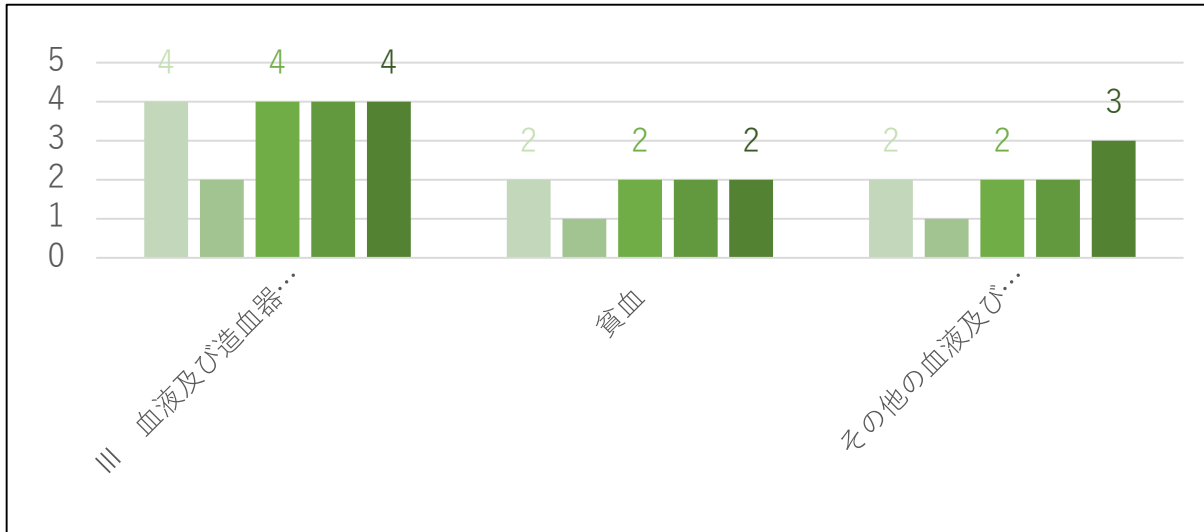
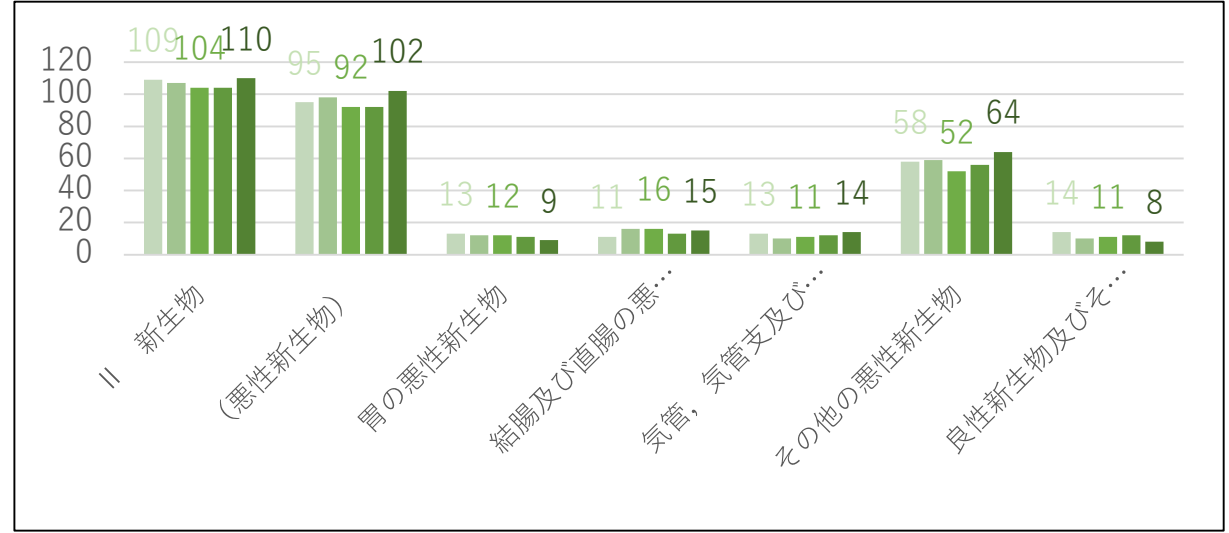
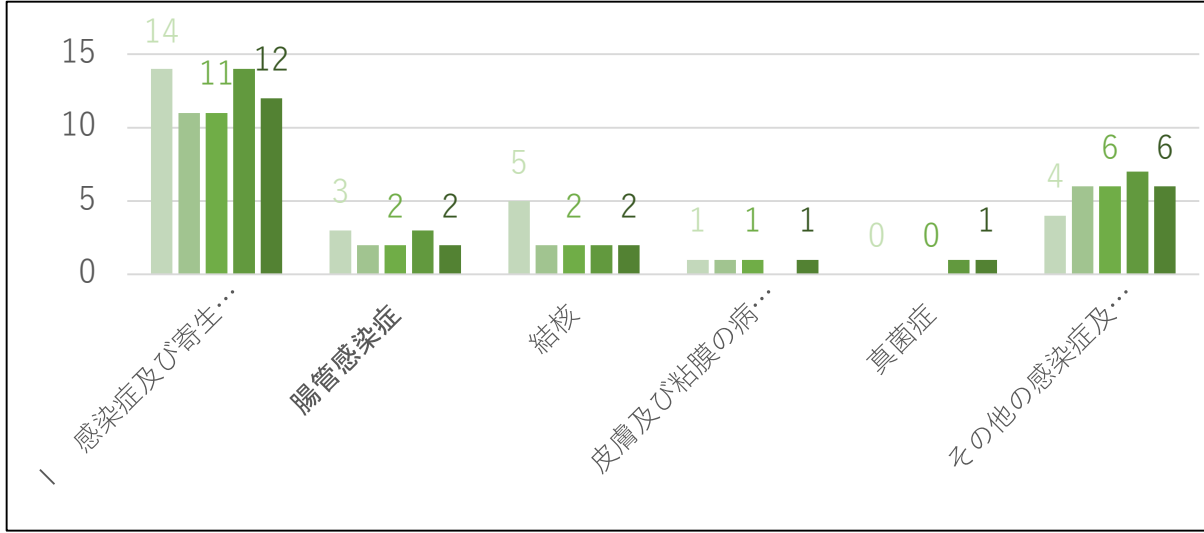
患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-栃木県、入院（Ⅰ～Ⅹ）



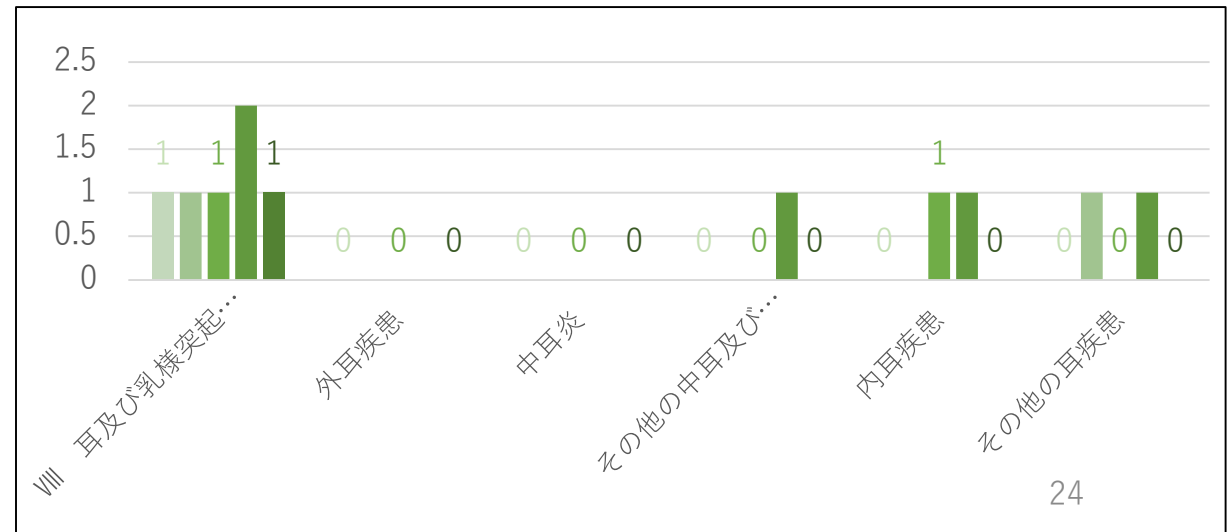
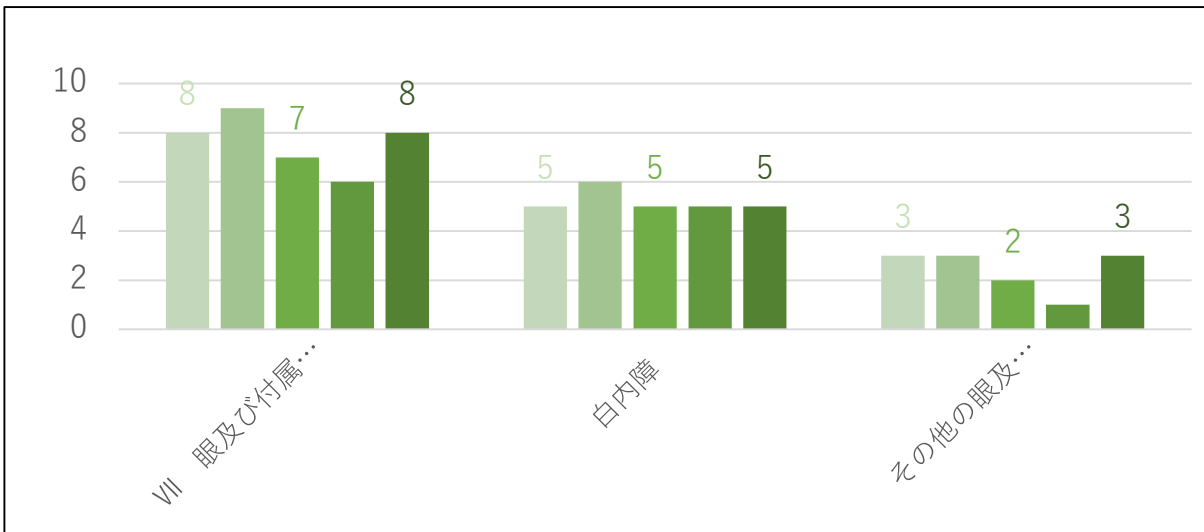
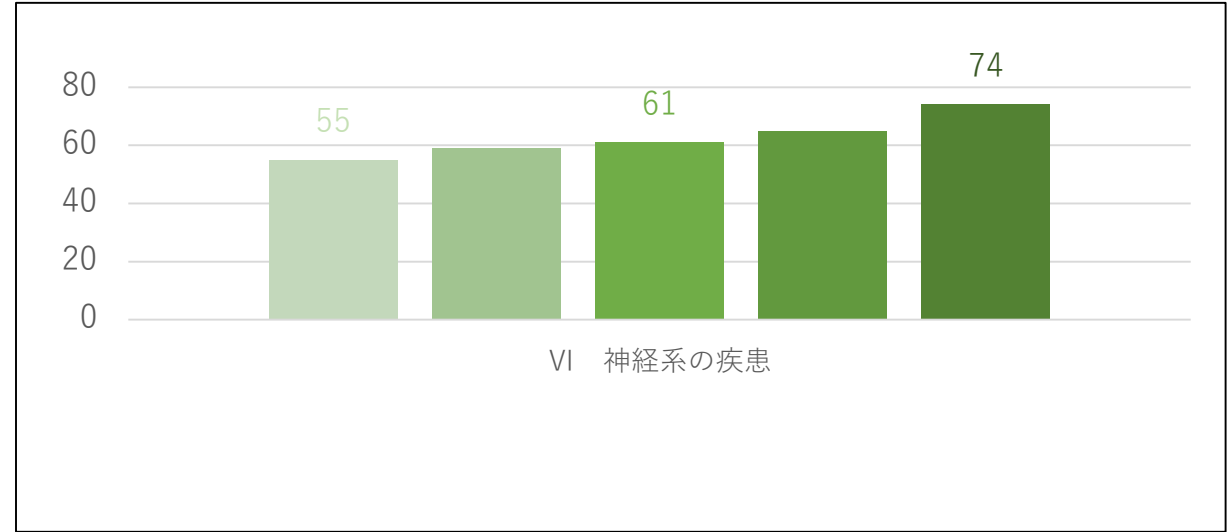
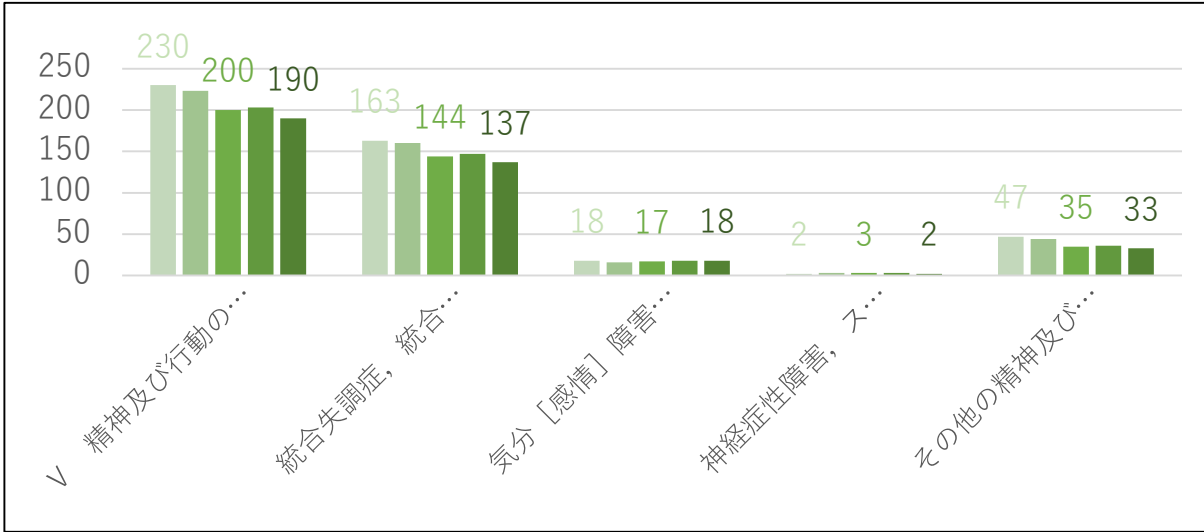
患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-栃木県、入院（X I～X X I）



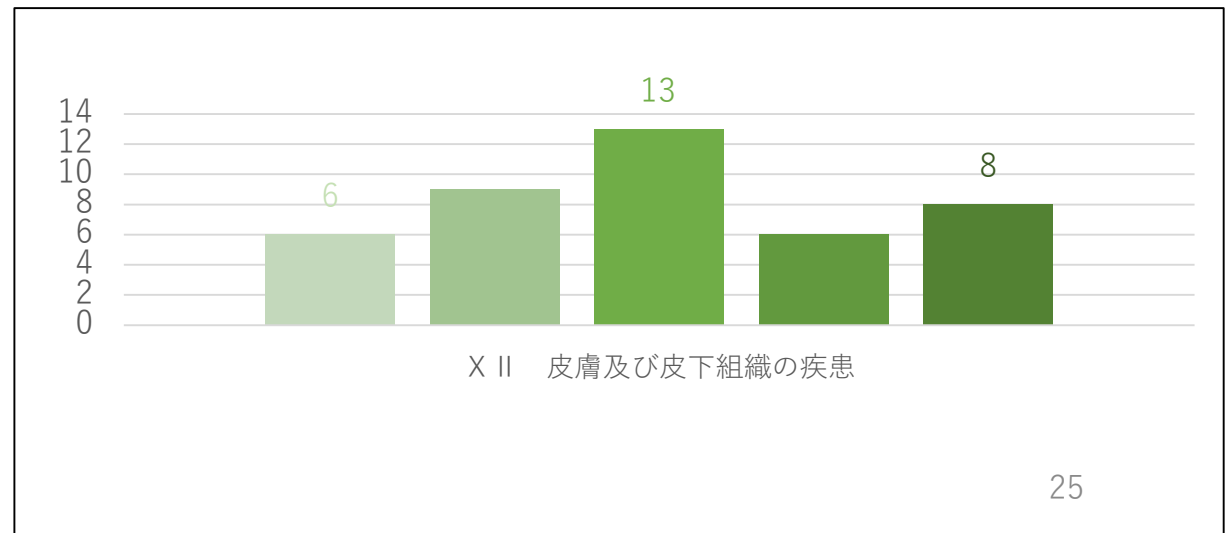
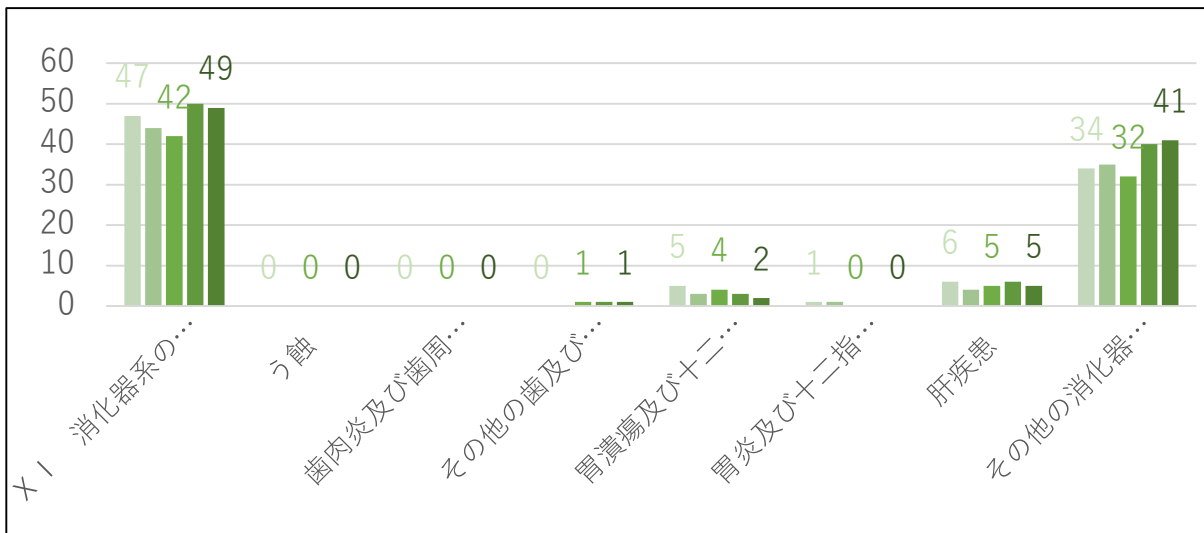
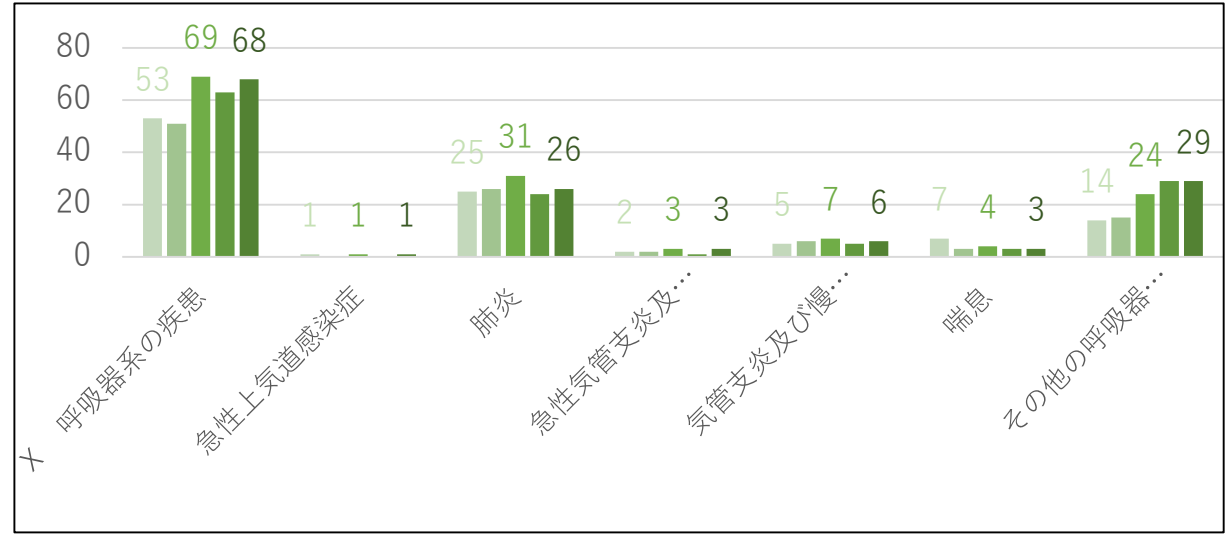
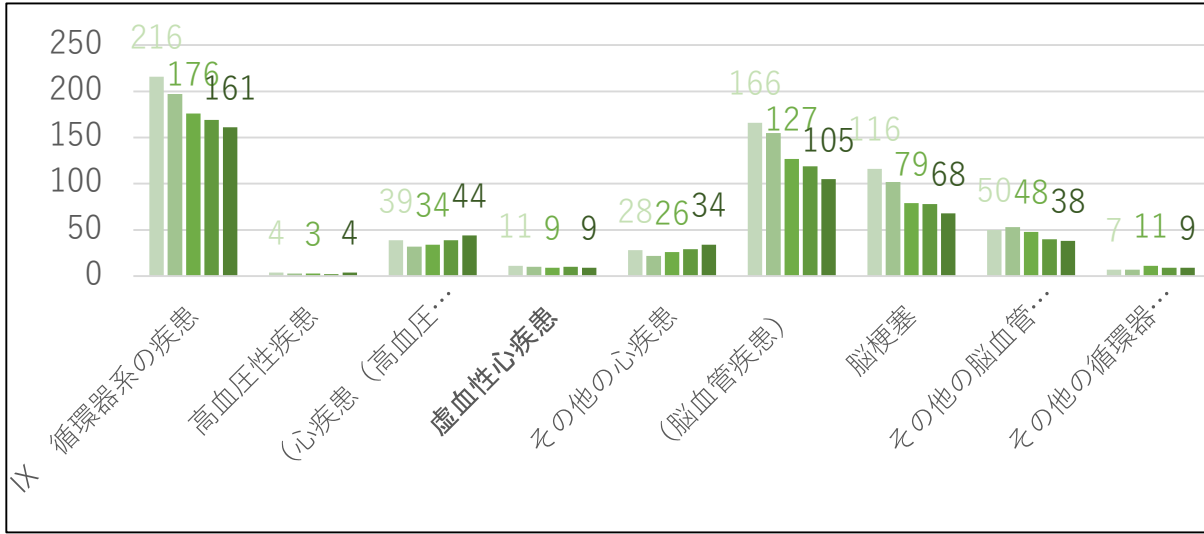
患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-栃木県、入院（Ⅰ～Ⅳ）



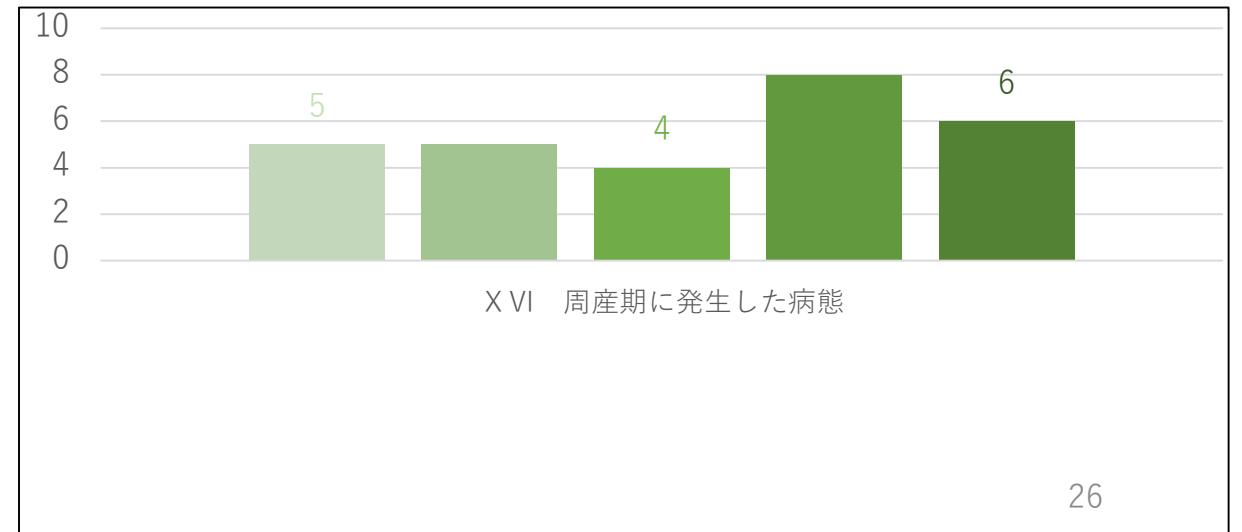
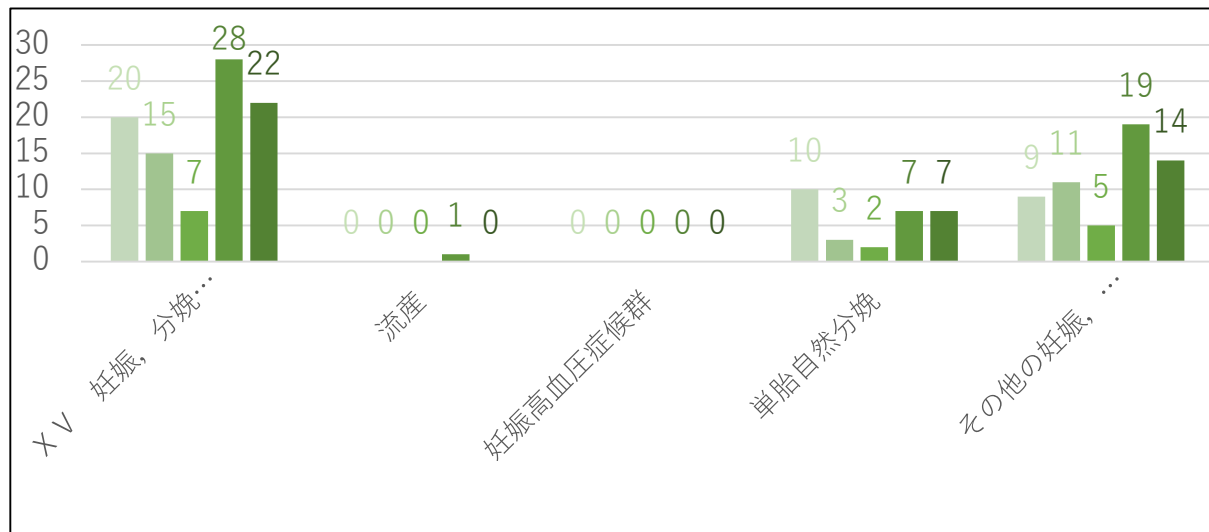
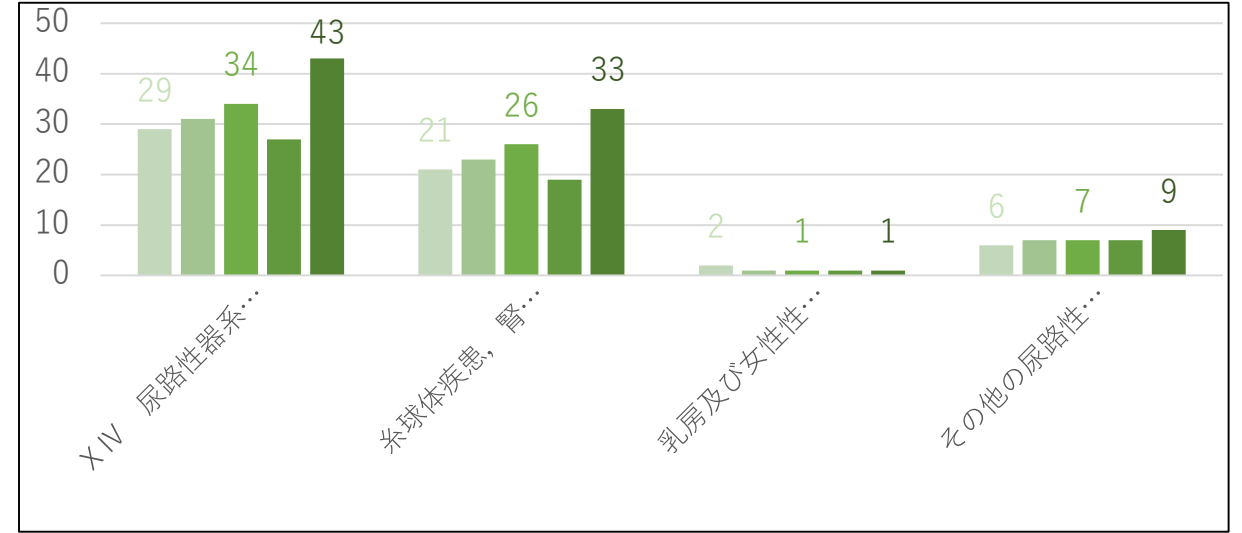
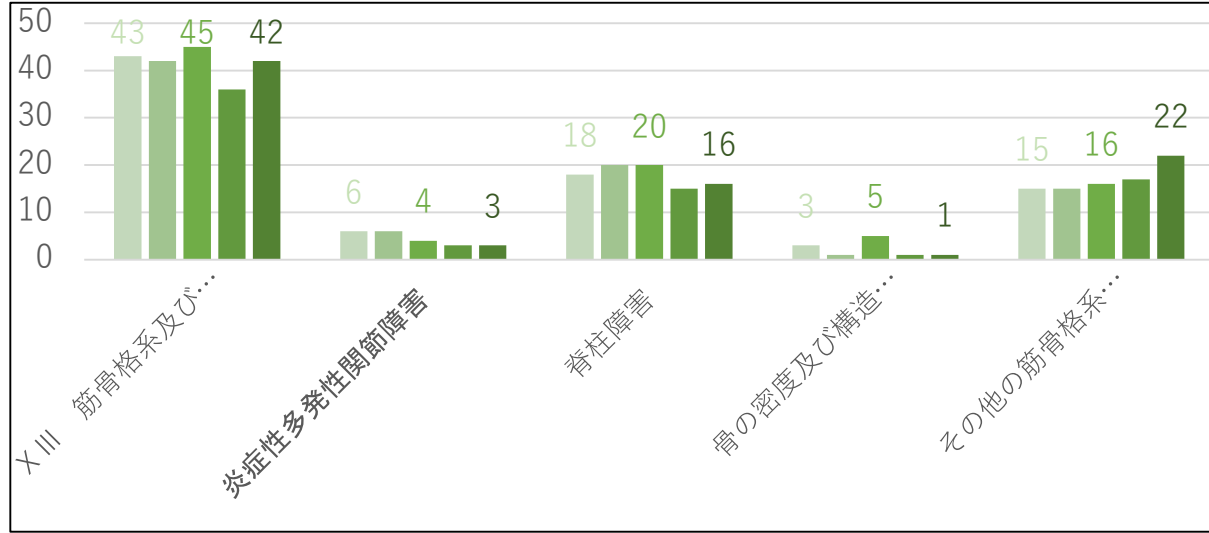
患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-栃木県、入院（Ⅴ～Ⅷ）



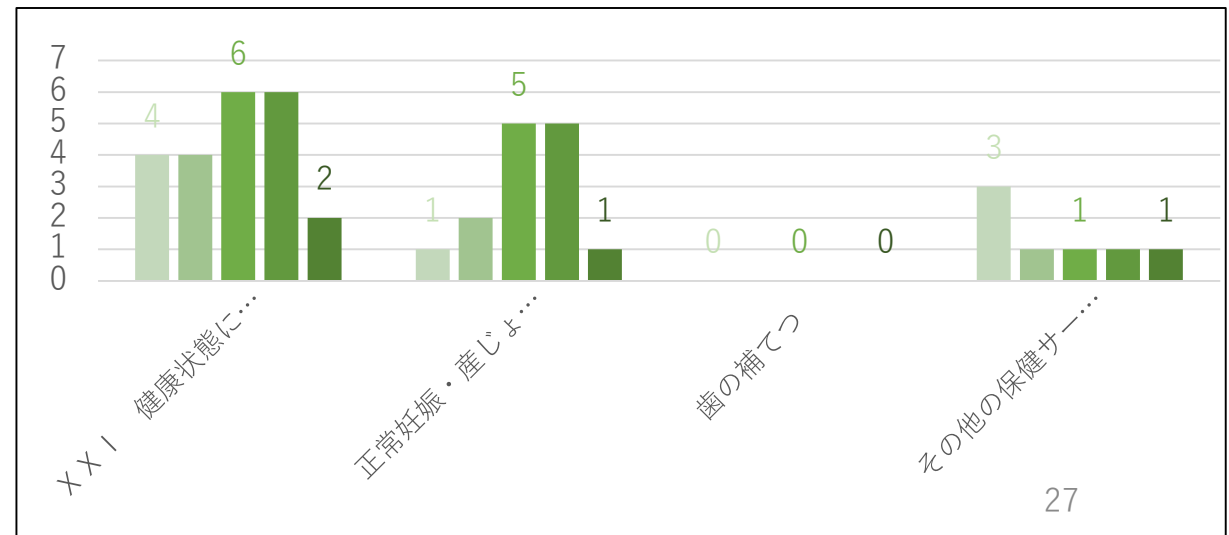
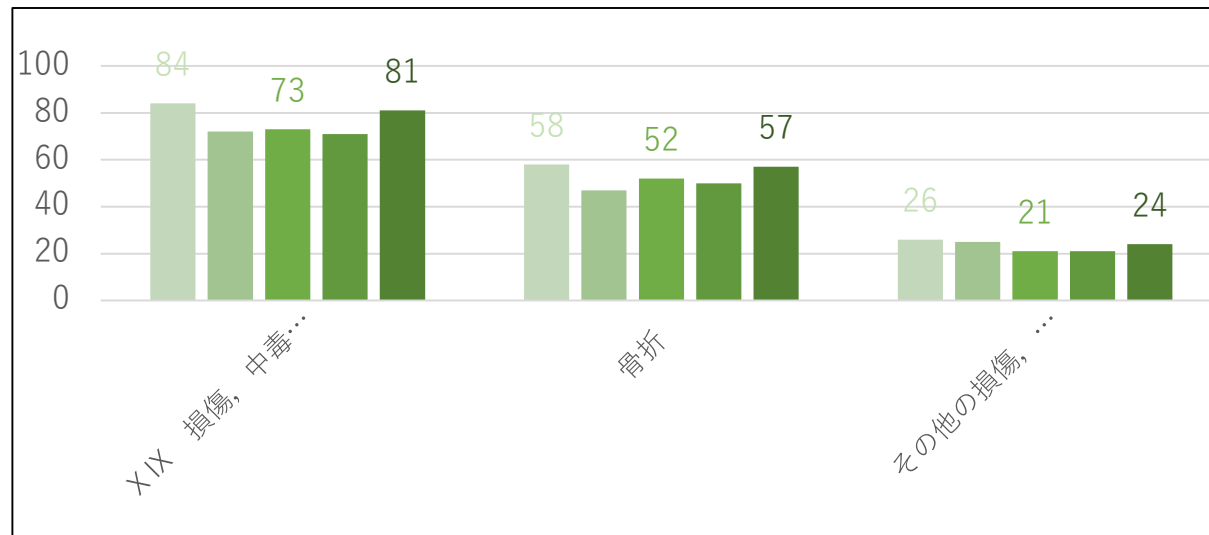
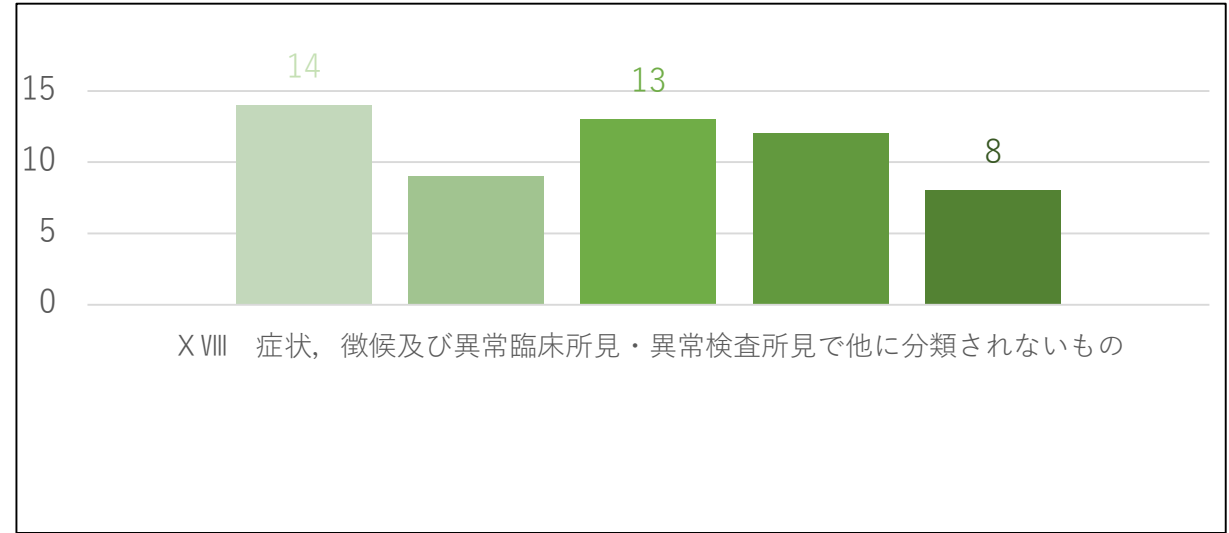
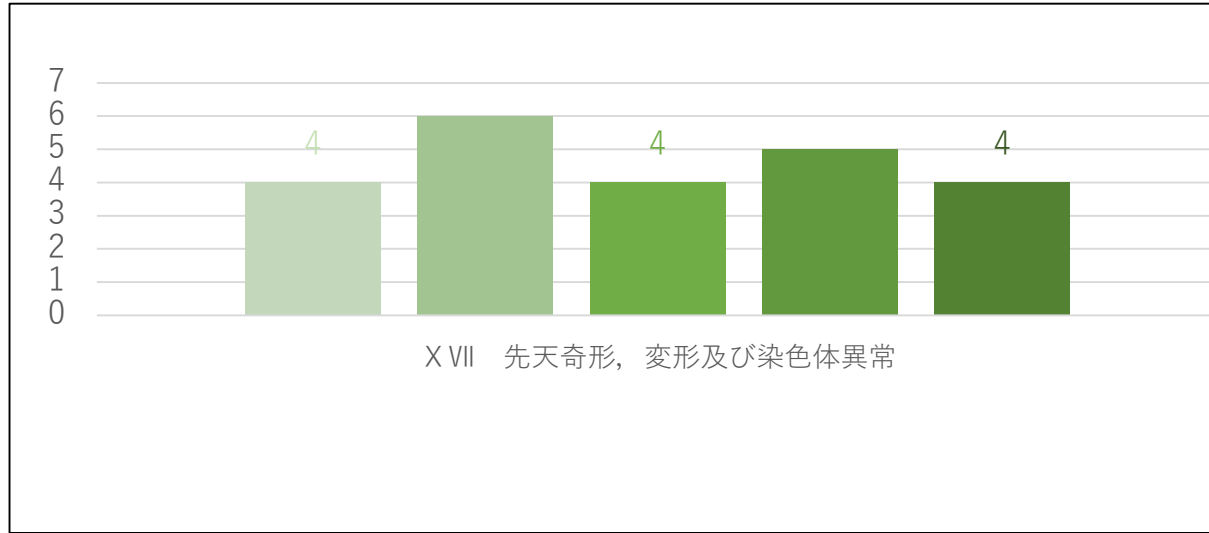
患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-栃木県、入院（IX～XII）



患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-栃木県、入院（X III～X VI）



患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-栃木県、入院（X VII～X XI）



患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-栃木県、入院

受療率（降順上位3位）：「V 精神及び行動の障害」「IX 循環器系の疾患」「II 新生物」

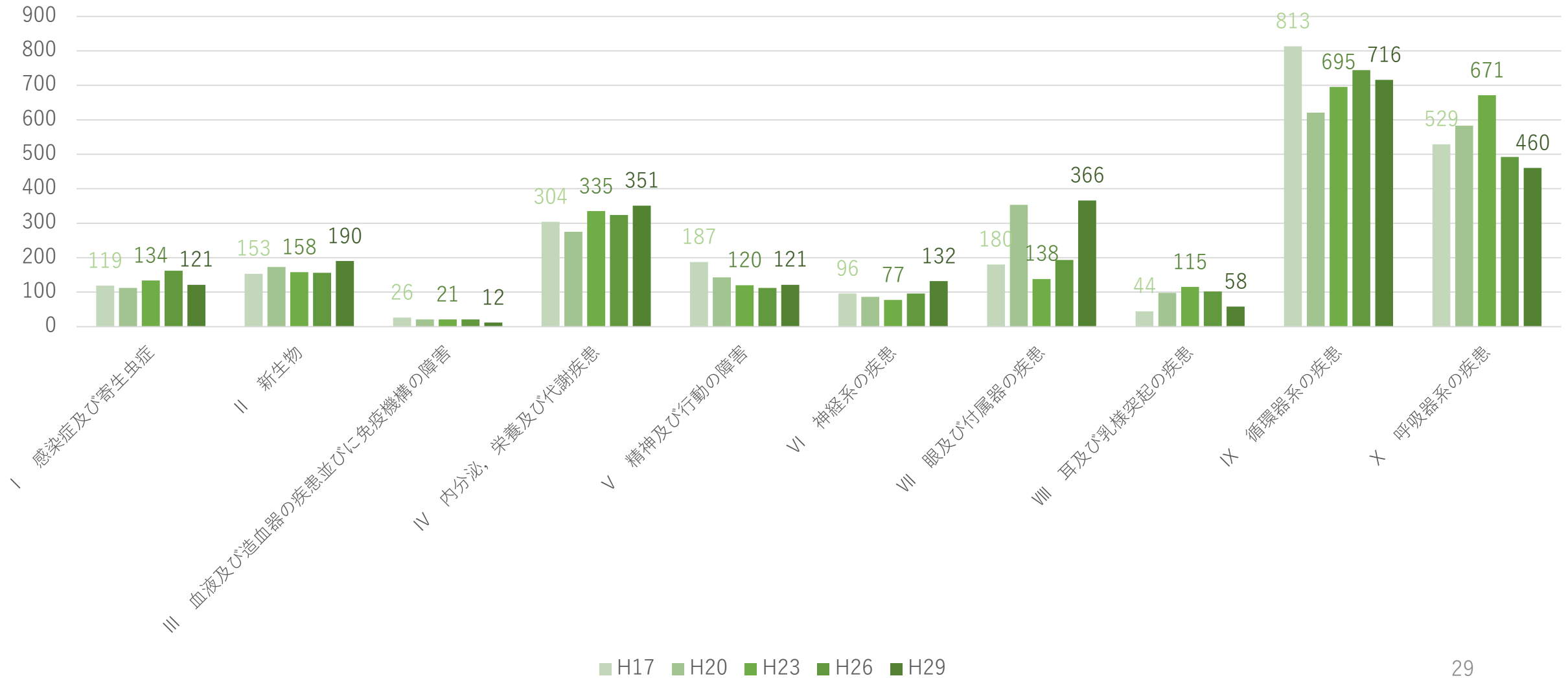
減少傾向（降順上位3位）：「IX 循環器系の疾患」「V 精神及び行動の障害」「XIX 損傷，中毒及びその他の外因の影響」

増加傾向（降順上位3位）：「VI 神経系の疾患」「X 呼吸器系の疾患」「XIV 尿路性器系の疾患」

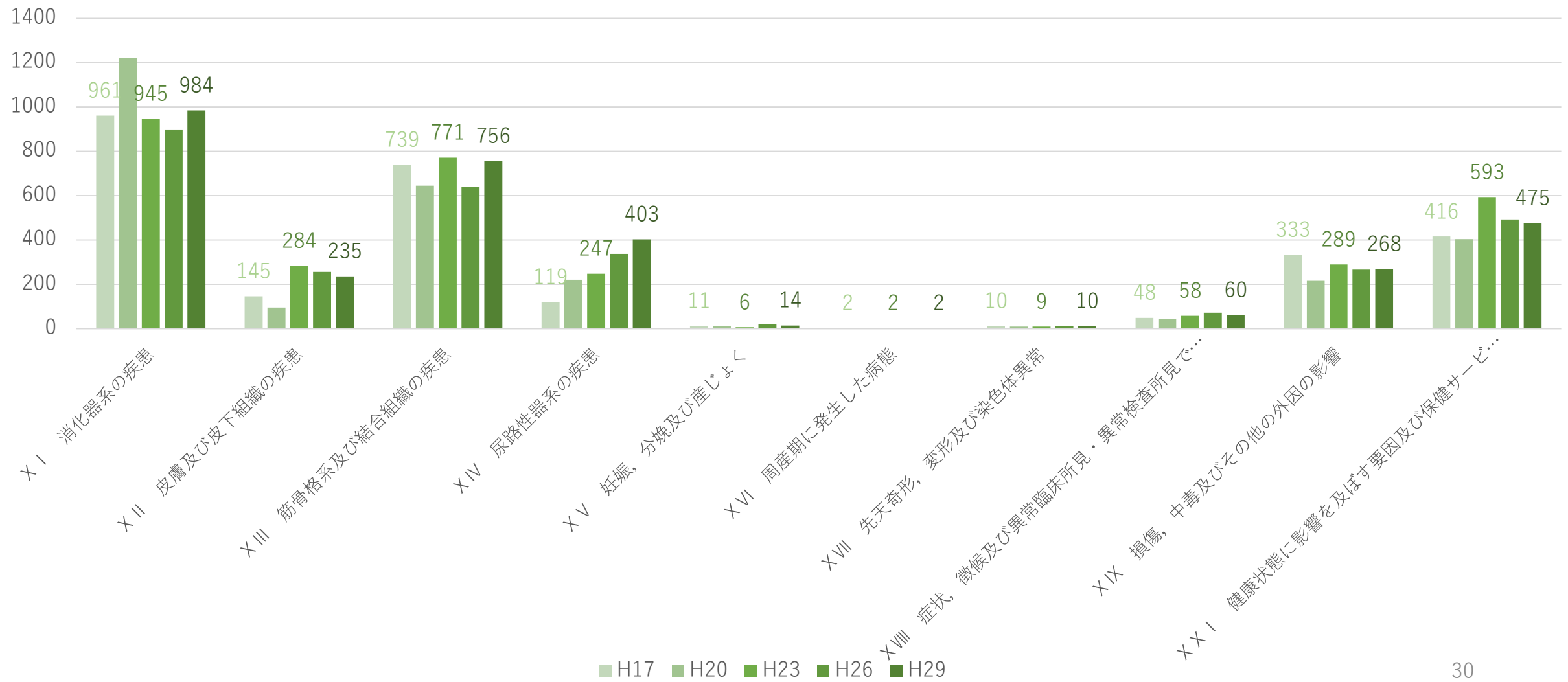
受療率（平成17年時点）			12年間での平均的な増減※		
	傷病分類	受療率		受療率	増減
1位	V 精神及び行動の障害	230	→	-40	減
2位	IX 循環器系の疾患	216	→	-55	減
3位	II 新生物	109	→	-0	減
4位	XIX 損傷，中毒及びその他の外因の影響	84	→	-3	減
5位	VI 神経系の疾患	55	→	18	増
6位	X 呼吸器系の疾患	53	→	17	増
7位	XI 消化器系の疾患	47	→	4	増
8位	XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	43	→	-3	減
9位	XIV 尿路性器系の疾患	29	→	10	増
10位	IV 内分泌，栄養及び代謝疾患	23	→	2	増

※ 平成17,20,23,26,29年の5年（通算12年）分のデータをSLOPE関数（単回帰分析）により増減を算出した。

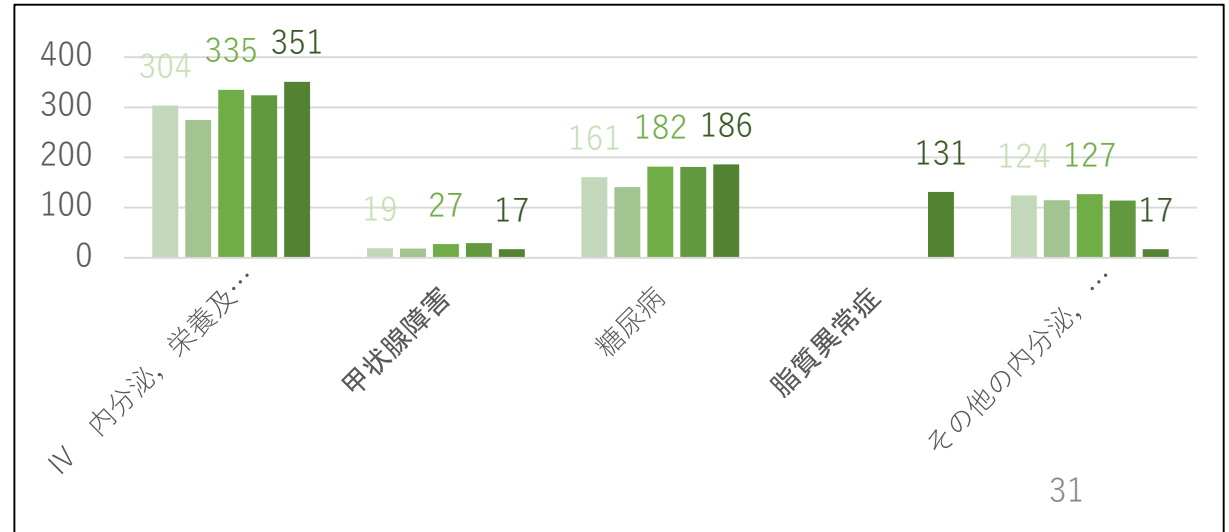
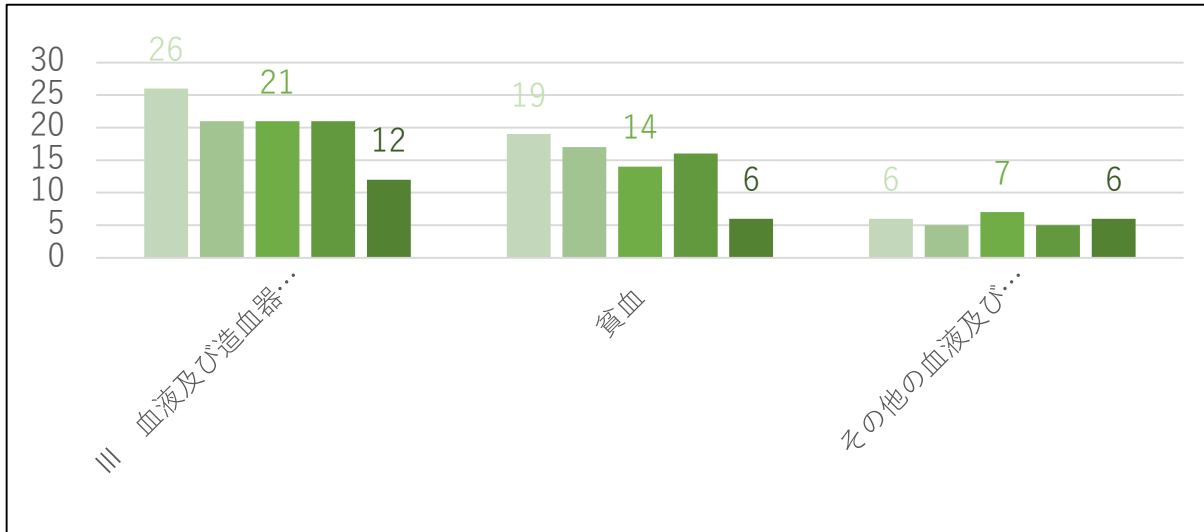
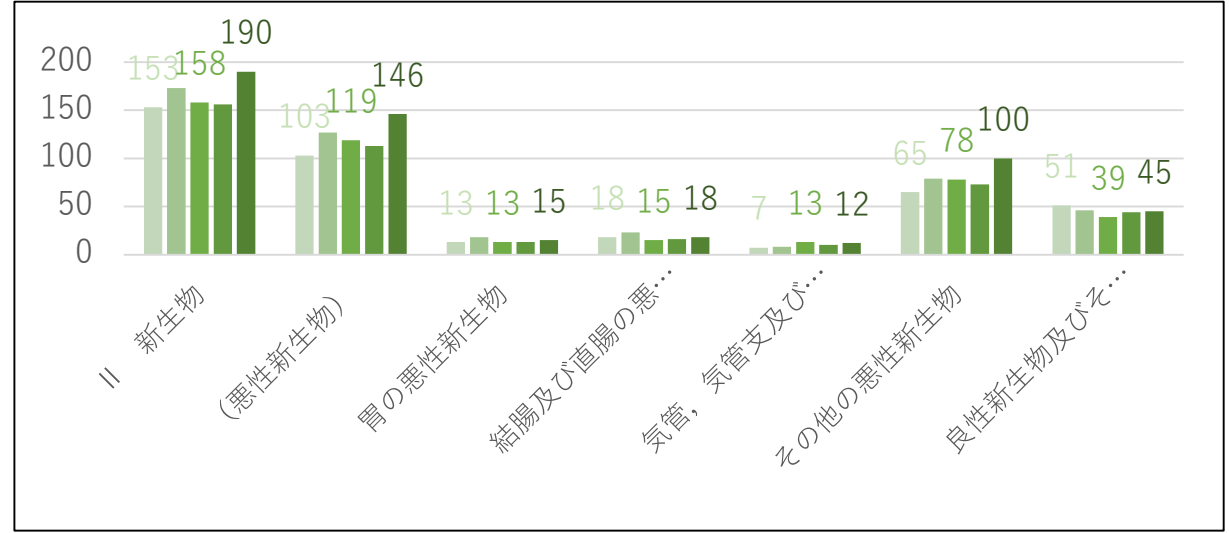
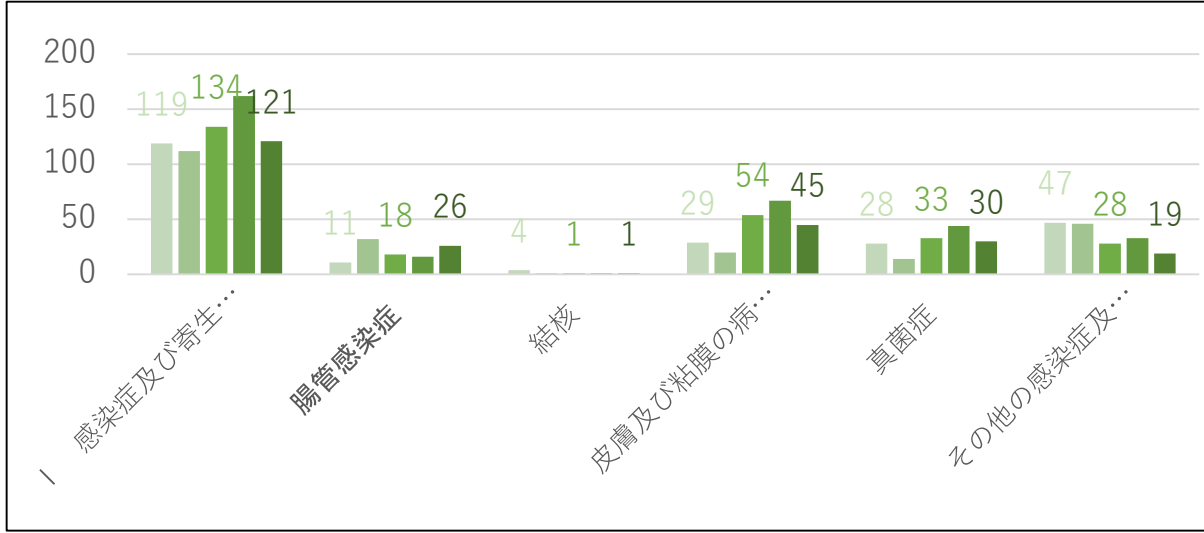
患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-栃木県、外来（Ⅰ～Ⅹ） 【総括表】



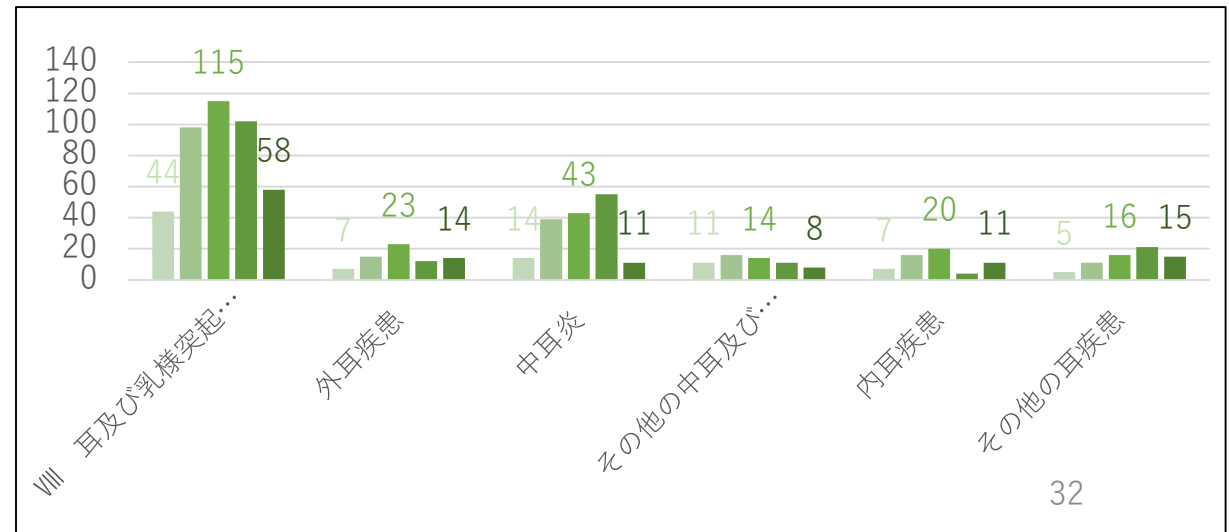
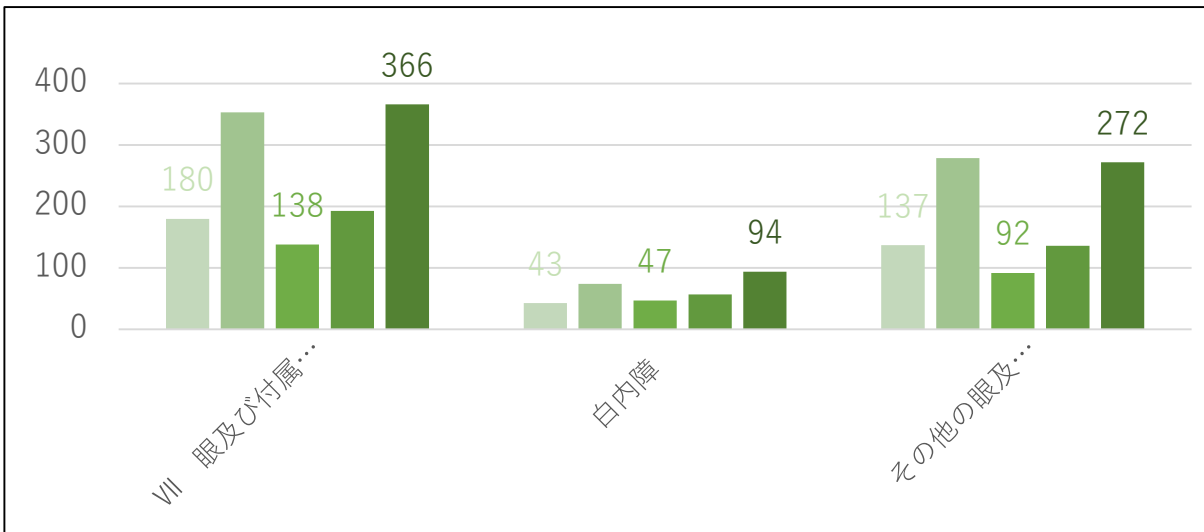
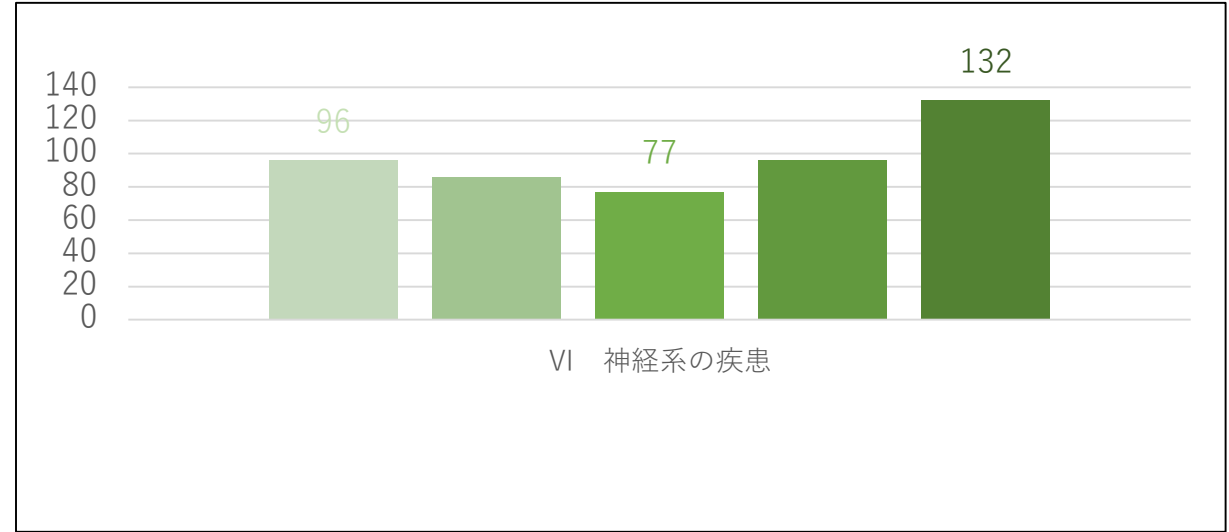
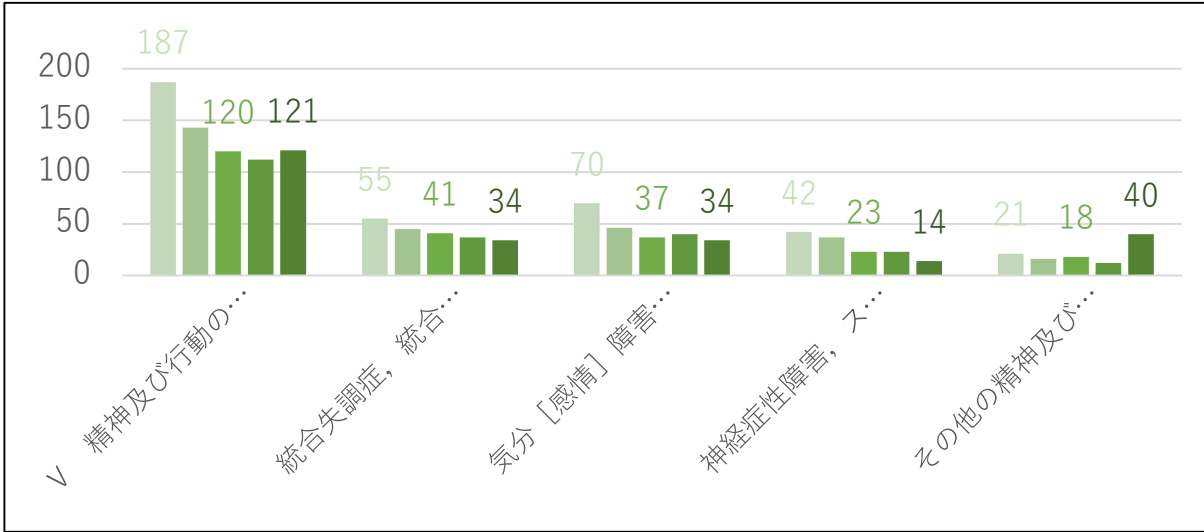
患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-栃木県、外来（Ⅰ～Ⅹ） 【総括表】



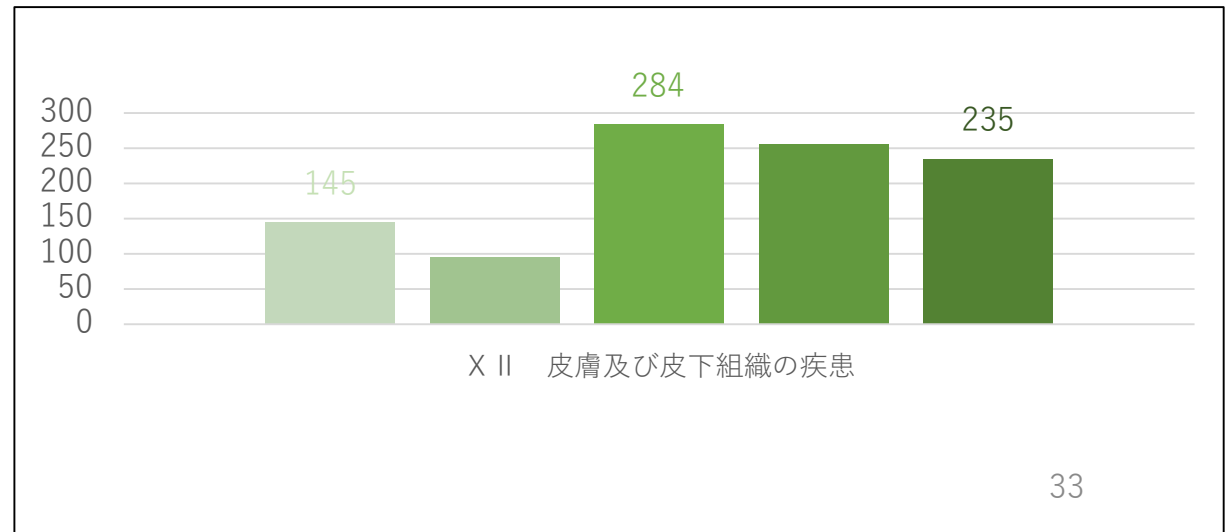
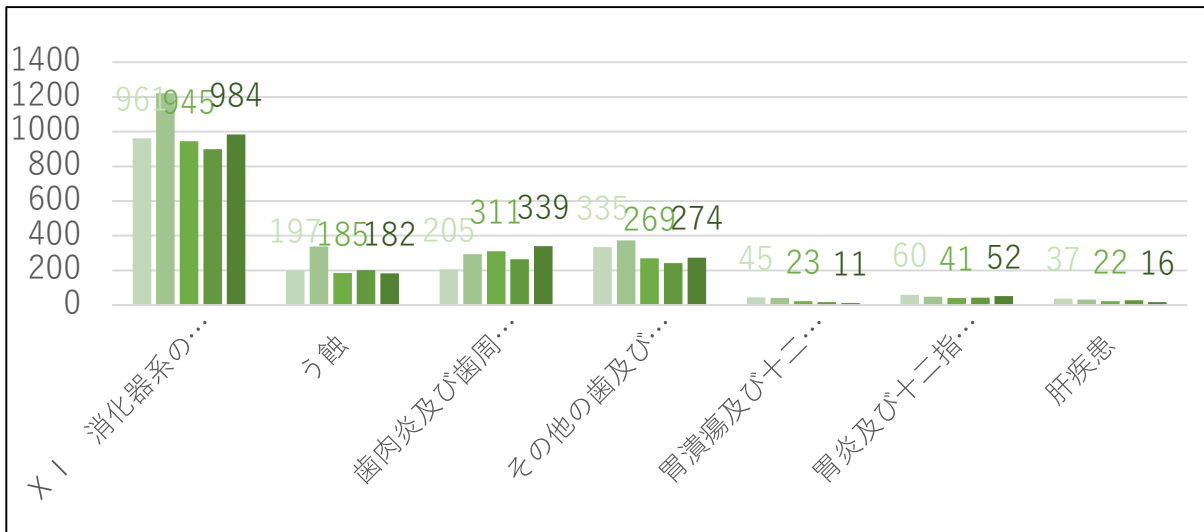
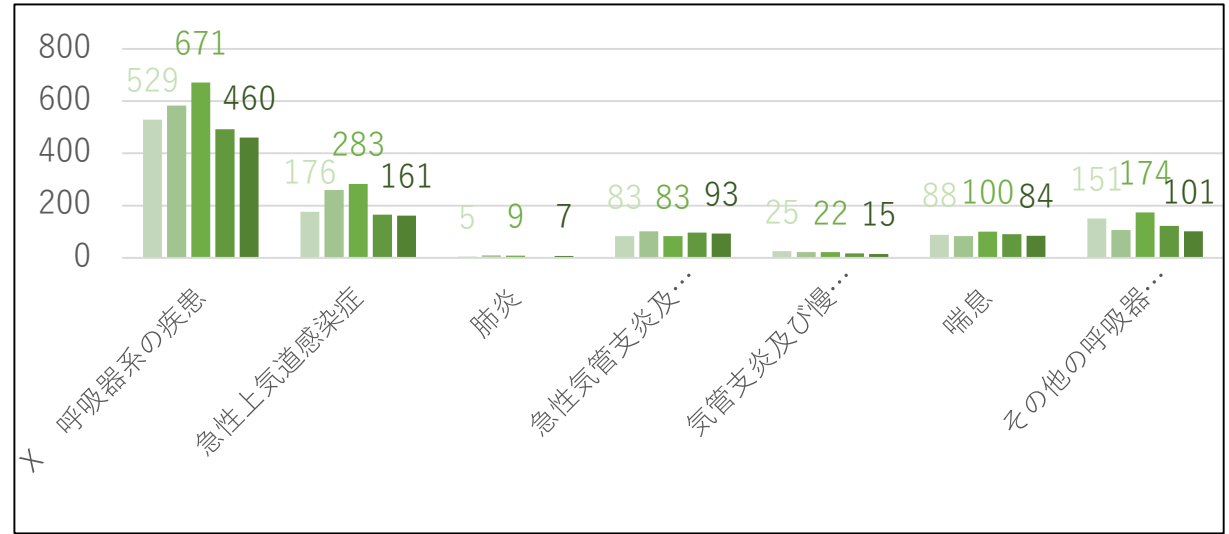
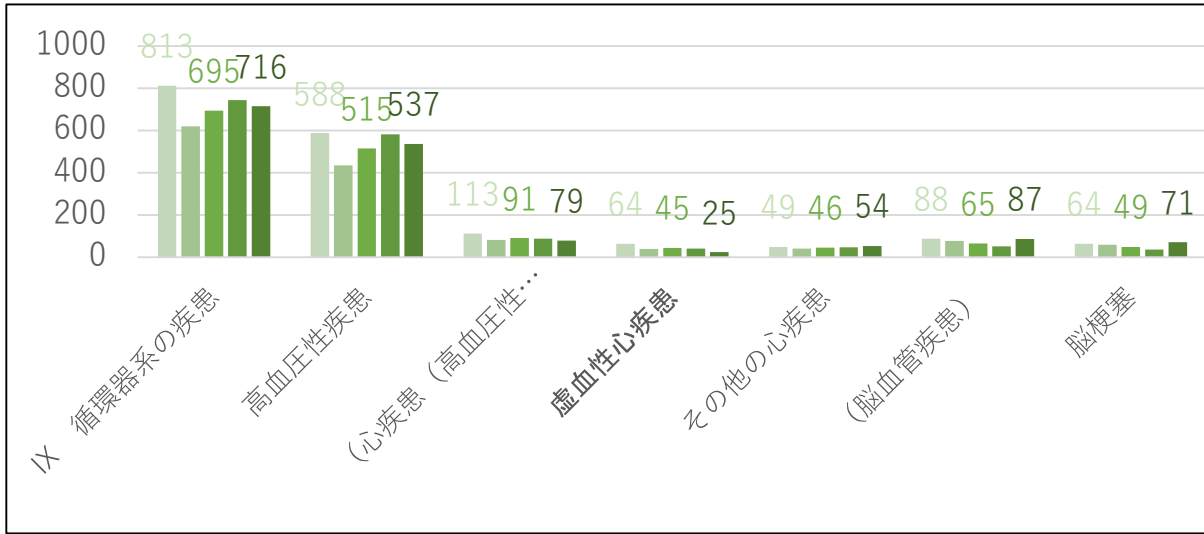
患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-栃木県、外来（Ⅰ～Ⅳ）



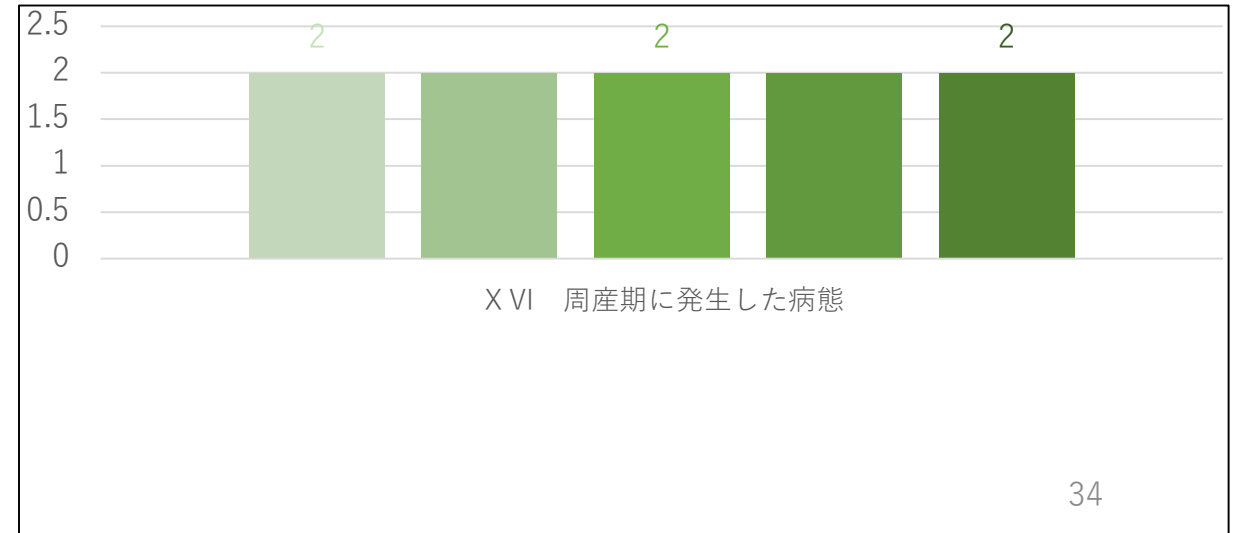
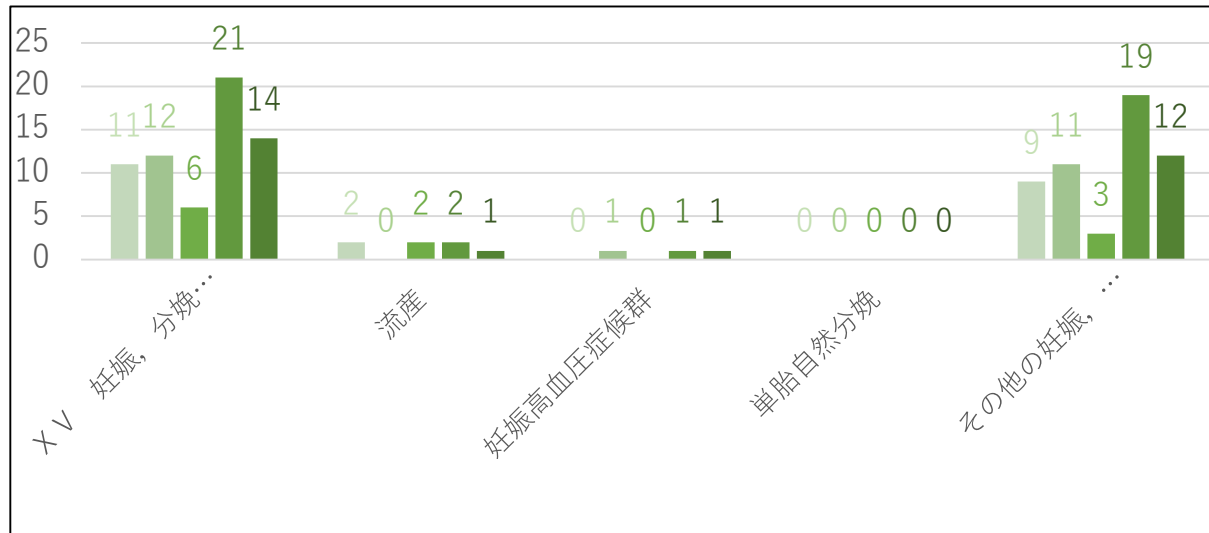
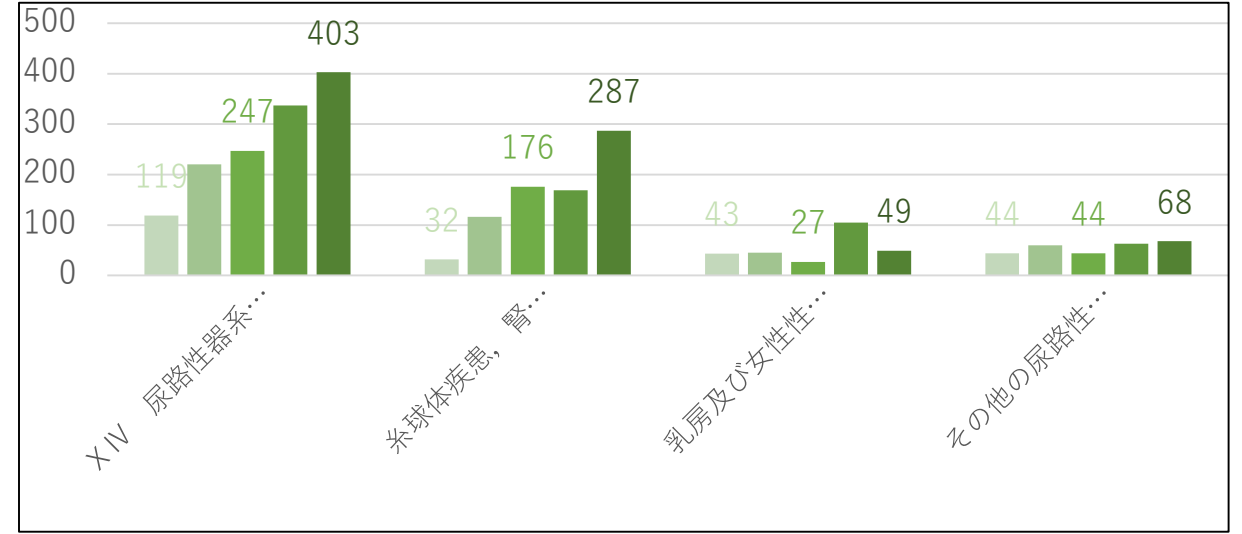
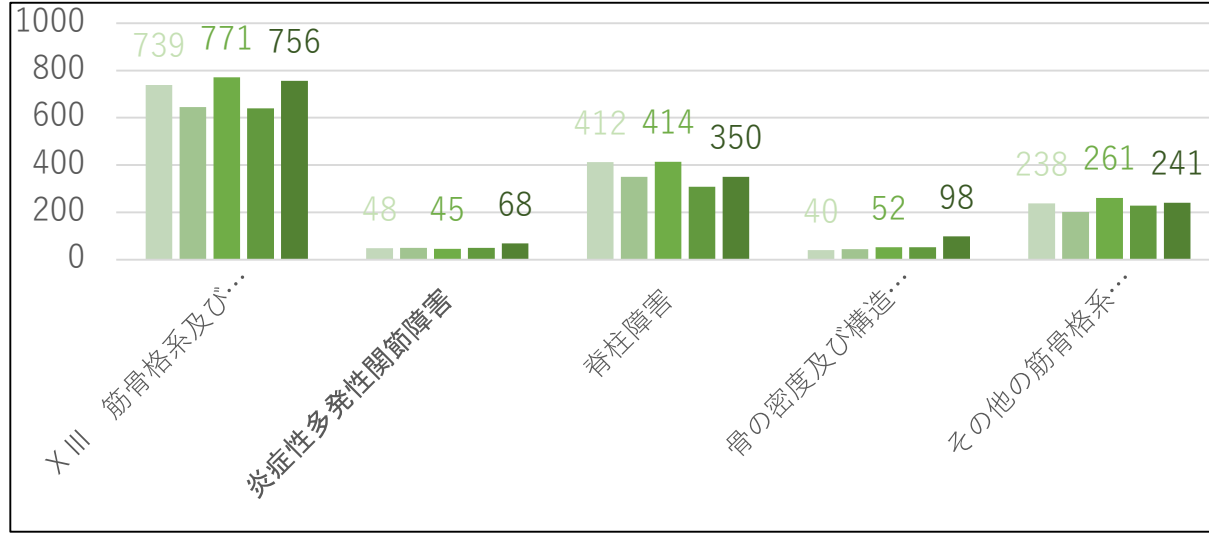
患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-栃木県、外来（Ⅴ～Ⅷ）



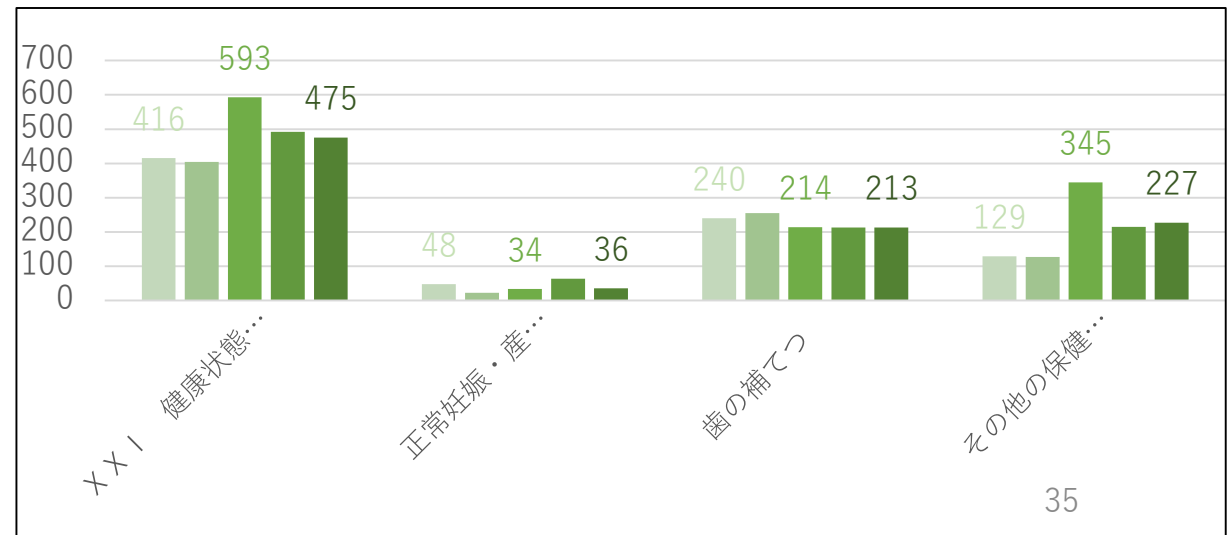
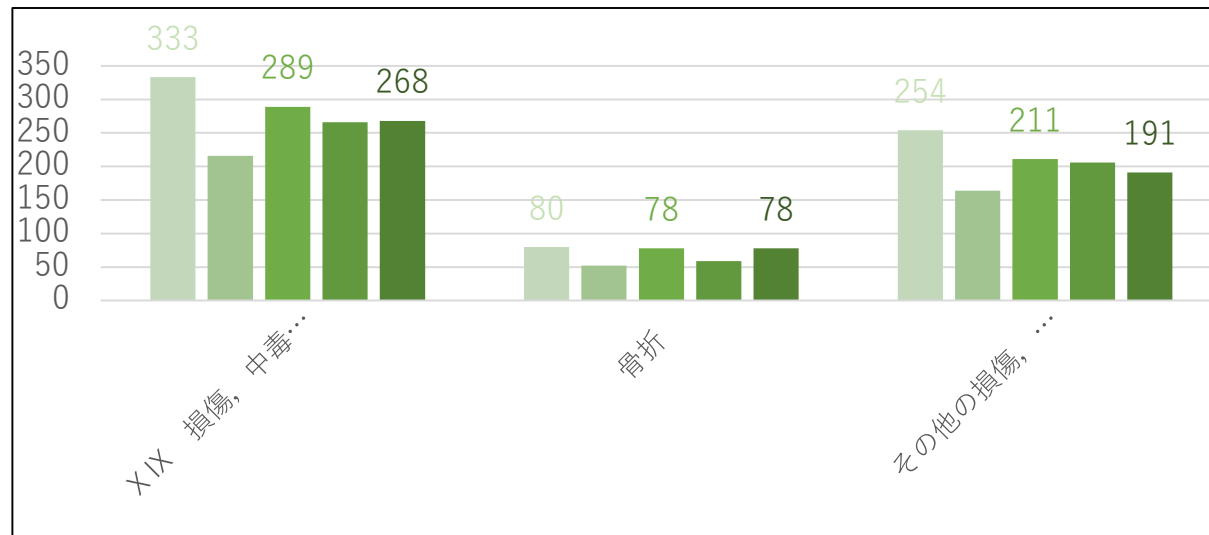
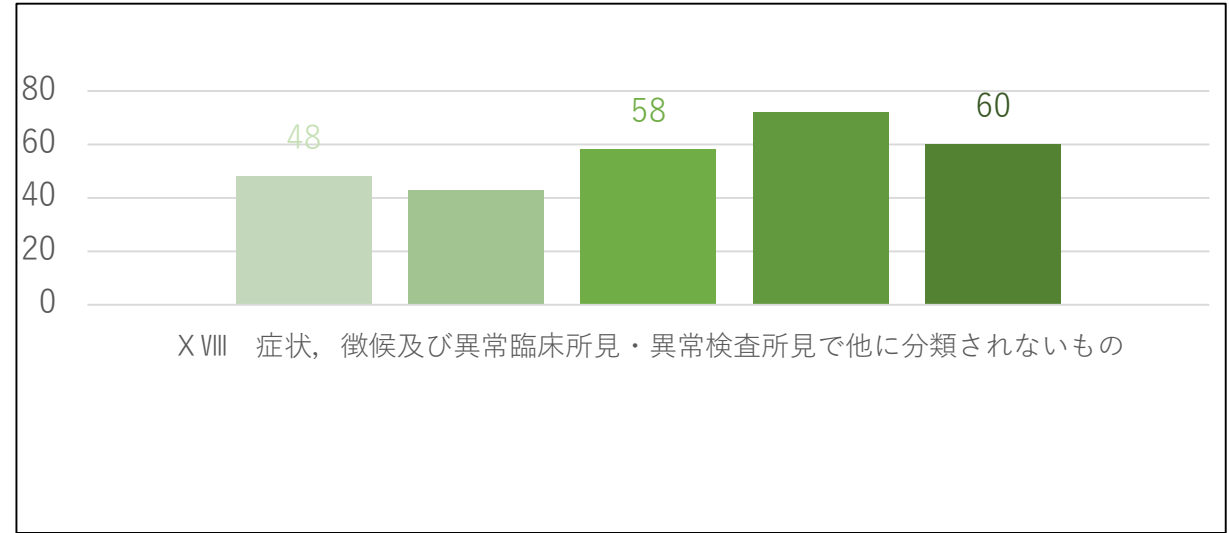
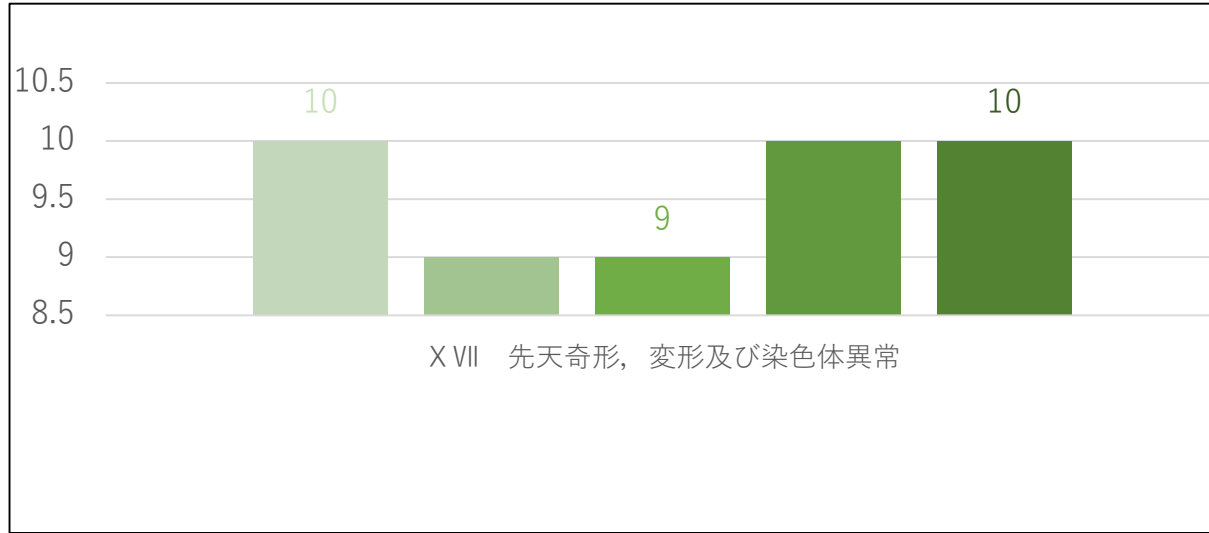
患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-栃木県、外来（IX～XII）



患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-栃木県、外来（X III～X VI）



患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-栃木県、外来（X VII～X XI）



患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-栃木県、外来

受療率（降順上位3位）：「X I 消化器系の疾患」「IX 循環器系の疾患」「X III 筋骨格系及び結合組織の疾患」

減少傾向（降順上位3位）：「X I 消化器系の疾患」「X 呼吸器系の疾患」「V 精神及び行動の障害」

増加傾向（降順上位3位）：「VII 眼及び付属器の疾患」「X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」「IV内分泌，栄養及び代謝疾患」

		受療率（平成17年時点）		12年間での平均的な増減	
		傷病分類	受療率	受療率	増減
1位	X I	消化器系の疾患	961	→	-111 減
2位	IX	循環器系の疾患	813	→	-28 減
3位	X III	筋骨格系及び結合組織の疾患	739	→	12 増
4位	X	呼吸器系の疾患	529	→	-92 減
5位	X X I	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	416	→	82 増
6位	X IX	損傷，中毒及びその他の外因の影響	333	→	-32 減
7位	IV	内分泌，栄養及び代謝疾患	304	→	57 増
8位	V	精神及び行動の障害	187	→	-65 減
9位	VII	眼及び付属器の疾患	180	→	85 増
10位	II	新生物	153	→	23 増

※ 平成17,20,23,26,29年の5年（通算12年）分のデータをSLOPE関数（単回帰分析）により増減を算出した。

患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-全国・栃木県比較（入院）

- 受療率が高い疾病の順番は全国と栃木県で同じ。
- 「X IX 損傷，中毒及びその他の外因の影響」「X III 筋骨格系及び結合組織の疾患」は全国では増加傾向である一方、栃木県では減少傾向
- 「X I 消化器系の疾患」「IV 内分泌，栄養及び代謝疾患」は全国では減少傾向である一方、栃木県では増加傾向

全国		12年間での平均的な増減 ※	
全国の受療率（平成17年時点）		受療率	増減
傷病分類			
1位	V 精神及び行動の障害	-56	減
2位	IX 循環器系の疾患	-67	減
3位	II 新生物	-21	減
4位	X IX 損傷，中毒及びその他の外因の影響	12	増
5位	VI 神経系の疾患	24	増
6位	X 呼吸器系の疾患	13	増
7位	X I 消化器系の疾患	-4	減
8位	X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	2	増
9位	X IV 尿路性器系の疾患	3	増
10位	IV 内分泌，栄養及び代謝疾患	-5	減

栃木県		12年間での平均的な増減 ※	
栃木県の受療率（平成17年時点）		受療率	増減
傷病分類			
1位	V 精神及び行動の障害	-40	減
2位	IX 循環器系の疾患	-55	減
3位	II 新生物	-0	減
4位	X IX 損傷，中毒及びその他の外因の影響	-3	減
5位	VI 神経系の疾患	18	増
6位	X 呼吸器系の疾患	17	増
7位	X I 消化器系の疾患	4	増
8位	X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	-3	減
9位	X IV 尿路性器系の疾患	10	増
10位	IV 内分泌，栄養及び代謝疾患	2	増

※ 平成17,20,23,26,29年の5年（通算12年）分のデータをSLOPE関数（単回帰分析）により増減を算出した。

患者調査の受療率推移（平成17年～平成29年）-全国・栃木県比較（外来）

- 受療率が高い疾病の順番は、上位は概ね同じであるが、下位は全国では「X II 皮膚及び皮下組織の疾患」「X IV 尿路性器系の疾患」が入っているが、栃木県では「V 精神及び行動の障害」「II 新生物」が入っている。
- 「X I 消化器系の疾患」は全国では増加傾向である一方、栃木県では減少傾向
- 「X III 筋骨格系及び結合組織の疾患」は全国では減少傾向である一方、栃木県では増加傾向

		受療率（平成17年時点）	12年間での平均的な増減 ※	
		傷病分類	受療率	増減
1位	X I	消化器系の疾患	22	増
2位	X III	筋骨格系及び結合組織の疾患	-81	減
3位	IX	循環器系の疾患	-20	減
4位	X	呼吸器系の疾患	-70	減
5位	XX I	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	163	増
6位	IV	内分泌、栄養及び代謝疾患	66	増
7位	VII	眼及び付属器の疾患	40	増
8位	X IX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	-5	減
9位	X II	皮膚及び皮下組織の疾患	36	増
10位	X IV	尿路性器系の疾患	44	増

		受療率（平成17年時点）	12年間での平均的な増減	
		傷病分類	受療率	増減
1位	X I	消化器系の疾患	-111	減
2位	IX	循環器系の疾患	-28	減
3位	X III	筋骨格系及び結合組織の疾患	12	増
4位	X	呼吸器系の疾患	-92	減
5位	XX I	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	82	増
6位	X IX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	-32	減
7位	IV	内分泌、栄養及び代謝疾患	57	増
8位	V	精神及び行動の障害	-65	減
9位	VII	眼及び付属器の疾患	85	増
10位	II	新生物	23	増

※ 平成17,20,23,26,29年の5年（通算12年）分のデータをSLOPE関数（単回帰分析）により増減を算出した。